ONKYO®

AVアンプ

TX-NA900

取扱説明書

箱を開けたら、まず

DVDホームシアター
早わかりガイド

機能と接続

音楽／映画を鑑賞する

いろいろなセットアップ

リモコンを使う

その他

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書と
ともに大切に保管してください。

主な特長

■ ルーカスフィルム社が提唱する「THX® Select」規格に準拠

■ THXサラウンドEX

■ ドルビー*デジタル、ドルビープロロジック II、ドルビーデジタルEXサラウンド再生可能

■ DTS*、DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1、DTS Neo:6、DTS 96/24サラウンド再生可能

■ MPEG-2 AAC再生可能

■ 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成するVLSC（Vector（ベクター） Linear（リニア） Shaping（シェーピング） Circuitry（サーキット））搭載

■ MP3/WAV/WMAフォーマットの音楽ファイルを再生可能、ネットオーディオ機能

■ 再生周波数の広帯域化（10Hz～100kHz）を実現する技術WRAT（Wide Range Amplifier Technology）

■ 信号のノイズ領域との近接を回避して聴感上のS/Nを向上させるリニア・オプティマム・ゲイン・ボリューム回路

■ ダウンミックスによるフロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路

■ DVD-Audioプレーヤーなどへの拡張性を実現する7.1チャンネル入力端子装備

■ 小音量でもサラウンドを楽しめる「レイト・ナイト（LATE NIGHT）」機能

■ 「ベーシック」と「アドバンスト」の2メニューのオンスクリーン機能

■ ビデオコンバーター機能搭載

■ D4/コンポーネント映像入力端子2系統、出力端子1系統

■ S映像入力端子6系統/出力端子3系統

■ デジタル入力端子として光5系統、同軸3系統、デジタル出力端子として光2系統

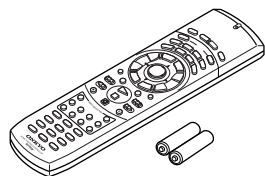
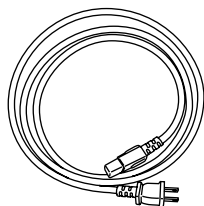
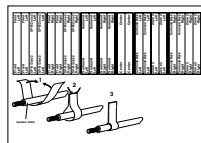
■ 入力機器に名前をつけるキャラクターインプット機能

■ 他機の操作および短縮操作を可能にするラーニング＆プリプログラムド、マクロ機能搭載のバックライト付リモコン付属

THX Select
THX Selectの認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されているTHX Selectのロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Selectの要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX Selectレシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX技術(THXモード、57ページ参照)を備えています。

※カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品名の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

付属品を確認する

本機に以下の付属品が含まれているかどうかを確認してください。（　）内の数字は個数を表します。

リモコン（RC-511M）…（1）
乾電池（単三型）…（2）

電源コード… （1）

スピーカーコード用
ラベル…（1）
（31ページ参照）

取扱説明書…（本書1）
取扱説明書（ネットオーディオを楽しむには）…（1）
保証書…（1）

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、Dolby、Surround EX、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

- ルーカスフィルムTHX、THXは、THX社の商標または登録商標です。
- Re-Equalization、Re-EQロゴは、THX社の商標です。
- 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS-ES Extended Surround”および“Neo:6”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。
- Theater-Dimensionalはオンキヨー株式会社の商標です。
- NET-TUNEおよびネットチューンはオンキヨー株式会社の商標です。
- Designed for Windows Media™ Windows Media、Windowsロゴは米国マイクロソフト社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel、Pentiumは、米国インテル社の登録商標です。
- “XiVA”はImerge社の登録商標です。
- AAC パテントマーキング

Pat. 5,848,391	5,291,557	5,451,954	5 400 433	5,222,189	5,357,594	5 752 225
5,394,473	5,583,962	5,274,740	5,633,981	5 297 236	4,914,701	5,235,671
07/640,550	5,579,430	08/678,666	98/03037	97/02875	97/02874	98/03036
5,227,788	5,285,498	5,481,614	5,592,584	5,781,888	08/039,478	08/211,547
5,703,999	08/557,046	08/894,844	5,299,238	5,299,239	5,299,240	5,197,087
5,490,170	5,264,846	5,268,685	5,375,189	5,581,654	5,548,574	5,717,821

目次

箱を開けたらまず

DVDホームシアター早分かりガイド

機器・操作別早見ガイド

- 別室で音楽を楽しむ
- アナログマルチチャンネルで楽しむ
- FM/AMラジオ放送を楽しむ
- CDやテープ、MDを楽しむ
- DVDやビデオでホームシアターを楽しむ

機能と接続

ページ

はじめてお使いになるときは、接続しているスピーカーや配置に合わせて47～49ページのスピーカー設定をしましょう。一度設定をしておくと、次にスピーカー配置を変えるまで、変更する必要はありません。

目次

目次の見かた

目次は大きく7つの項目に分けられています。
まず最初に製品を開けたときには、「箱を開けたらまず」をご覧ください。
また、すぐにもDVDホームシアターを楽しみたい方のために、「DVDホームシアター早分かりガイド」を設けています。
次に、「機能と接続」「音楽/映画を鑑賞する」「いろいろなセットアップ」「リモコンを使う」「その他」の順に分けられています。グレーの囲みのページは、すべての機器や操作に関わる説明が記載されており、ぜひ目を通していただきたいページです。
また、接続している機器や操作別に探せるように、5種類の早見ガイドを右側に設けています。その機器や操作に必要なページは黒い帯になっています。中に数字が書いてある場合は、その項目の中でも特に関係のあるページです。ここでは基本的な操作のみの抜粋ですので、より詳しく知りたい場合は、他のページもご覧ください。

音楽／映画を鑑賞する

ページ

目次

機器・操作別早見ガイド

別室で音楽を楽しむ
アナログマルチチャンネルで楽しむ
FM/AMラジオ放送を楽しむ
CDやテープ、MDを楽しむ
DVDやビデオでホームシアターを楽しむ

いろいろなセットアップ

ページ

接続した機器やスピーカーの接続に合わせて、本機をセットアップします。
本機の表示部だけでなく、テレビの画面を見ながら設定することもできます。
正しい音場効果を得るためには大切な手順です。

51

目次

機器・操作別早見ガイド

別室で音楽を楽しむ
アナログマルチチャンネルで楽しむ
FM/AMラジオ放送を楽しむ
CDやテープ、MDを楽しむ
DVDやビデオでホームシアターを楽しむ

リモコンを使う

ページ

リモコン操作したい機器がオンキヨー製品の場合はこの項目をご覧ください。

リモコン操作したい機器が他社の製品の場合はこの項目をご覧ください。

その他

困ったときにお読みください。
また、製品の仕様、保証やアフターサービスについての情報なども記載しています。

オーディオ機器の正しい使いかた

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品の表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでくだい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

- 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
  本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
  - 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  - 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  - テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
  - 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

- 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

● 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら、機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- この機器は非常に重いので持ち運びは必ず二人以上で行ってください。けがや腰痛の原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■ 電池について

● 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

● 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
● 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ スピーカーコードについて

● スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

● お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

● 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
● 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

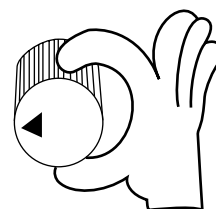
● シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

● 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

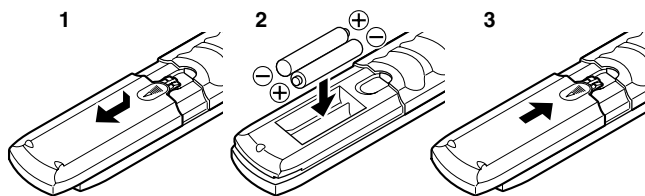
音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。

隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

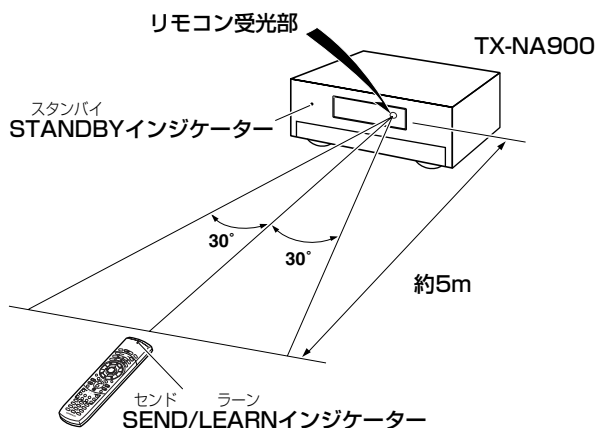
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

準備をする

リモコンに乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらしてあける
2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる
3. カバーを戻す

ご注意

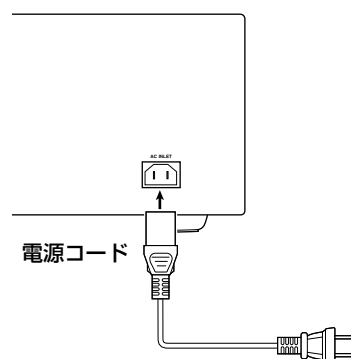
- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
  電池の交換時には、単3型をご使用ください。

リモコンを使うには

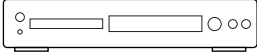
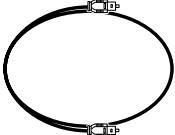
リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のスタンバイインジケーターが点灯します。

ご注意

- リモコン受光部に直射日光やインバーター蛍光灯などの強い光を当てないでください。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

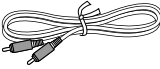
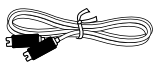
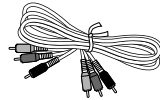
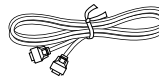
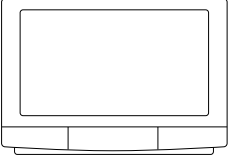
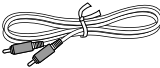
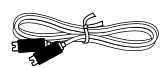
付属の電源コードを接続する

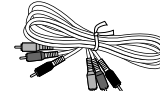
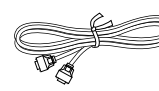
付属の電源コードを本機背面のAC INLET（エーシーインレット）に接続します。

オーディオ機器を接続するまでは、壁コンセントに接続しないでください。

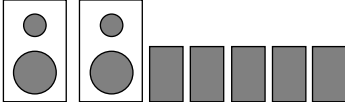
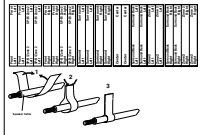
ご注意

- 付属の電源コード以外は使用しないでください。この電源コードは本機専用です。他の機器に使用しないでください。
- 家庭用コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で本電源ソケットから電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードは、接続するときは最後に家庭用コンセントに接続し、抜くときには最初に家庭用コンセントから抜いてください。

DVD ホームシアター早わかりガイド

お手持ちのDVDプレーヤー、テレビ、スピーカーを使ってホームシアターを簡単にお楽しみいただくための早わかりガイドです。他の機器を接続する場合や操作、設定について詳しくは、24ページ以降をご覧ください。

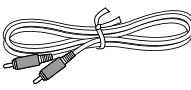
接続に必要なものをそろえる

接続コード類は、各機器に付属または市販のものをご使用ください。また、お手持ちの機器によっては異なる場合がありますので、各機器に付属の取扱説明書も併せてご覧ください。

DVDプレーヤー

光デジタルケーブル
（機種によっては
同軸デジタルケーブル）

お手持ちのDVDプレーヤーの映像端子の形状にあったコードいずれか一種類を用意します。

ビデオ用ピンコード　Sビデオコード

コンポーネントビデオコード　D端子接続コード

映像端子接続コード*

テレビ

DVDプレーヤーと本機をコンポーネントビデオかD端子接続コードで接続する場合は、テレビと本機の接続もどちらかにします。DVDプレーヤーと本機の接続がビデオ用ピンコードやSビデオコードの場合はどのコードでも構いません。

ビデオ用ピンコード

Sビデオコード

コンポーネントビデオコード

D端子接続コード

映像端子接続コード*

スピーカーシステム

スピーカーコード

スピーカーコード用ラベル
（使いかたについては31ページをご覧ください）

サブウーファー

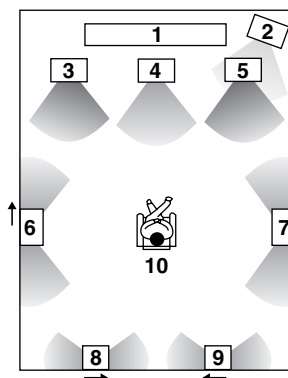
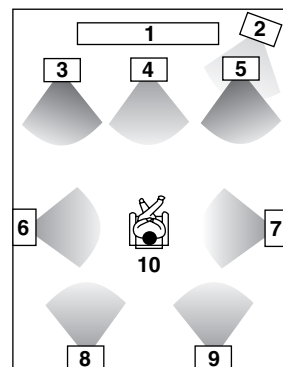
オーディオ用ピンコード

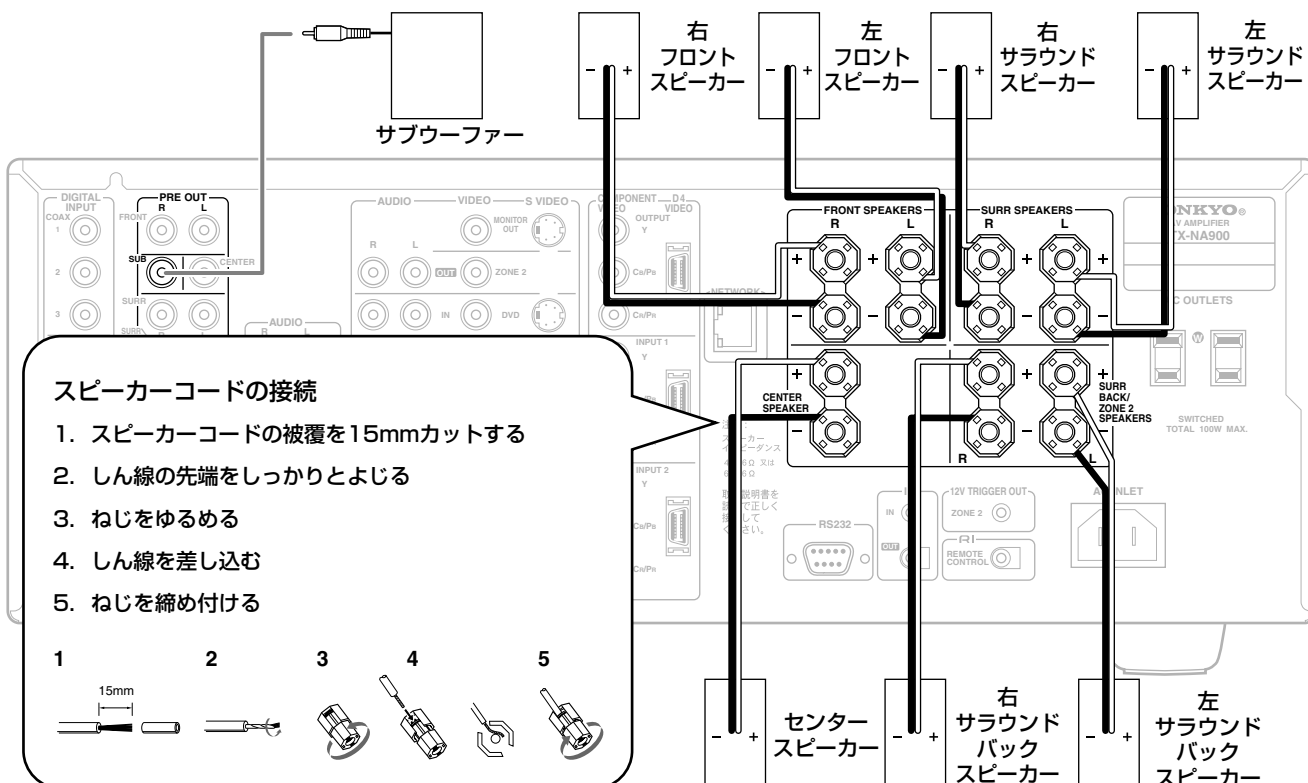
接続のしかた

接続する前に

- 電源コードは、すべての接続が終わるまでコンセントに差し込まないでください。
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。

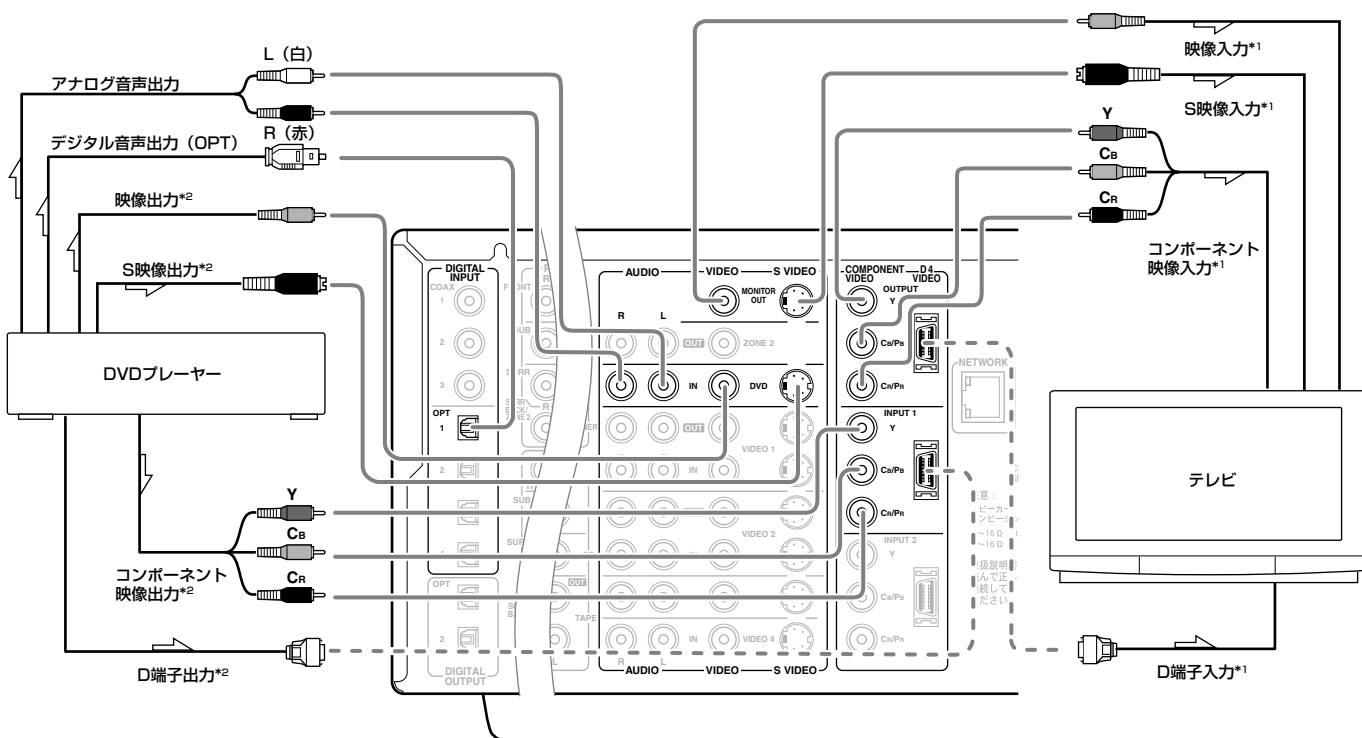
1. 各スピーカーの位置を決め、本機とスピーカーを接続する[右ページ上図]
   理想的な配置については、右図をご覧ください。
2. 本機とテレビを接続する[右ページ下図右]
3. 本機とDVDプレーヤーを接続する[右ページ下図左]

ダイポール型スピーカーの設置例　モノポール型スピーカーの設置例

1　テレビまたはスクリーン
2　サブウーファー
3　左フロントスピーカー
4　センタースピーカー
5　右フロントスピーカー
6　左サラウンドスピーカー
7　右サラウンドスピーカー
8　左サラウンドバックスピーカー
9　右サラウンドバックスピーカー
10　リスニングポジション

スピーカーシステムの接続

左右フロント、センター、左右サラウンド、左右サラウンドバック、サブウーファーの8本のスピーカーを接続すると7.1ch音声が楽しめます。サラウンドバックスピーカーを接続しないときは、5.1chになります。
詳しくは30ページをご覧ください。

DVDプレーヤー、テレビとの接続

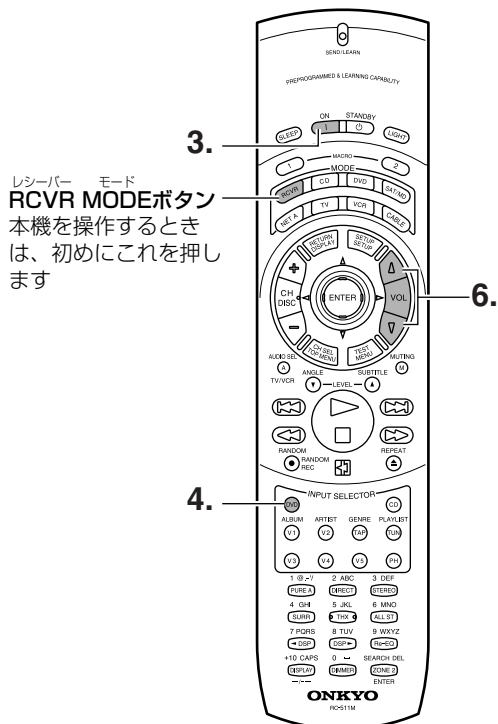
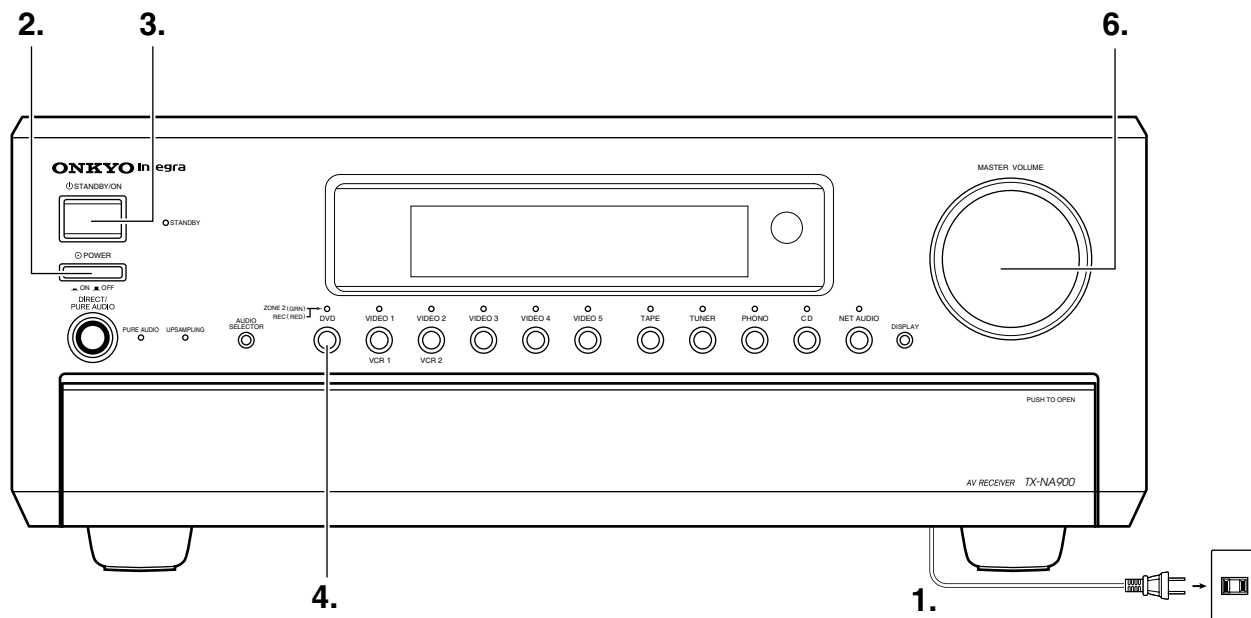
詳しくは26、27ページをご覧ください。

お知らせ

DVDプレーヤーのデジタル出力を接続するときは、光(オプティカル)ケーブルで本機のOPT1端子に接続してください。同軸ケーブルでCOAX(コアキシャル)端子や、OPT1以外の光端子に接続する場合は、入力ソースに割り当てられているデジタル入力を変更する必要があります。（「Digital Input」（デジタル入力）（☞50ページ））

*1 テレビと本機を、いずれかで接続します。
*2 DVDプレーヤーと本機を、いずれかで接続します。

DVD再生の手順

操作する前に

- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、他の機器の動作に影響を与えることがあります。コンピューター等の精密機器とは別系統のコンセントにつないでください。
- 本機は主電源スイッチ（POWER）を入（▬ ON）の状態で工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差しこむとSTANDBYインジケーターが点灯し、下記の手順2と同じ状態になります。

1. 電源コードを壁のコンセントに接続する
2. POWERスイッチを押して主電源を入れる
3. 本機のSTANDBY/ONボタン（またはリモコンのONボタン）を押して、電源を入れる
4. 入力切り換えボタンのDVDを押す
5. DVDプレーヤーの再生を始める
6. 本機のMASTER VOLUMEつまみ、またはリモコンのVOL ▲/▼ボタンで音量を調節する。

   MASTER VOLUMEつまみを右に回すと音量が上がり、左に回すと下がります。VOL ▲ ボタンを押すと音量が上がり、▼ ボタンを押すと下がります。

お知らせ

より効果的にサラウンド音声をお楽しみいただくには、スピーカー設定（「Speaker Config」、「Speaker Distance」、「Level Calibration」）をする必要があります。理想的な配置でスピーカーを設置できない場合や、スピーカーの性能にばらつきがある場合は、スピーカーの設定が重要になります。
詳しくは47～49ページをご覧ください。

リモコンでできる主な操作

［　］内の数字は詳しく説明してあるページです。

本機の電源を入/切（スタンバイ）する［35］

スリープタイマーを使う［37］
押すたびに次の順で切り換わります。
90分→80→70→60→50→40→30→20→10→解除

オーディオ入力信号のフォーマットを切り換える［33］
押すたびに次の順で切り換わります。
Auto→Multich→Analog→Auto...

アナログのマルチチャンネル音声を楽しむ［41］
1. 入力ソースをDVDにする
2. AUDIO（オーディオ） SELECTOR（セレクター）ボタンを押して、「Multich（マルチチャンネル）」を選ぶ

ダイレクトにリスニングモードを選ぶ［38］

DSPリスニングモードを順に選ぶ［39］

音量のバランス調整をする［49］
1. **TEST（テスト）ボタンを押す**
   フロント左からテスト音が出ます。
2. **CH SEL（チャンネルセレクター）でスピーカーを選ぶ**
   CH SELボタンを押すごとに、スピーカーが切り換わります。
   左フロント→センター→右フロント→右サラウンド→右サラウンドバック→左サラウンドバック→左サラウンド→サブウーファー→左フロント...
3. **LEVEL（レベル） ▲/▼で音量を調整する**
4. **TEST（テスト）ボタンを押して終了する**

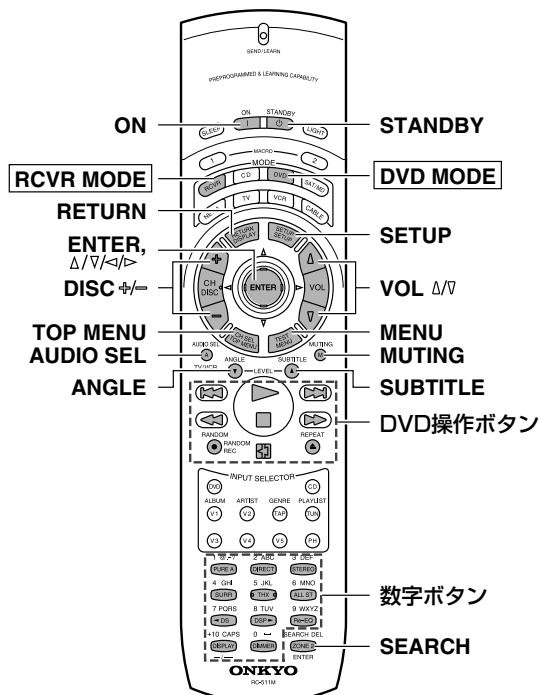
音量を調整する［36］

一時的に音声を小さくする［37］

入力ソースを切り換える［36］

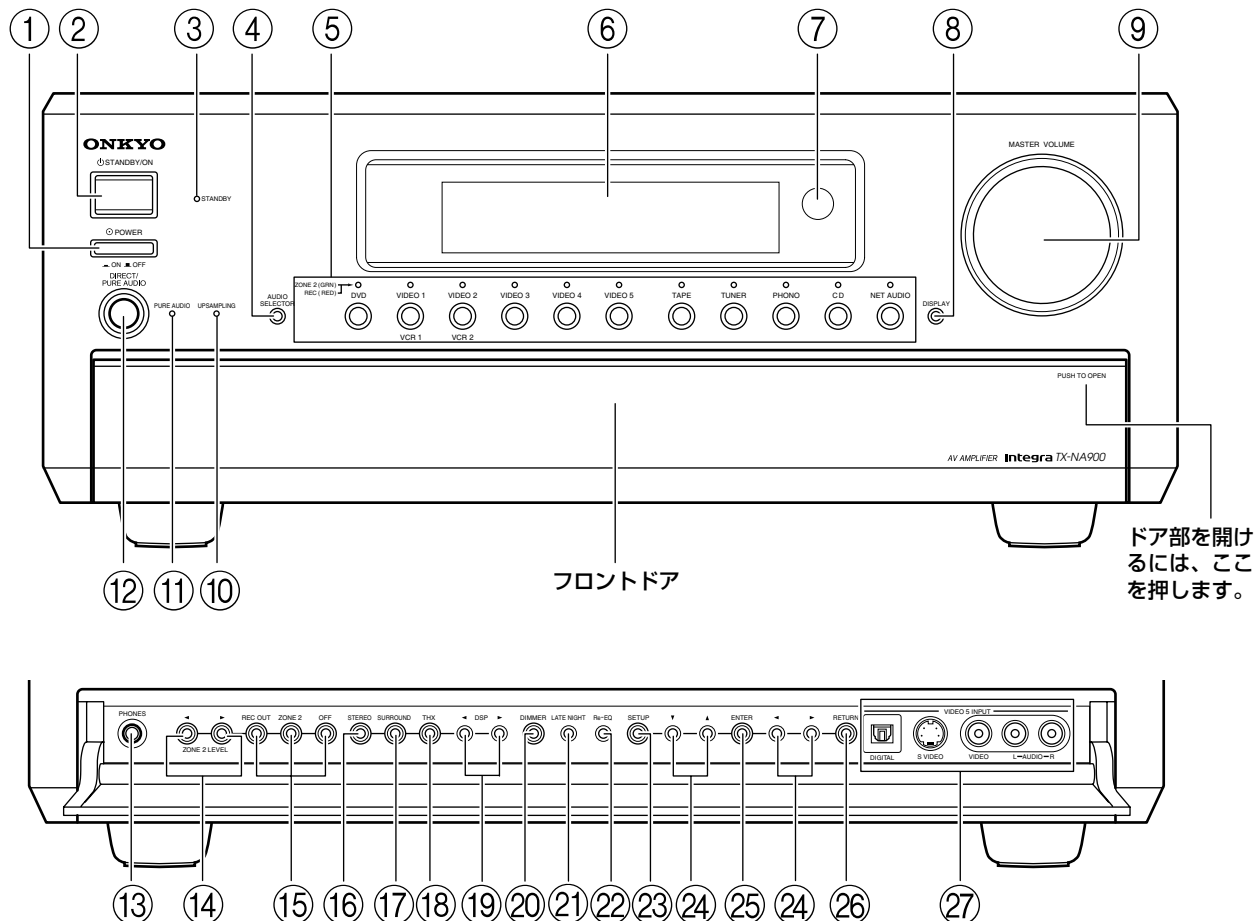
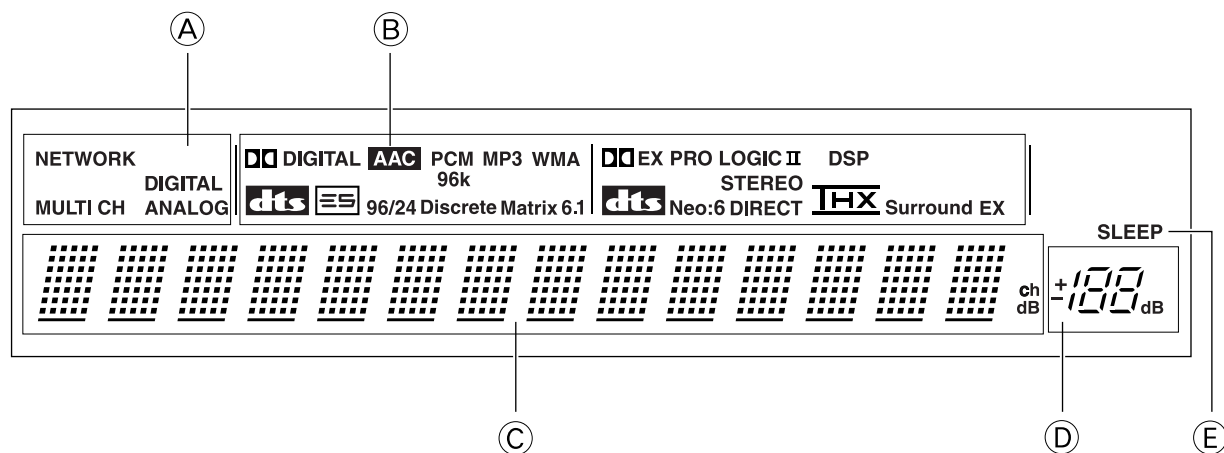
Re-EQの効果を効かせる［59、62］

表示部の明るさを変える
押すたびに次の順で切り換わります。
やや暗い→暗い→通常

オンキヨー製DVDプレーヤーを本機のリモコンで操作する

1. **RI（アールアイ） ケーブルで本機とDVDプレーヤーを接続する**
   RIケーブルはオンキヨー製DVDプレーヤーに付属しています。詳しい接続のしかたについては、33ページをご覧ください。
2. **DVD MODE（ディーブイディー モード）ボタンを押す**
3. **DVDプレーヤーの電源を入れる**
4. **DVDプレーヤーを操作する**
   左の図のグレーのボタンがDVDプレーヤー操作用として使用できます。各ボタンの機能については、67ページをご覧ください。
   本機操作用に戻したい場合はRCVR（レシーバー） MODE（モード）ボタンを押します。

各部の名称と働き

ここでは、フロントパネルの操作ボタンおよび表示部について説明します。

フロントパネル

フロントパネル表示部

Ⓐ **入力信号経路表示**
入力信号がどの端子から入ってきているかを表示します。

Ⓑ **リスニングモードまたはデジタル入力フォーマット表示部**
ソースのフォーマットに応じて、いずれかの表示が点灯します。また、リスニングモードに応じていずれかのリスニングモード表示が点灯します。

Ⓒ **多目的表示部**
通常は入力ソースが表示されます。
DISPLAYボタンを押すと、リスニングモードや入力ソースのプログラムフォーマットが表示されます。

Ⓓ **音量表示**
音量を表示します。

Ⓔ **SLEEP表示**
スリープ機能使用時に点灯します。

各部の名称と働き

フロントパネル

詳しい説明は、［　］のページをご覧ください。

① POWERスイッチ（主電源）［35］

本機の主電源を入れます。主電源が入ると、STANDBYインジケーターが点灯します。

- 主電源を入れる前に、すべてのコードが正しく接続されていることを確認してください。
- 主電源を入れると瞬間的に大きな電流が流れ、他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。コンピューターなど繊細な機器とは別系統のコンセントに接続してください。

② STANDBY/ONボタン［35］

主電源が入っているときに押すと、電源がオンになり、表示部が点灯します。もう一度押すと、本機をスタンバイ状態にします。スタンバイ状態では、表示部が消灯し、操作はできません。

③ STANDBYインジケーター［35］

スタンバイ状態の時やリモコンからの信号を受信するたびに点灯します。

④ AUDIO SELECTORボタン［40］

オーディオ入力信号の種類を選びます。

⑤ 入力切り換えボタン（DVD、VIDEO1～5、TAPE、TUNER、PHONO、CD、NET AUDIO）とインジケーター［36］

ソースを選びます。ZONE 2端子や録音出力端子（REC OUT）用のソースを選ぶには、ZONE 2またはREC OUTボタンを押してから、入力切り換えボタンを押します。
インジケーターが赤く点灯している入力はREC OUTに出力されており、緑色に点灯している入力はZONE 2に出力されています。

⑥ 表示部

⑦ リモコン受光部［13］

⑧ DISPLAYボタン［39］

表示部の表示内容を切り換えます。入力信号により、表示内容は異なります。

⑨ MASTER VOLUMEつまみ［36］

音量を調整します。別室（ZONE 2）の音量には影響しません。

⑩ UPSAMPLINGインジケーター［59］

アップサンプリング処理時に点灯します。

⑪ PURE AUDIOインジケーター［38］

リスニングモードでピュアオーディオを選んでいる時に点灯します。

⑫ DIRECT/PURE AUDIO切り換えボタン［38］

リスニングモードのダイレクトとピュアオーディオを切り換えます。

⑬ PHONES端子［37］

ステレオヘッドホンを接続するための標準ステレオ端子です。

⑭ ZONE 2 LEVEL（◀/▶）ボタン［42］

別室（ZONE 2）の音量を調整します。

⑮ REC OUT/ZONE 2切り換えボタン、OFFボタン［43］

本機の出力先を選択します。REC OUTまたはZONE 2ボタンを押して切り換えます。

REC OUTを選択すると、本機に接続した機器を使って録音・録画ができます。

ZONE 2を選択すると、別室（ZONE 2）で音楽を楽しむことができます。

REC OUTまたはZONE 2を押すと、表示部に現在選択されている録音ソースまたはZONE 2再生ソースが表示されます。「SOURCE」表示のときは、現在の再生ソースと同じソースが選択されています。

録音ソースまたはZONE 2再生ソースを選ぶには、それぞれのボタンを押してから8秒以内に入力切り換えボタンを押します。

REC OUTまたはZONE 2出力を「SOURCE」にするには、それぞれのボタンを2回押します。

REC OUTまたはZONE 2出力をOFFにするには、それぞれのボタンを押してから8秒以内にOFFボタンを押します。

ご注意

ゾーン2出力と録音・録画出力は同一回路を使用しているため、同時に使用できません。REC OUTが選ばれているときは、ZONE 2端子からは何も出力されていません。ZONE 2が選択されているときは、REC OUTは自動的に「SOURCE」に固定されます。

⑯ STEREOボタン［38］

通常のステレオ音声になります。

⑰ SURROUNDボタン［38］

ドルビープロロジックII、Neo:6、ドルビーデジタル、DTS、AACを聞くとき選びます。

⑱ THXボタン［38］

THXで聞くとき選びます。

⑲ DSP ◀/▶ボタン［39］

リスニングモードをDSP（デジタルシグナルプロセッシング）モードに切り換えます。

⑳ DIMMERボタン［40］

表示部の明るさを設定します。「通常」「暗く」「さらに暗く」のいずれかに設定できます。

- 表示部の明るさはリモコンのDIMMERボタンでも調整できます。

㉑ LATE NIGHT（レイト ナイト）ボタン［59］

レイトナイト機能を切り換えます。
ドルビーデジタルソフトでのみ使用することができます。

㉒ Re-EQ（リ・イーキュー）ボタン［59、62］

リ・イーキューのオン/オフを切り換えます。

㉓ SETUP（セットアップ）ボタン［45］

ボタンを押すと、メニュー操作状態になります。表示部とテレビ画面にメニュー項目が表示されます。

㉔ カーソル（▲/▼/◀/▶）ボタン［45］

▲/▼ボタンは、メニュー操作時に、カーソル（反転された項目）を上下に移動します。
◀/▶ボタンは、メニュー操作時に、▲/▼ボタンで選択した値や項目を選択します。

㉕ ENTER（エンター）ボタン［45］

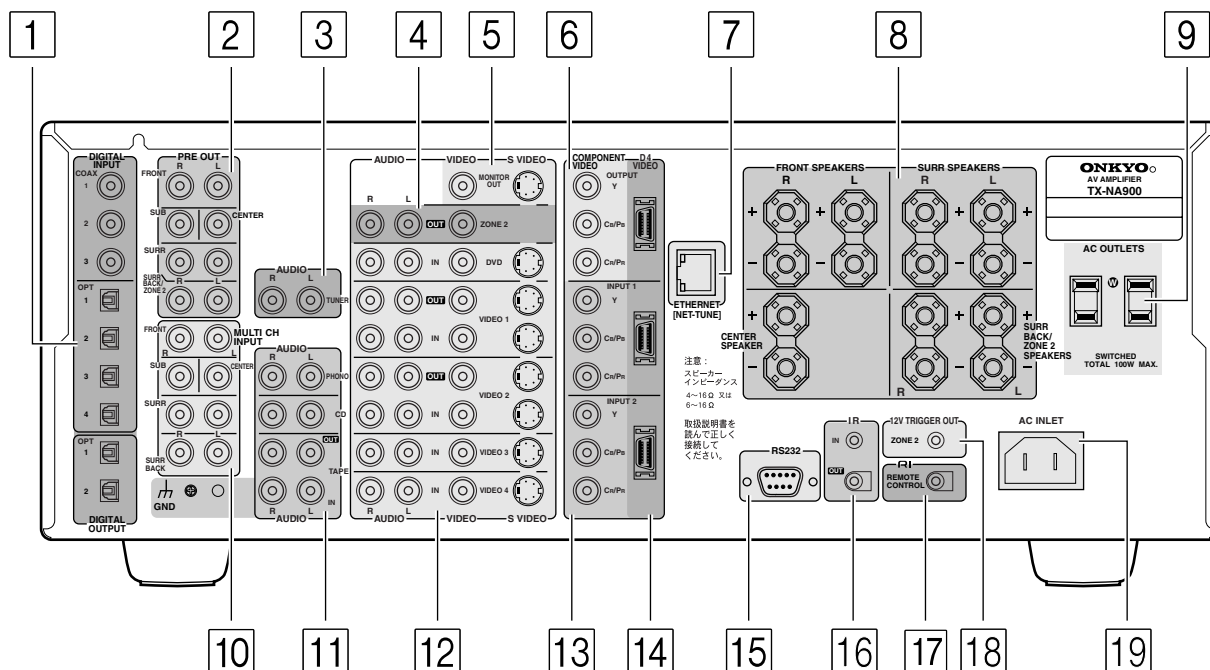
メニュー操作時、選択している項目の画面を表示します。

㉖ RETURN（リターン）ボタン［45］

メニュー操作時に押すと、ひとつ前の画面に戻ります。メインメニュー画面で押すと、メニュー操作を終了します。

㉗ VIDEO（ビデオ） 5 INPUT（インプット）端子［29］

ビデオカメラやゲーム機器などを接続します。

リアパネル

リアパネル

詳しい接続については、［　］のページをご覧ください。

1　DIGITAL INPUT/OUTPUT端子

デジタル入出力のある機器を接続します。
CDプレーヤーの接続［25］、MDレコーダーやCDレコーダーの接続［25］、DATデッキの接続［25］、DVDプレーヤーの接続［26］、DVDレコーダーの接続［28］、BS/CSチューナーの接続［29］

2　PRE OUT端子［34］

本機をプリアンプとして使用するときに、パワーアンプを接続します。

3　TUNER端子［25］

チューナーを接続します。

4　ZONE 2 AUDIO/VIDEO OUT端子［32］

別室(ZONE 2)で使用する機器を接続します。

5　MONITOR OUT VIDEO/S VIDEO端子［27］

テレビやプロジェクターの映像入力を接続します。

6　COMPONENT VIDEO OUTPUT端子［26、27］

テレビやプロジェクターのコンポーネント映像入力を接続します。

7　ETHENET (NET-TUNE)端子

イーサネット・ネットワークに接続します。

詳しくは別冊の「ネットオーディオを楽しむには」取扱説明書をご覧ください。

8　SPEAKERS端子［31］

スピーカーを接続します。

9　AC OUTLETS端子［33］

他機の電源コードを接続します。

10　MULTI CH INPUT端子［34］

マルチチャンネル出力のある機器を接続することができます。

11　PHONO/CD/TAPE AUDIO IN/OUT端子

オーディオ機器の入出力を接続します。
レコードプレーヤーの接続［25］、CDプレーヤーの接続［25］、カセットテープデッキやMDレコーダー、CDレコーダーの接続［25］

12　DVD/VIDEO1-4 IN/OUT端子

映像機器の入出力を接続します。
DVDプレーヤーの接続［26］、DVDレコーダーの接続［28］、ビデオデッキの接続［27］、BS/CSチューナーの接続［29］

13　COMPONENT VIDEO INPUT1/2端子

コンポーネント出力端子のある映像機器を接続します。
DVDプレーヤーの接続［26］、DVDレコーダーの接続［28］、BS/CSチューナーの接続［29］

14　D4 VIDEO INPUT 1、2/OUTPUT端子［26〜28］

BSデジタル受信機などにD4端子がある場合、信号を直接入力できます。D4出力端子は、テレビまたはプロジェクターのD4入力端子に接続します。

ご注意

D4 映像入出力端子とCOMPONENT映像入出力端子は内部で並列に接続されていますので、同時に使用することはできません。

15　RS 232 コネクター［33］

このコネクターを使って、外部のコントロール機器から本機をコントロールする事ができます。

16　IR IN/OUT端子

別室からリモコン操作したいときや本機をラックに入れたときに、リモコンセンサーを取り付けたり、リモコンでさらに別の機器を操作するための端子です。この接続にはマルチルームシステム用のキットが必要ですが、2002年10月時点では、日本国内では販売していません。

17　RI端子［33］

本機のRI端子は、同じRI端子を持つオンキヨー製品と接続するためのものです。

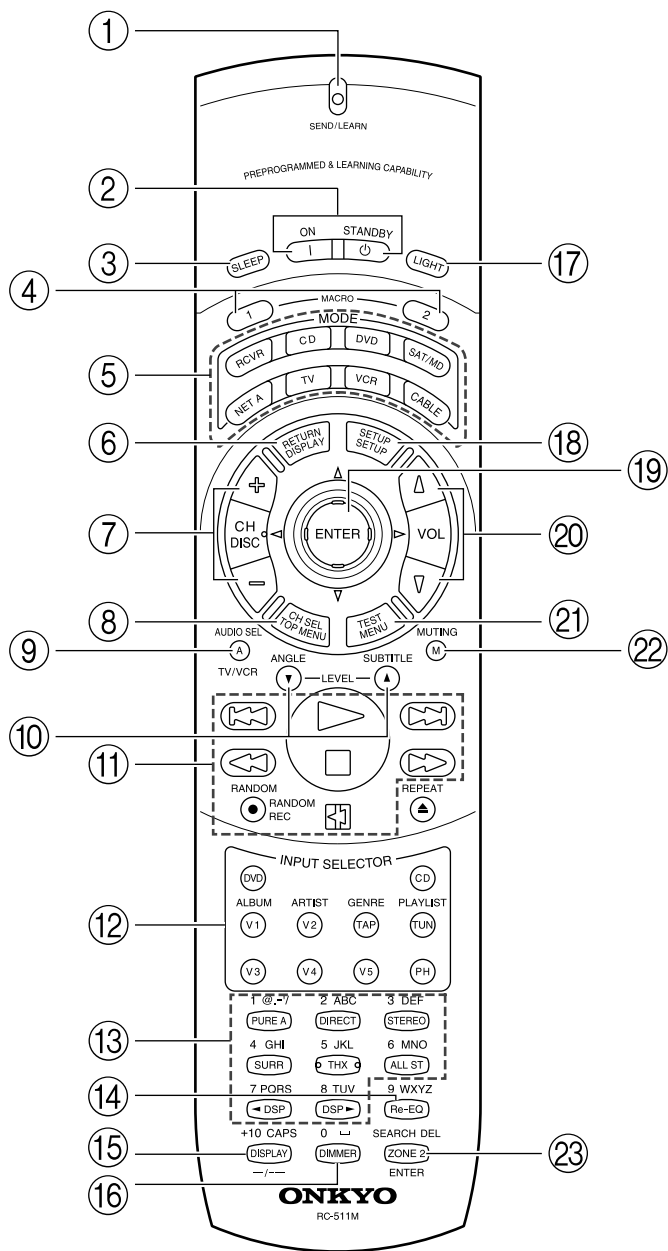
18　12V TRIGGER/ZONE 2 端子［34］

本機がゾーン2モードのとき、この端子から12V/100mAの電圧／電流を出力します。

19　AC INLETS［13］

付属の電源コードを接続します。

リモコン

本機は多機能リモコンです。ここでは本機を操作する機能についてのみ説明しています。
本機を操作するときは、まずMODE（モード）のRCVR（レシーバー）ボタンを押して、レシーバーモードにしておく必要があります。

各部の名称と働き

① **SEND/LEARN（送信／記憶）インジケーター［13］**
信号送信時に赤く点灯します。また、リモコンの電池の残りが少なくなると、ボタンを押したときに点滅します。

② **ONボタン［35］**
本機の電源を入れます。

STANDBYボタン［35］
本機をスタンバイ状態にします。

③ **SLEEPボタン［37］**
スリープ時間を設定します。
一定時間経過後に自動的に本機の電源が切れるように設定できます。

④ **MACRO1、2ボタン［76］**
マクロ機能の設定や実行時に押します。

⑤ **MODE（モード切り換え）ボタン［36、66］**
操作する機器を選びます。押すと8秒間点灯します。また、ボタンを押したときに現在選ばれているMODEボタンが点灯します。
本機を操作するときは、はじめにRCVR MODEボタンを押します。

⑥ **RETURNボタン［45］**
設定を確定し、1つ前の画面に戻ります。

⑦ **CH +/−ボタン［66］**
本機にRI接続したオンキヨー製チューナーを操作する時は、チューナーのプリセットチャンネルを選択します。

⑧ **CH SEL（チャンネル選択）ボタン［40、49］**
レベル調整したいスピーカーを選択します。

⑨ **AUDIO SEL（オーディオ信号選択）ボタン［40］**
オーディオ入力信号の種類を選びます。

⑩ **LEVEL ▲/▼ボタン［40、49］**
CH SELボタンで選択したスピーカーのレベルを調整します。

⑪ **他機操作ボタン［66］**
本機にRI接続したオンキヨー製品を操作します。レシーバーモードのときはテープデッキ操作ボタンとして働きます。

⑫ **INPUT SELECTOR（入力切り換え）ボタン［36］**
入力ソースを選びます。各ボタンの意味は次のようになっています。
DVD：DVDプレーヤー
CD：CDプレーヤー
V1：VIDEO1（ビデオ1）
V2：VIDEO2（ビデオ2）
V3：VIDEO3（ビデオ3）
V4：VIDEO4（ビデオ4）
V5：VIDEO5（ビデオ5）
TAP：TAPE（カセットデッキ）
TUN：TUNER（FM/AMラジオ）
PH：PHONO（レコードプレーヤー）

⑬ **リスニングモードボタン［38、39］**
リスニングモードを選びます。

⑭ **Re-EQボタン［59、62］**
リスニングモード設定によって、リー・イーキューのオン/オフを切り換えます。

⑮ **DISPLAYボタン［39］**
表示部の表示を切り換えます。

⑯ **DIMMERボタン［40］**
表示部の明るさを調整します。3段階の調整ができます。

⑰ **LIGHTボタン**
リモコンのボタンを点灯/消灯させます。

⑱ **SETUPボタン［45］**
表示部とテレビ画面にメニューを表示します。またメニューを終了します。

⑲ **▲/▼/◀/▶、ENTERボタン［45］**
メニュー操作時、上下に押すと、カーソル位置を上下に移動します。左右に押すと、設定項目が変更されます。ENTERボタンを押すと、次のサブメニュー設定項目に進みます。

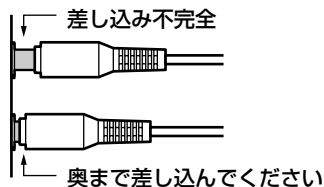
⑳ **VOL ∆/∇ ボタン［36］**
音量を調整します。

㉑ **TESTボタン［49］**
スピーカーの出力レベルを設定するときに使用します。LEVEL ▲/▼ボ タン、CH SELボタンとあわせて使用すれば、セットアップメニューを使用せずにスピーカーレベルを調節できます。

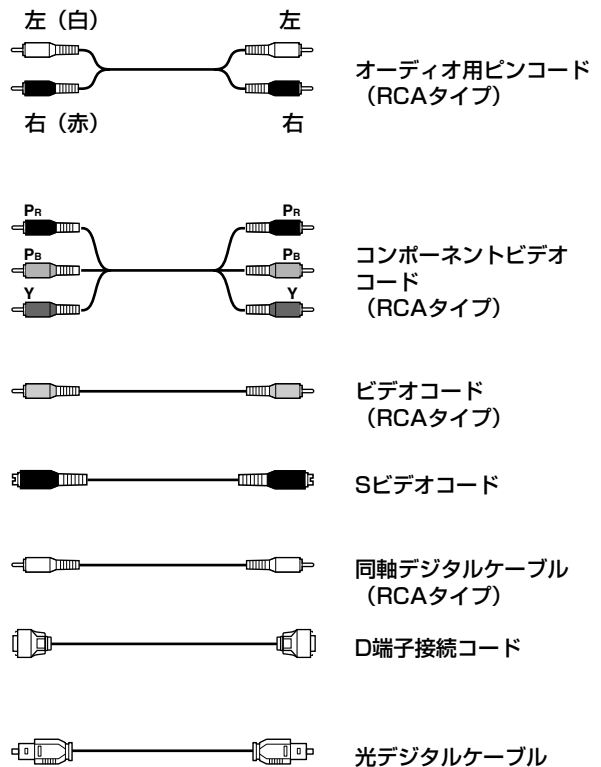
㉒ **MUTINGボタン［37］**
音を一時的に小さくします。

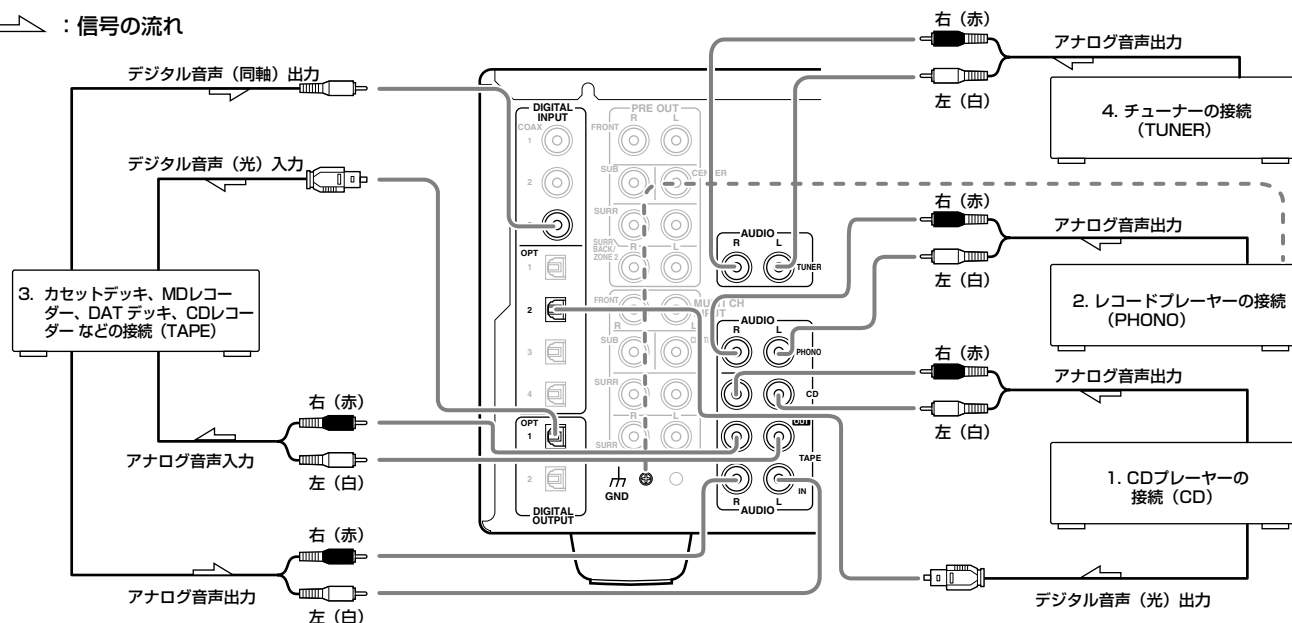
㉓ **ZONE 2ボタン［42］**
ゾーン 2の操作をするときに押します。

各機器の接続例

- 接続する機器に付属の説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは、すべての接続が終わるまで接続しないでください。
- 入力端子は、赤いコネクター（Rの表示）を右チャンネル、白いコネクター（Lの表示）を左チャンネル、黄色のコネクター（Vの表示）をビデオチャンネルに接続してください。
- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因となります。

- ビデオコード、オーディオ用ピンコード類は、電源コードやスピーカーコードと一緒に束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。
- 本機の光デジタル端子はすべてシャッタータイプですので、フタをそのまま奥へ倒すようにして光ケーブルを差し込んでください。また、端子の向きにご注意ください。

背面の光デジタル端子

前面の光デジタル端子

各機器の接続例

ここでは本機に接続できる機器の接続方法について説明します。ここでの説明は一例です。各コネクターや端子の特性や各機器の特長を十分理解し、最適な方法で接続してください。

オーディオ機器を接続する

ここでは、本機にオーディオ機器を接続する例を説明します。本ページの図を参考にして接続してください。

音声入出力（AUDIO IN/OUT）端子

アナログ音声の入出力端子です。リアパネルには音声入力は9系統あり、音声出力は3系統あります。音声入出力端子の接続には、RCAタイプのオーディオ用ピンコードが必要です。

デジタル入出力（DIGITAL INPUT/OUTPUT端子（COAX、OPT））

リアパネルには、デジタル入力端子として、同軸端子（COAX）が3つ、光端子（OPT）が4つあります。これらの入力端子に、CDプレーヤー、LDプレーヤー、DVDプレーヤーなどのデジタルソース機器を接続します。デジタル出力端子には、MDレコーダー、CDレコーダー、DATなどを接続します。

- 録音出力（REC OUT）やゾーン 2（ZONE 2）を使用するときは、アナログ接続が必要です。デジタル接続だけでなくアナログ接続もしてください。
- 光入力端子または出力端子に接続する場合、必ず光ケーブルを使用してください。

1. CDプレーヤーの接続（CD）

RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、CDプレーヤーの出力端子と本機のCD IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
デジタル出力端子のあるCDプレーヤーの場合は、端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAX）同軸端子またはDIGITAL INPUT（OPT）光端子に接続します。
CDのデジタル入力は、初期設定ではOPT2に設定されています。OPT2以外の端子にCDプレーヤーを接続したときは、「2-1. Digital Setupサブメニュー」（☞50ページ）で設定を変更してください。

2. レコードプレーヤーの接続（PHONO）

RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、レコードプレーヤーの出力端子と本機のPHONO AUDIO L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。

ご注意

本機は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。レコードプレーヤーが正しく動作するように、アース（接地）線をGND端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続するとノイズが大きくなることがあります。その場合、アース線は不要ですので接続しないでください。

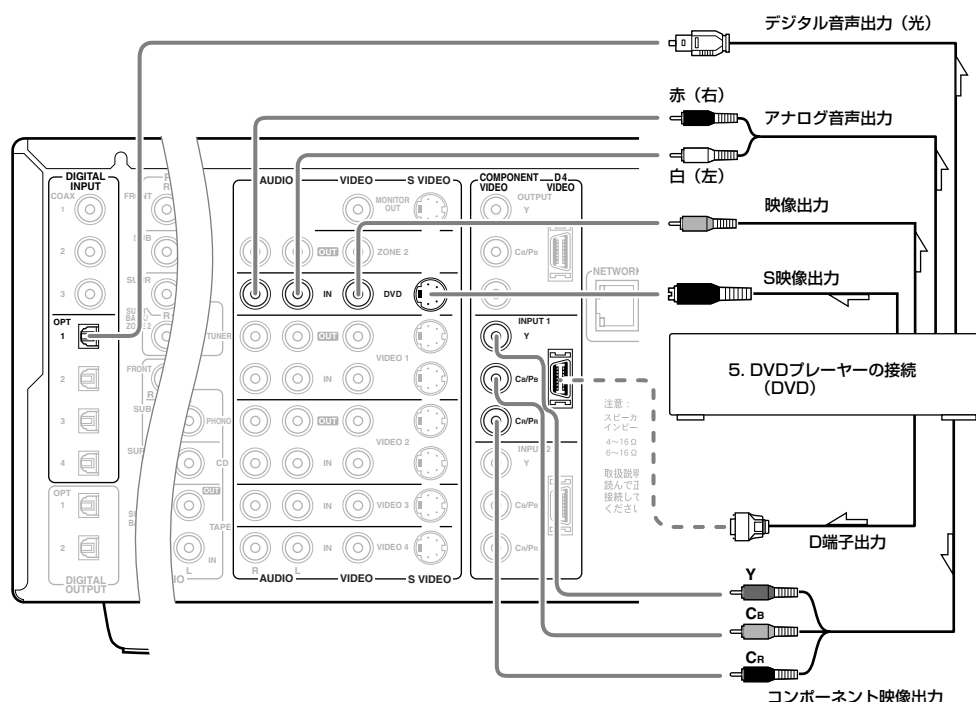
3. カセットデッキ、MDレコーダー、DAT、CDレコーダーの接続（TAPE）

RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、各機器の出力端子（PLAY）を本機のAUDIO TAPE IN L/R端子に、入力端子（REC）を本機のAUDIO TAPE OUT L/R端子に接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
デジタル出力端子のある機器の場合は、端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAX）端子またはDIGITAL INPUT（OPT）端子にも接続します。
TAPEのデジタル入力は、初期設定ではCOAX3に設定されています。COAX3以外の端子に機器を接続したときは、「2-1.Digital Setupサブメニュー」（☞50ページ）で設定を変更してください。
デジタル入力端子のある機器は、本機のDIGITAL OUTPUT（OPT）端子に接続すると、RECセレクターで選択された信号をデジタル録音できるようになります。

ご注意

本機のデジタル出力（DIGITAL OUTPUT）端子から出力される信号は、デジタル入力（DIGITAL INPUT）端子に入力されたデジタル信号のみです。

4. チューナーの接続（TUNER）

RCAタイプのオーディオ用ピンコードを使って、チューナーの出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。

ビデオ機器を接続する

ここでは、本機にビデオ機器を接続する例を示します。本ページの図を参考にして接続してください。

コンポーネント映像入出力端子（COMPONENT VIDEO INPUT/OUTPUT）
DVDプレーヤーなどのビデオ機器にコンポーネント映像端子がある場合、コンポーネント信号（Y、CB、CR）を直接入力できます。コンポーネント映像出力端子は、テレビまたはプロジェクターのコンポーネント入力端子に接続します。

D4映像入出力端子（D4 VIDEO INPUT/OUTPUT）
BSデジタル受信機などにD端子（D1～D4）がある場合、信号を直接入力できます。D出力端子は、テレビまたはプロジェクターのD4入力端子に接続します。

ご注意

D4映像入出力端子とコンポーネント映像入出力端子は内部で並列に接続されていますので、同時に接続しないでください。
たとえば、INPUT 1のD4端子に映像機器を接続した場合、INPUT 1のCOMPONENT端子には、何も接続しないでください。

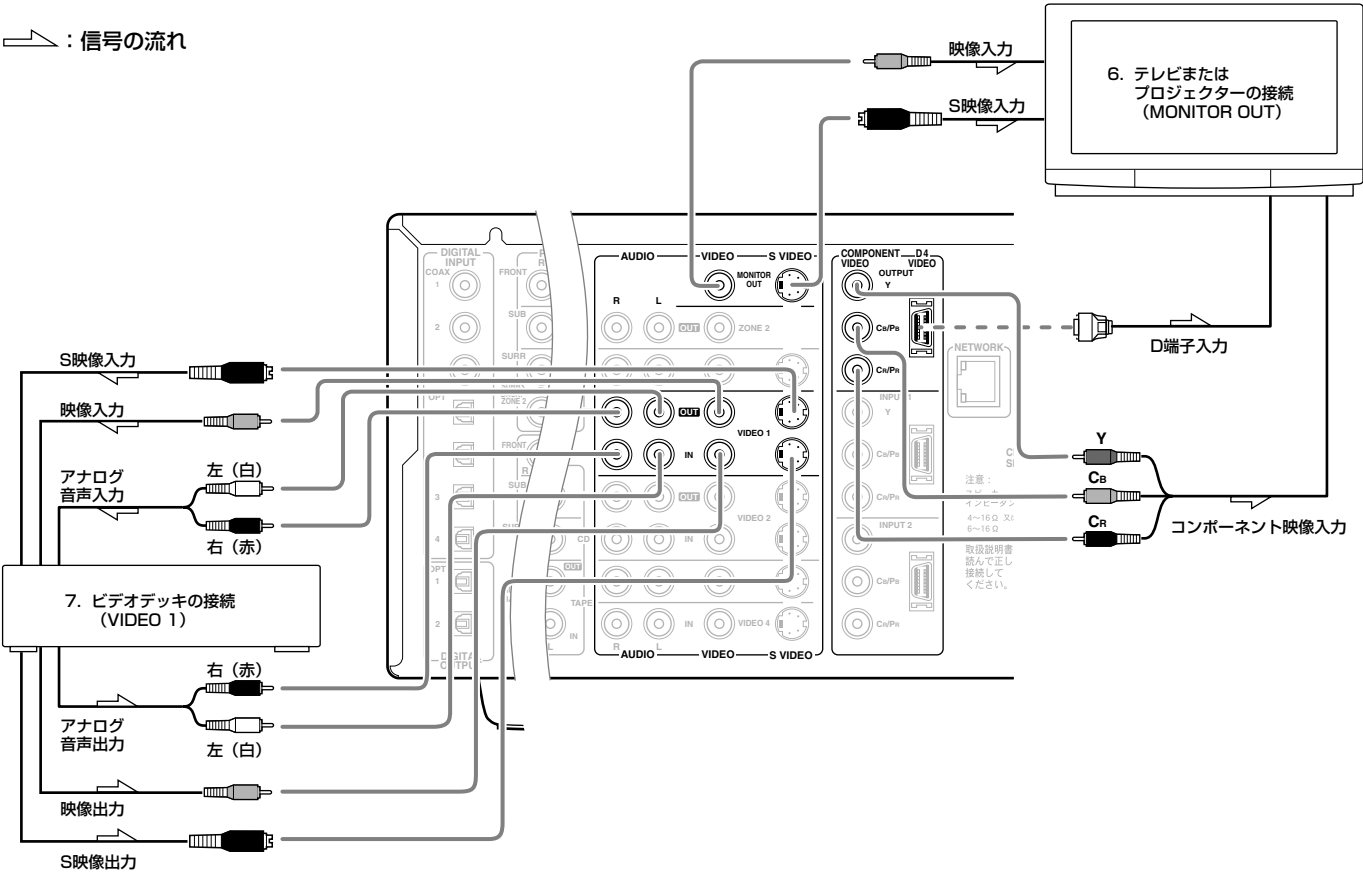
映像入出力端子（VIDEO IN/OUT）
リアパネルには、5系統の入力と2系統の出力があり、それぞれにコンポジット映像端子とS映像端子があります。
2系統ある映像出力には、ビデオデッキ等の録画機器を接続します。

- ビデオデッキなどのビデオ機器を接続する場合、オーディオ用ピンコードとビデオコードは同じ系統の端子（たとえばVIDEO 3）に接続してください。
- フロントパネルには、VIDEO 5 INPUT端子があります。

映像信号の流れは、次のとおりです。

- VIDEOやS VIDEOの入力（IN）端子から入った信号は、VIDEO、S VIDEO、COMPONENT VIDEO、D端子のいずれの出力（OUTPUT）端子へも出力されます。
- コンポーネント映像入力端子からの信号は、コンポーネント映像出力とD4映像出力端子に出力されます。お手持ちの映像機器と本機をコンポーネント接続しているときは、本機とテレビもコンポーネントまたはD4端子で接続してください。
- D4映像入力端子からの信号は、D4映像出力端子とコンポーネント映像出力端子に出力されます。お手持ちの映像機器と本機をD4端子で接続したときは、本機とテレビもD4またはコンポーネント端子で接続してください。

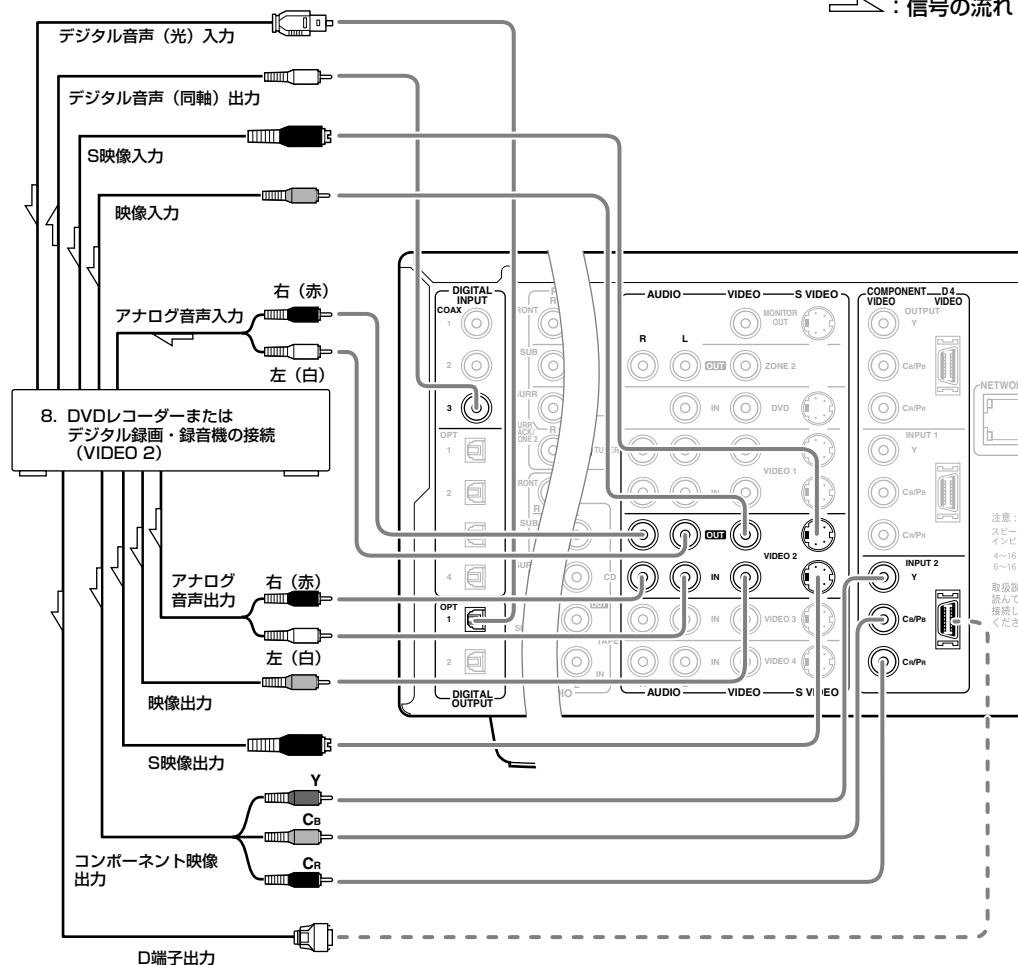
5. DVDプレーヤーの接続（DVD）

RCAタイプのビデオコードを使って、DVDプレーヤーの映像出力端子（コンポジット）と本機のDVD、VIDEO IN端子を接続します。
DVDプレーヤーにS映像端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO DVD IN端子に接続します。コンポーネント映像端子がある場合は、どちらかのCOMPONENT VIDEO INPUT端子に接続します。D端子がある場合は、本機のD4 VIDEO INPUT端子に接続します。
コンポーネント映像入力／D4映像入力は、初期設定ではINPUT 1に設定されています。INPUT 2に接続したときは、「2-3.Video（ビデオ） Setup（セットアップ）サブメニュー」（☞52ページ）で設定を変更してください。
次に、RCAタイプのオーディオ用ピンコードでDVDプレーヤーの音声出力端子と本機のAUDIO DVD IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
デジタル出力端子のあるDVDプレーヤーの場合は、端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAX）端子またはDIGITAL INPUT（OPT）端子にも接続します。
DVDのデジタル入力は、初期設定ではOPT1に設定されています。OPT1以外の端子にDVDプレーヤーを接続したときは、「2-1.Digital（デジタル） Setup（セットアップ）サブメニュー」（☞50ページ）で設定を変更してください。

6. テレビまたはプロジェクターの接続（MONITOR OUT）

RCAタイプのビデオコードを使って、テレビの映像入力端子（コンポジット）と本機のMONITOR OUT端子を接続します。
テレビにS映像入力端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO MONITOR OUT端子に接続します。機器にコンポーネント映像入力端子がある場合は、COMPONENT VIDEO OUTPUT端子に接続します。D4映像入力端子がある場合は、本機のD4 VIDEO OUTPUT端子に接続します。

7. ビデオデッキの接続（VIDEO1）

RCAタイプのビデオコードを使って、ビデオデッキの映像出力端子（コンポジット）と本機のVIDEO VIDEO 1 IN端子を接続し、ビデオデッキの映像入力端子と本機のVIDEO VIDEO 1 OUT端子を接続します。
ビデオデッキにS映像端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO VIDEO 1 IN/OUT端子に接続します。コンポーネント映像出力端子がある場合は、どちらかのCOMPONENT VIDEO INPUT端子に接続します。D端子がある場合は、本機のD4 VIDEO INPUT端子に接続します。
コンポーネント映像入力／D4映像入力は、初期設定ではINPUT 2に設定されています。INPUT 1に接続したときは、「2-3 Video Setupサブメニュー」のCompoent Video（☞52ページ）で設定を変更してください。

次に、RCAタイプのオーディオ用ピンコードでビデオデッキの音声出力端子と本機のAUDIO VIDEO 1 IN L/R端子を接続し、ビデオデッキの音声入力端子と本機のAUDIO VIDEO 1 OUT L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
VIDEO 1にビデオデッキではなくデジタル出力のある機器を接続する場合は、端子のタイプに合わせて本機のDIGITAL INPUT COAX またはDIGITAL INPUT OPT端子にも接続します。
VIDEO 1のデジタル入力は、初期設定ではCOAX1に設定されています。COAX1以外の端子に機器を接続したときは、「2-1.Digital Setupサブメニュー」（☞50ページ）で設定を変更してください。

8. DVDレコーダーなどのデジタル録画・録音機器の接続（VIDEO2）

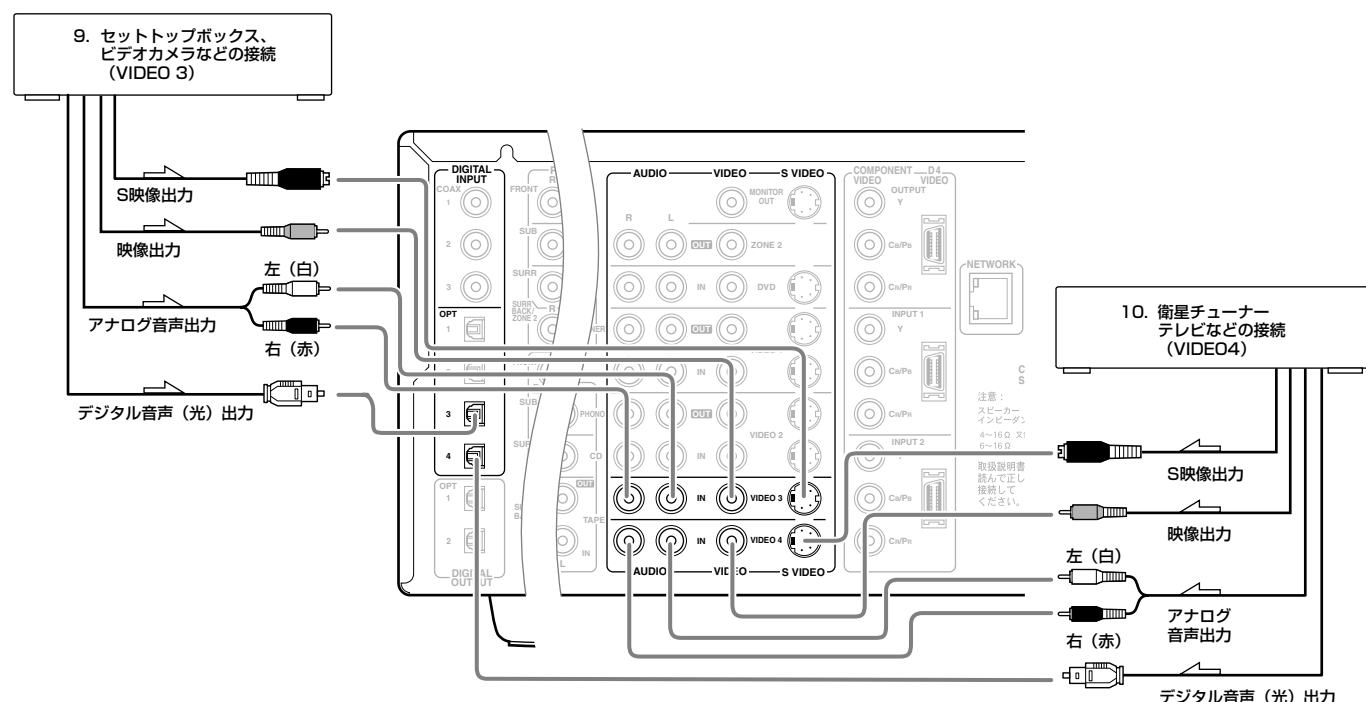
RCAタイプのビデオコードを使って、機器の映像出力端子（コンポジット）と本機のVIDEO VIDEO 2 IN端子を接続し、機器の映像入力端子と本機のVIDEO VIDEO 2 OUT端子を接続します。
機器にS映像端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO VIDEO 2 IN/OUT端子に接続します。
機器にコンポーネント映像出力端子がある場合は、どちらかのCOMPONENT VIDEO INPUT端子に接続します。
機器にD端子がある場合は、本機のD4 VIDEO INPUT端子に接続します。
コンポーネント映像入力／D4映像入力は、初期設定ではINPUT 2に設定されています。INPUT 1に接続したときは、「2-3.Video（ビデオ） Setup（セットアップ）サブメニュー」のComponent Video（☞52ページ）で設定を変更してください。

次に、RCAタイプのオーディオ用ピンコードで機器の音声出力端子と本機のAUDIO VIDEO 2 IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
機器にデジタル出力端子がある場合、機器のデジタル出力端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAX）端子またはDIGITAL INPUT（OPT）端子にも接続します。
VIDEO 2のデジタル入力は、初期設定ではCOAX2に設定されています。COAX2以外の端子にデジタル機器を接続したときは、「2-1.Digital（デジタル） Setup（セットアップ）サブメニュー」（☞50ページ）で設定を変更してください。

デジタル入力端子のある機器を、本機のDIGITAL OUTPUT（OPT）端子に接続すると、RECセレクターで選択された信号をデジタル録音できるようになります。

ご注意

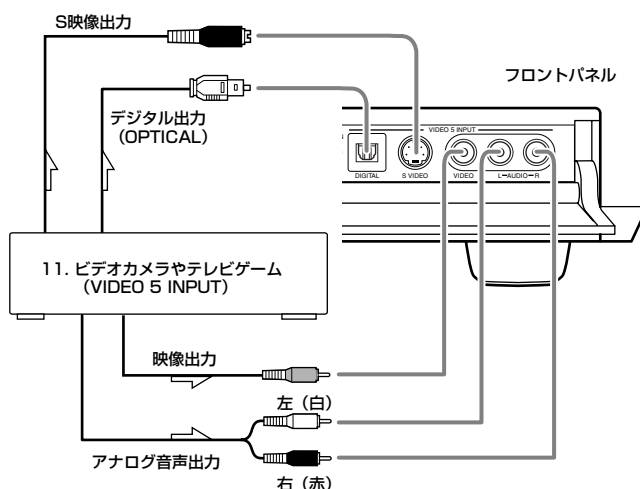
本機のデジタル出力（DIGITAL OUTPUT）端子から出力される信号は、デジタル入力（DIGITAL INPUT）端子に入力されたデジタル信号のみです。

各機器の接続例

9、10. BSチューナーやテレビなどの接続（VIDEO 3またはVIDEO 4）

RCAタイプのビデオコードを使って、機器の映像出力端子（コンポジット）と本機の映像入力端子を接続します。
機器にS映像端子がある場合は、S映像コードで本機のS VIDEO VIDEO 3（または4） IN端子に接続します。
機器にコンポーネント映像端子がある場合は、どちらかのCOMPONENT VIDEO INPUT端子に接続します。
機器にD4映像出力端子がある場合は、本機のD4　VIDEO INPUT端子に接続します。

次に、RCAタイプのオーディオ用ピンコードで機器の音声出力端子と本機のAUDIO VIDEO 3（またはVIDEO 4） IN L/R端子を接続します。左チャンネルをL端子、右チャンネルをR端子に間違えないように接続してください。
機器にデジタル出力端子がある場合、機器のデジタル出力端子のタイプに合わせて、本機のDIGITAL INPUT（COAX）端子またはDIGITAL INPUT（OPT）端子にも接続します。
VIDEO 3のデジタル入力は、初期設定ではOPT 3に設定されています。OPT　3以外の端子にデジタル機器を接続したときは、「2-1.Digital Setupサブメニュー」（☞50ページ）で設定を変更してください。
VIDEO4のデジタル入力は、初期設定ではOPT　4に設定されています。OPT　4以外の端子に機器を接続したときは、「2-1.Digital Setupサブメニュー」（☞50ページ）で設定を変更してください。

11.　ビデオカメラやテレビゲームの接続（VIDEO 5）

RCAタイプのビデオコードを使って機器の映像出力端子（コンポジット）と本機の映像入力端子を接続します。
機器にS映像端子がある場合は、S映像コードで本機のVIDEO 5 INPUT S VIDEO端子に接続します。
VIDEO 5のデジタル入力は、フロントパネルのOPTICAL固定です。

スピーカーを接続する

まずお持ちのスピーカーを配置してください。次に本機との接続をします。スピーカーの取扱説明書をご覧になりながら、正しい配置と接続をしてください。
サラウンド再生には、スピーカーシステムの構成内容と配置を対応したものにする必要があります。
THX Surround（サラウンド） EXの再生には、THX社認定THXスピーカーシステムのご使用をお勧めします。

理想的なスピーカー構成

・ **左右フロントスピーカー**
　メインになる音声を出力します。音場をしっかり整える役割を果たします。
・ **センタースピーカー**
　映画におけるセリフの中央定位の役割をになう重要なスピーカーです。
・ **左右サラウンドスピーカー**
　音の立体的な動きを表現し、背景をイメージした環境音、また場面を盛り上げる効果音を作りだして臨場感を高めます。
・ **左右サラウンドバックスピーカー**
　左右サラウンドスピーカーの効果と相まって、効果音や臨場感をより一層高めます。
　Dolby（ドルビー） Digital（デジタル） EX、THX Surround（サラウンド） EX、DTS-ES Matrix（マトリックス） 6.1またはDTS-ES Discrete（ディスクリート） 6.1で楽しむときに必要です。
・ **サブウーファー**
　迫力のある重低音効果を最大限に発揮します。低音のみを出力します。

サラウンド音声を再現するのに最低限必要なスピーカー構成

- **左右フロントスピーカー**
- **左右サラウンドスピーカー**
  センタースピーカーやサブウーファーの音声は、左右フロントスピーカーに最適に配分され、可能な限り最高のサラウンド音声を再現します。

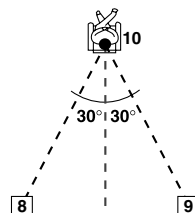
スピーカーの配置

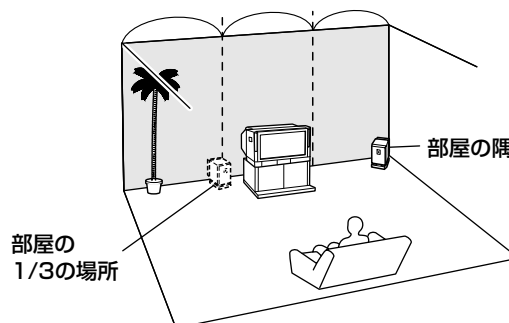
スピーカーの配置は、実際には部屋の大きさや壁の材質などによっても違ってきますが、ここでは各スピーカーの基本的な配置例と配置するポイントを紹介します。
より高品位な音場を再生するために、リスニングポジションと各スピーカーごとの距離の差は6.0m以内にしてください。

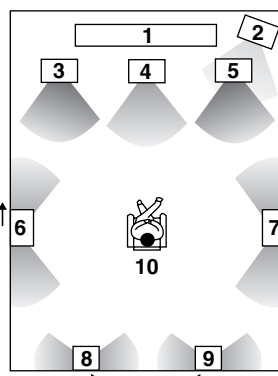
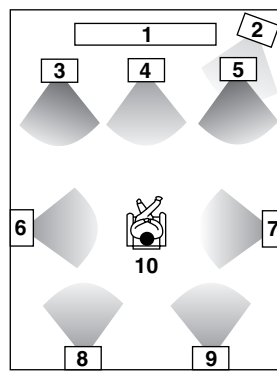
設置のポイント

左右フロントスピーカーとセンタースピーカー
- 3つのスピーカーがすべて同じ高さになるように設置する。
- 音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者に向かうように配置する。
- 左右フロントスピーカーは、同じ距離に配置する。

左右サラウンドスピーカー
- 視聴者の耳より1メートル高くなるように設置する。

左右サラウンドバックスピーカー
- 視聴者と各スピーカーの角度が約30゜になるように、視聴者の後部に配置する。

- 視聴者の耳より1m高い位置にスピーカーを配置する。

サブウーファー

再生される低音の質や量はサブウーファーの置き場所によって大きく変わります。また、部屋の形状やどの位置で聞くかによっても変わります。一般的に部屋の隅、または部屋の1/3の場所に置いたとき、良い結果が得られます。
置き場所を決める方法として以下の方法をおすすめします。
- 質の良い低音が入った映画または音楽ソースを再生する。
- 本機を部屋の色々な場所に置いてみる。
- 置き場所により様々な鳴り方をするので、いつも聞く位置でもっともしっかりした低音が再生できる場所を選ぶ。

ダイポール型スピーカーの設置例

モノポール型スピーカーの設置例

1　テレビまたはスクリーン
2　サブウーファー
3　左フロントスピーカー
4　センタースピーカー
5　右フロントスピーカー
6　左サラウンドスピーカー
7　右サラウンドスピーカー
8　左サラウンドバックスピーカー
9　右サラウンドバックスピーカー
10 リスニングポジション

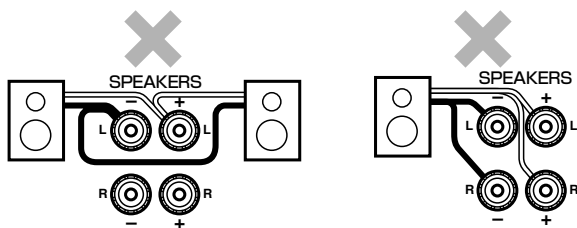
* 矢印は、位相を表します。ダイポール型スピーカーには位相があり、多くは矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がスクリーンへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

スピーカーを接続する

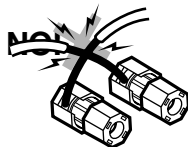
スピーカーの接続

スピーカーの配置が終わったら、次は本機との接続をします。

ご注意

- **本機には、インピーダンスが4Ω～16Ωのスピーカーが接続できます。接続するスピーカーの中の1台でもインピーダンスが4Ω以上6Ω未満の場合は、必ずスピーカーインピーダンスの設定（☞46ページ）をしてください。**
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

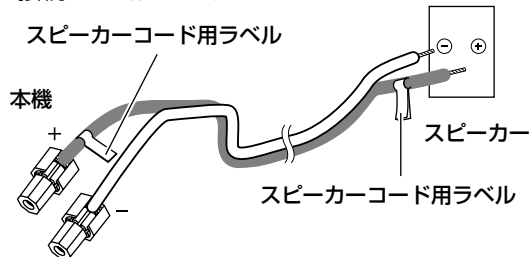
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対にショートさせないでください。

ご注意

- プラス（＋）とマイナス（−）を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続しないでください。音声が不自然になります。

- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- SURR BACK SPEAKERS/ZONE 2 SPEAKERS端子には、サラウンドバックスピーカーまたは別室用スピーカーを接続します。（☞32ページ）

付属のスピーカーコード用ラベルの使い方

本機のスピーカー端子は（＋）側に色をつけて識別しやすくしていますので、付属のスピーカーラベルをスピーカーコードに貼ることにより、スピーカーを確実に接続することができます。

スピーカーコードにラベルを貼り、ラベルと同じ色のスピーカー端子に接続してください。

各端子は以下のように色分けされています。

左フロント（+）：	白
右フロント（+）：	赤
センター（+）：	緑
左サラウンド（+）：	青
右サラウンド（+）：	グレー
左サラウンドバック（+）：	茶
右サラウンドバック（+）：	ベージュ

別室用スピーカーを接続する

はじめに

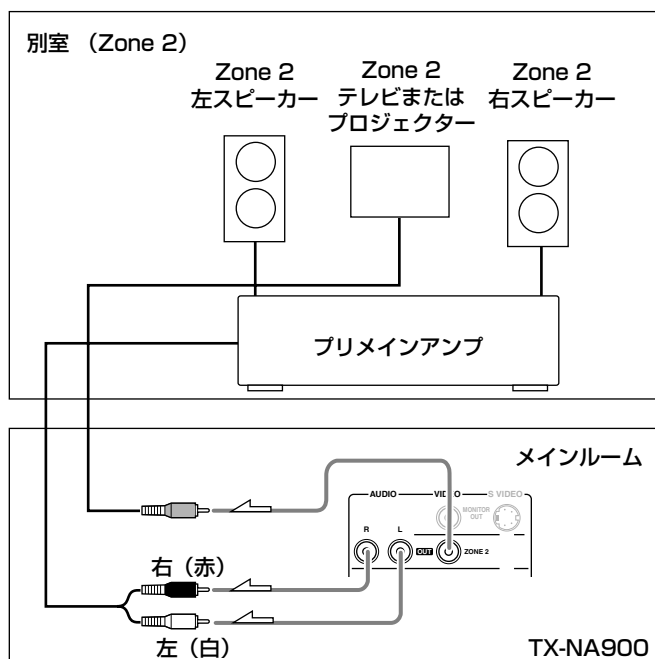
本機に別室用のスピーカーを接続すると、本機を設置している部屋で音楽を楽しむのと同時に、別室で別のソースを選んで音楽を楽しむことができます。
下図を参照し、手順どおりに接続してください。接続が終わるまで、機器の電源コードを接続しないでください。

ZONE 2 OUT端子を使用する場合

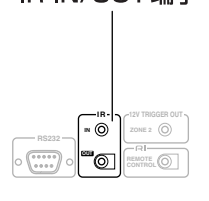
メインルームで7.1チャンネルすべてのスピーカーを接続しているときは、この方法でスピーカーを接続してください。
音量は、別室（Zone 2）で使用するプリメインアンプ側で調整してください。

1. 本機に別室用プリメインアンプを接続する。

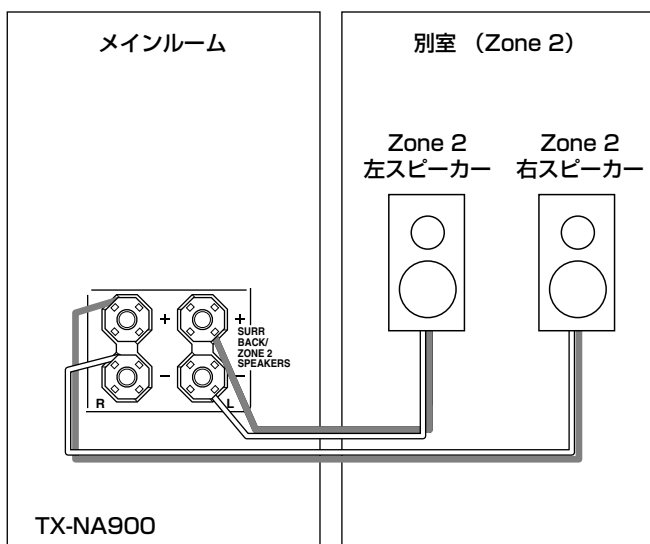
2. 別室で使用するスピーカーのコードをプリメインアンプのスピーカー端子に接続する

3. 別室で使用するモニターを本機に接続する

ご注意

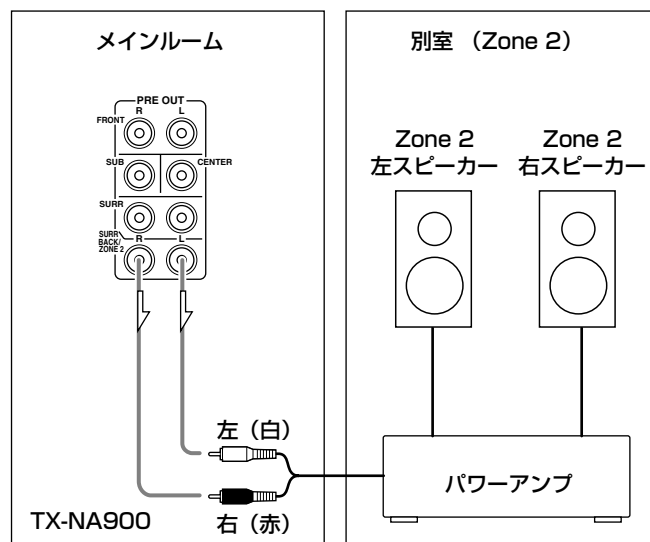
本機のZONE 2 OUT端子は固定出力です。

＊ 別室から本機をリモコン操作するには、IR IN/OUT端子を使用しますが、この接続にはマルチルームシステム用のキットが必要です。2002年10月時点では、このシステムは日本国内モデルでは対応していません。

SURR BACK/ZONE 2 SPEAKERS端子を使用する場合

メインルームで5.1チャンネルのスピーカーシステムを使用している場合、空いているサラウンドバックスピーカー端子をZONE 2用のスピーカーとして使用できます。
音量は、本機で調整します。
この接続をするときは、「0-2. Surr Back/Zone 2サブメニュー」の「a.Surr Back/Zone 2」の設定を「Zone 2」にしてください（☞46ページ）

ご注意

前ページをご覧になり、スピーカーインピーダンスを確認してください。

SURR BACK/ZONE 2 PRE OUT端子を使用する場合

メインルームで5.1チャンネルのスピーカーシステムを使用している場合、空いているサラウンドバックプリアウト端子をZONE 2用に使用できます。
音量は、本機で調整します。
この接続をするときは、「0-2. Surr Back/Zone 2サブメニュー」の「a.Surr Back/Zone 2」の設定を「Zone 2」にしてください（☞46ページ）

その他の接続

RI 端子付きオンキヨー製品を接続する

本機のRI端子は、同じRI端子を持つオンキヨー製品と接続するためのものです。RI接続した機器は、本機に付属のリモコンで操作することができます。
さらに、次のようなシステム操作ができます。

電源オン/レディ機能
本機がスタンバイ状態のとき、RI接続した機器の電源を入れると、本機の電源が自動的に入り、入力ソースも接続機器に切り換わります。ただし、RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント（AC OUTLETS）に接続されている場合や、本機の電源が入っている場合は、この機能は働きません。

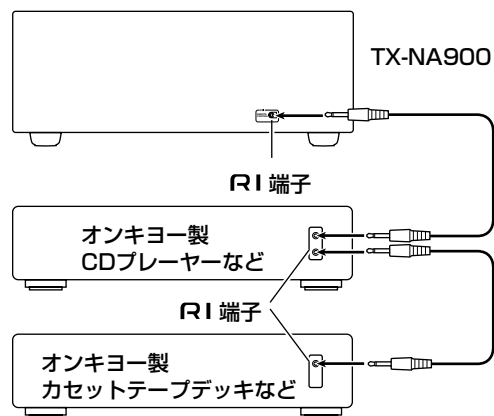
ダイレクトチェンジ機能
RI接続した機器を再生すると、本機の入力ソースが自動的に再生中の機器に切り換わります。

電源オフ機能
本機をスタンバイ状態にすると、RI接続した機器すべてがスタンバイ状態になります。

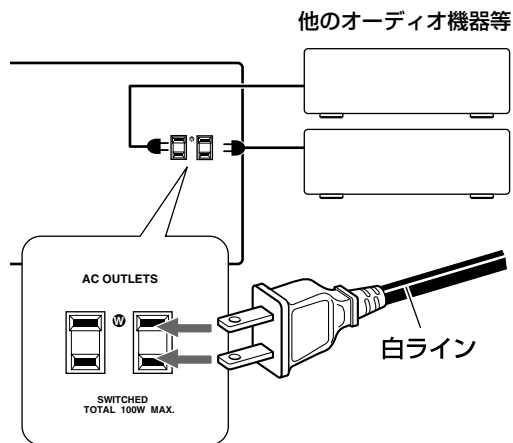
プリセット操作機能
リモコンにより、RI接続したチューナー機器のプリセット局を選ぶことができます。

また本機の電源がオンのときに、本機に付属のリモコンのONボタンを押すと、RI接続した機器（DVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDレコーダー、チューナー）の電源もオンになります。

ご注意

- 機器による接続順序は特にありません。
- RI接続した場合も、ピンコードでの接続は必要です。
- 製品によっては、RI接続しても一部の機能が働かないことがあります。

本機にRI接続した機器が2つのRI端子を持っている場合は、もう一方のRI端子にさらにRI端子付きの機器を接続することができます。

他機の電源コードを接続する

本機裏面の電源コンセントに他機の電源コードを接続することができます。他機の電源スイッチをオンのままにしておけば、本機のPOWERスイッチと連動させて他機の電源も入れたり切ったりすることができます。

ご注意

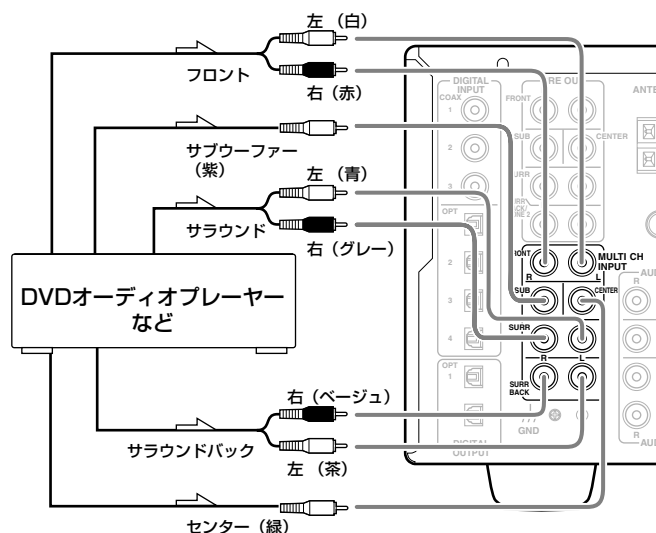
本機には2つの電源コンセントがありますが、合計で100Wを超える機器は絶対に接続しないでください。

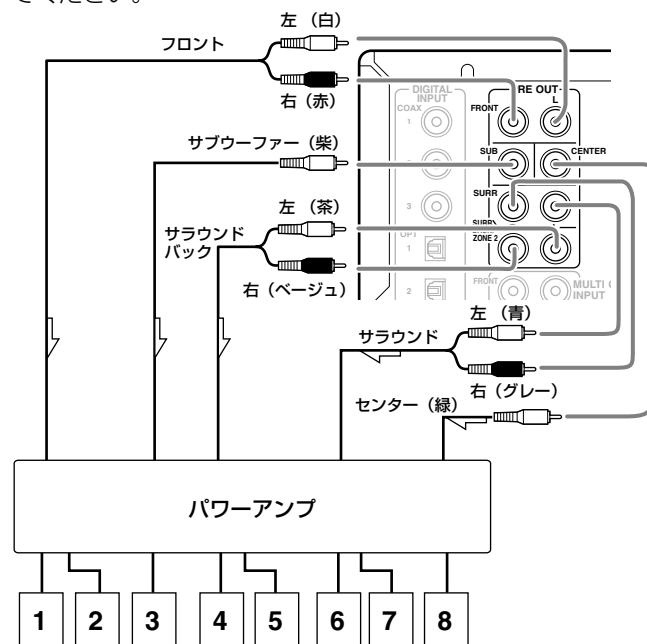
接続する前に
本機の電源コンセントはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。他機の電源コードの白いラインなどの目印側を、本機の電源コンセントの広い方（Ⓦマーク側）に合わせてください。他機の電源コードに極性表示がない場合はどちらを接続してもかまいません。

RS232コネクター

RS232コネクターを使って、外部のコントロール機器から本機をコントロールすることができます。

アナログのマルチチャンネル出力端子を持つ機器を接続する

5.1チャンネルまたは7.1チャンネル出力付きのDVDプレーヤーなど、外部デコーダーを接続することができます。

パワーアンプを接続する

本機をプリアンプとして使用するときに、パワーアンプを接続します。
大出力のパワーアンプを接続すると、本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。パワーアンプを使用する場合、対応するパワーアンプに各スピーカーを接続してください。

1. 左フロントスピーカー
2. 右フロントスピーカー
3. サブウーファー
4. 右サラウンドバックスピーカー
またはゾーン2スピーカー
5. 左サラウンドバックスピーカー
またはゾーン 2スピーカー
6. 左サラウンドスピーカー
7. 右サラウンドスピーカー
8. センタースピーカー

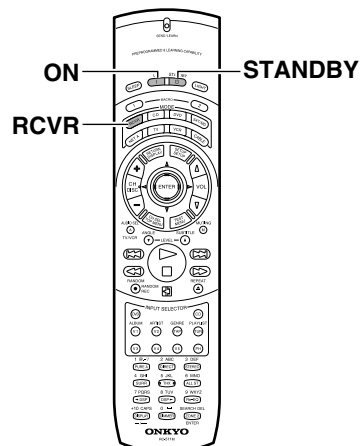
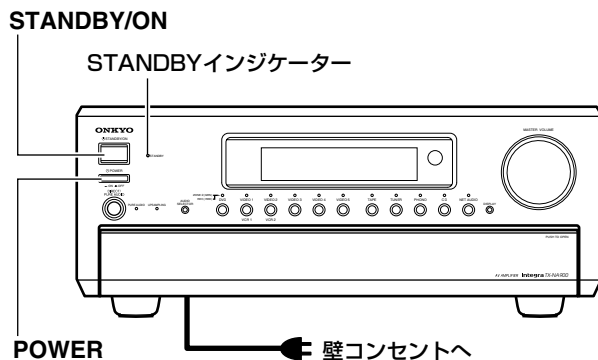
ご注意

別室（ゾーン2）で音楽、映像をお楽しみいただくときの接続については32ページをご覧ください。

他機の12Vトリガー入力端子と接続する

本機がZONE 2モードのとき、この端子から12V/100mAの電圧／電流を出力します。

12Vトリガー入力端子のある機器と本機の12V TRIGGER/ZONE 2端子を接続した場合、ゾーン2モードを選んだときに自動的にその機器の電源をオンにすることができます。

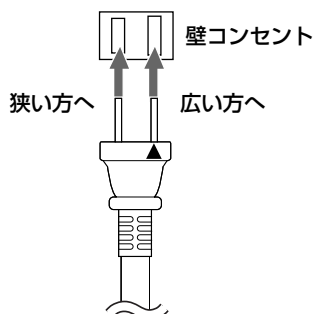
電源を入れる

接続する前に

- 本機の電源コード以外の、すべての接続が完了していることを確認してください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続するようにしてください。
- 電源コードはより良い音で聞いていただくために、極性の管理がされています。電源プラグの▲印のある方を家庭用の電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。

ご注意 **本機を最初にお使いになるときは**

本機は主電源スイッチ（POWER）を入（▁ ON）の状態で工場を出荷されますので、最初に電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイインジケーターが点灯し、下記の手順2と同じ状態になります。

電源を入れる

1. 家庭用電源コンセントに電源コードを接続する

2. POWER スイッチを押して主電源を入れる

本機はスタンバイ状態になり、STANDBYインジケーターが点灯します。

POWER
ON OFF
STANDBY

3. STANDBY/ONボタンを押して電源を入れる

表示部が点灯し、スタンバイインジケーターが消灯します。もう一度STANDBY/ONボタンを押すと、スタンバイ状態に戻ります。

STANDBY
消灯

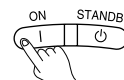
リモコンで電源を入れる

リモコンを操作する前に、「本機で電源を入れる」のステップ1～2により本機をスタンバイ状態にしてください。

1. RCVR MODEボタンを押す

RCVR MODEボタンが点灯します。

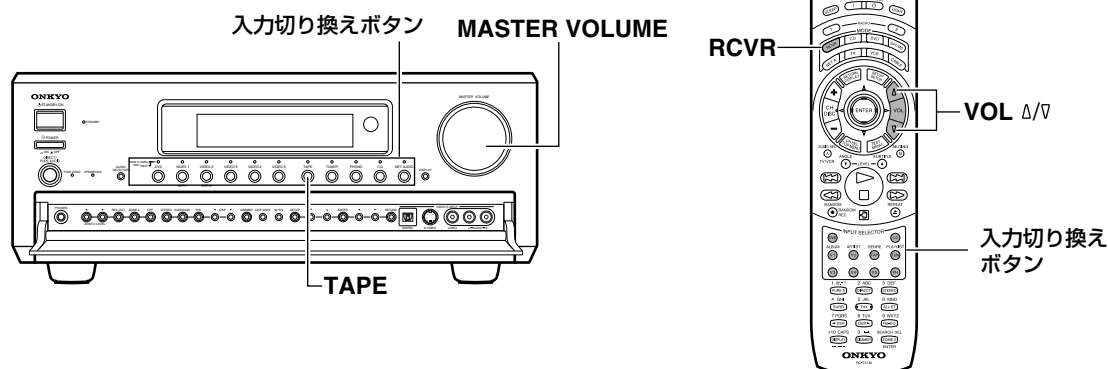
2. ONボタンを押して、本体の電源を入れる（スタンバイ状態を解除する）

スタンバイ状態に戻すには、STANDBYボタンを押します。

メモリー保持について

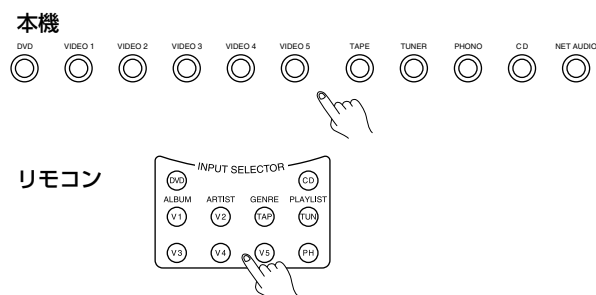
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、登録したスピーカー設定やサラウンド設定などを停電時などに保持するためのものです。2週間以上本機の主電源を切った状態にしておくと、メモリー内容は消えてしまいます。

誤動作するときは

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、静電気などをひろって誤動作するときがあります。このようなときは、主電源スイッチ（POWER）を切（■ OFF）にし、5秒以上たってから再度入（▁ ON）にしてください。

機器を選んで演奏する

基本の操作手順

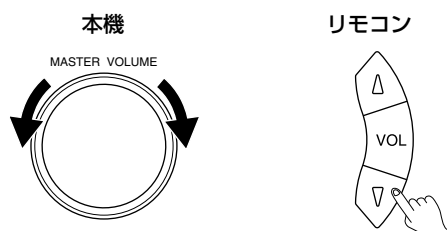
リモコンで操作するときは、はじめにRCVR MODEボタンを押してください

1. 演奏したい入力切り換えボタンを押す

選んだ入力ソースが表示部に表示されます。

2. 選んだ機器の演奏を始める

演奏する機器の取扱説明書をご覧ください。

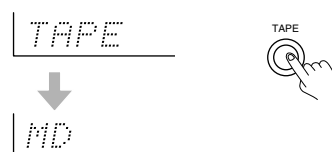
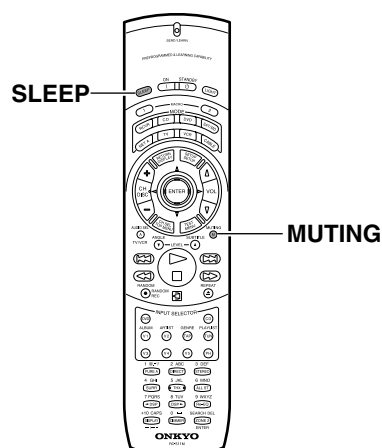
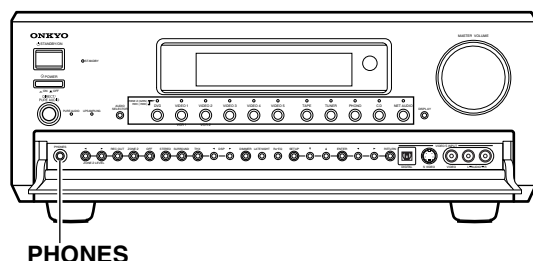
3. 音量を調整する

左右フロント、センター、左右サラウンド、左右サラウンドバックスピーカーおよびサブウーファーの音量を調整します。
右に回すと音量が上がり、左に回すと下がります。リモコンでは、∆ボタンを押すと音量が上がり、∇ボタンを押すと下がります。音量は、0〜100の範囲で調整できます。（64ページの4-1.Volume Setup サブメニューでRelative（相対値）にしている場合は－∞、－81〜+18と表示されます。

お知らせ

サラウンド音声を最適の状態でお楽しみいただくには、スピーカー設定を行ってください。接続したスピーカーの種類、視聴位置からの距離、各スピーカーレベルの調整をします。詳しい手順は47〜49ページのセットアップメニューのスピーカーセットアップの項をご覧ください。

表示部の入力表示をTAPEからMDに切り換える

本機のTAPE端子にMDレコーダーが接続されている場合、TAPEボタンを押したときに、表示部に表示させる入力ソース名をMDとすることができます。

表示を変えるには
TAPEボタンを、TAPE表示がMDに切り換わるまで（約3秒間）押し続けます。

表示を元に戻すには、同じ操作をします。

音を一時的に小さくする

音楽を聞いているときに、電話がかかってきてすぐに音を下げたいときなどに役立ちます。ボタンを押すと、本機の表示部にMutingの表示が現れ、スピーカーとヘッドホンの音声出力が消えます。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

Muting

リモコン

低音と高音を調節する

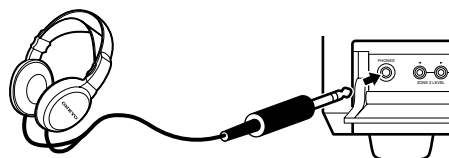
「3-1.ToneControlサブメニュー」の「a.Bass」、「b.Treble」で低音と高音のレベルを調節できます（☞58ページ）。高音調整は、左右フロント、センターにのみ効果があります。低音調整は、左右フロント、センター、サブウーファーに効果があります。
リスニングモードでDirectまたはPure Audioを選んでいる時は、この機能は働きません。

ヘッドホンで聞く

ヘッドホンで聞くには、フロントパネルのPHONES（ホーンズ）端子に標準ステレオプラグを挿入します。リスニングモードは自動的にステレオになり、スピーカーからの音は出なくなります。ヘッドホンプラグを抜くと、元のリスニングモードに戻ります。
ヘッドホン使用時は、リスニングモードは「Direct（ダイレクト）」「Stereo（ステレオ）」「Mono（モノ）」のみです。（ただし、元のリスニングモードにない場合は選べません。）

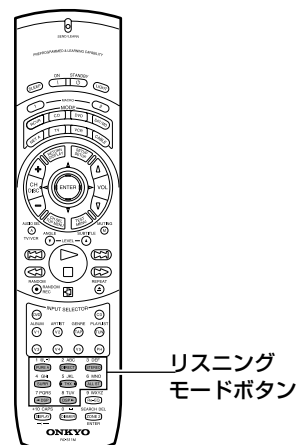
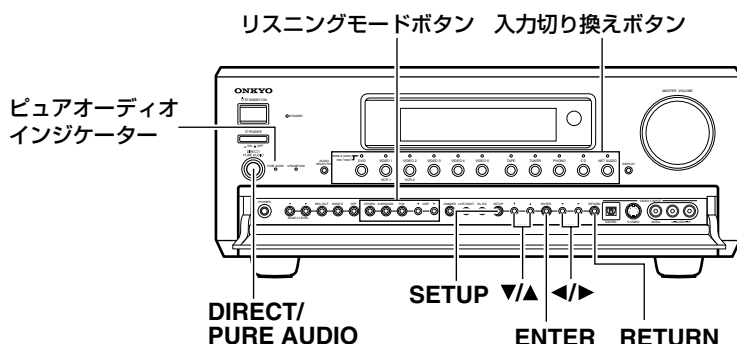
マルチチャンネル入力を選んでいる時は、左右フロントチャンネルの音のみが聞こえます。
また、ヘッドホンの音量は、セットアップメニューで調整することができます。（65ページ参照）

ご注意

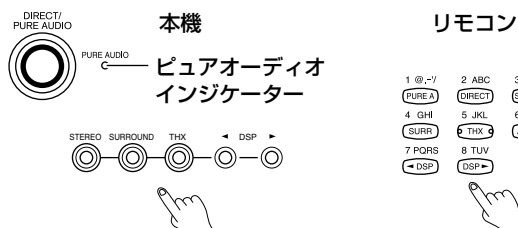
ZONE 2スピーカーからの音は、ヘッドホンを接続した状態でも出力されます。

スリープ時間を設定する（リモコンのみ）

一定時間経過後に自動的に本機の電源が切れるように設定できます。SLEEPボタンを1回押すと90分後に本機の電源が切れます。その後、SLEEPボタンを1回押すごとに本体の電源が切れるまでの時間が10分ずつ短くなります。スリープ機能が有効になっているときにSLEEPボタンを押すと、電源が切れるまでの時間が表示されます。このときにSLEEPボタンを押すと分の桁を切り捨て、さらに押すと10分ずつ減少します。例えば、54分と表示中にSLEEPボタンを押すと50分になり、さらに押すと40→30→20→…となります。表示時間が10分より短くなった時にSLEEPボタンを押すと、スリープ機能が解除されます。

別室（Zone 2）を使用している場合、メインルームと同時に電源が切れます。Zone 2のみにスリープ機能を設定したい場合は、メインルームの電源を入れた状態でスリープ機能を設定し、その後メインルームをスタンバイ状態にしてください。

Sleep 90min

リモコン

リスニングモードを変更する

再生中にリスニングモードを変更するには、フロントパネルまたはリモコンのリスニングモードボタンを押します。本体とリモコンのボタンの機能は同じです。各リスニングモードの詳しい説明は56、57ページをご覧ください。

DIRECT/PURE　AUDIO（リモコン：DIRECT、PURE A）：現在のソースの再生している入力信号のリスニングモードをダイレクトに切り換えます。「2-6.　Listening mode Preset サブメニュー」（☞54ページ）で設定したリスニングモードもDirectに変わります。リスニングモードがDirectの時は、DirectとPure Audioを切り換えます。

ご注意

ピュアオーディオを選ぶと、ピュアオーディオインジケーターが点灯します。ピュアオーディオを選んでいるときは、余計な信号回路をカットするため、コンポーネント端子に接続している機器のOSD（オンスクリーンディスプレイ）は出なくなります。

STEREO：現在のソースの再生している入力信号のリスニングモードをステレオに切り換えます。リスニングモードプリセット（☞56ページ）で設定したリスニングもステレオに変わります。

MPEG2 AAC (音声多重)再生時
Multiplex設定を次のように切り換えます。
Main（主音声）→ Sub（副音声） → M + S（主音声+副音声）

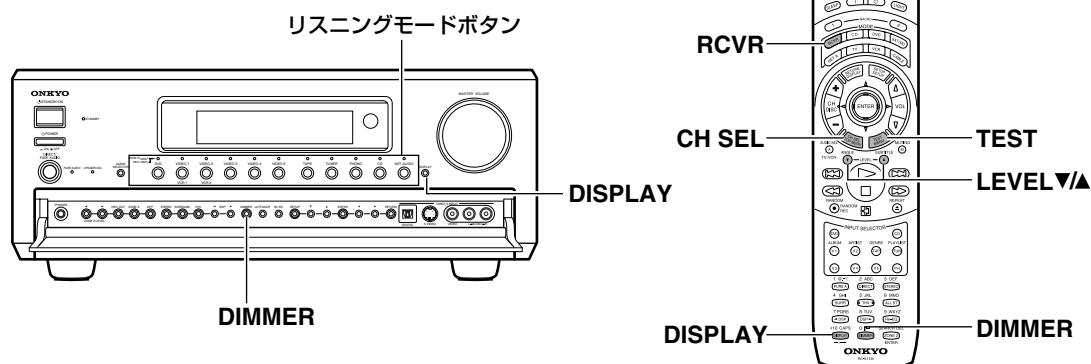
SURROUND（リモコン：SURR）：現在のソースの再生している入力信号のリスニングモードを、入力信号に合ったサラウンド（ドルビーデジタル、ドルビープロロジック II、DTSまたはAAC）に切り換えます。「2-6.　Listening mode Preset サブメニュー」（☞54ページ）で設定したリスニングモードもサラウンドに変わります。

- **ドルビーデジタルソース時**
  Dolby D EXのAuto（自動切換）→ On → Offを切り換えます。
- **DTSソース再生時**
  DTS-ESのAuto（自動切換）→ On → Offを切り換えます。
- **アナログ/PCMソース再生時**
  Pro Logic II Movie → Pro Logic II Music → DTS Neo6:Cinema → DTS Neo6:Musicを切り換えます。
- **D.F.2ch（デジタルフォーマット 2チャンネル）ソース再生時**
  Pro Logic II Movie → Pro Logic II Music→ DTS Neo:6 Cinema→ DTS Neo:6 Music

THX：現在のソースの再生している入力信号のリスニングモードをTHXに切り換えます。

- **ドルビーデジタル／AACソース再生時**
  THX サラウンドEX再生が可能なソースのTHX サラウンドEXの動作モードを切り換えます。
  Auto → On → Off（ドルビーデジタル再生時）
  On→ Off（AAC5.1chソース再生時）
  Pro Logic II Movie → Pro Logic II Music→ DTS Neo:6 Cinema→ DTS Neo:6 Music（AACステレオソース再生時）
  * AAC音声多重放送のときは効きません。
- **アナログ/PCMソース再生時**
  THX処理のためのデコードモードを切り換えます。
  Pro Logic II Movie → DTS Neo6:Cinema
- **DTSソース再生時**
  DTS-ESのモードを切り換えることによって、DTS THX Cinema、DTS-ES Discrete 6.1 THX Cinema、DTS-ES Matrix6.1 THX Cinemaを楽しむことができます。
  DTS-ESのAuto（自動切換）→ On → Off

ご注意

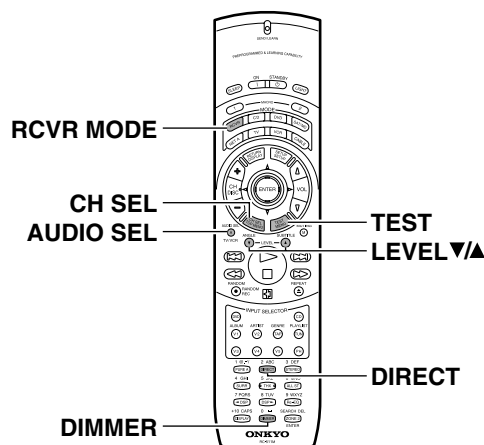
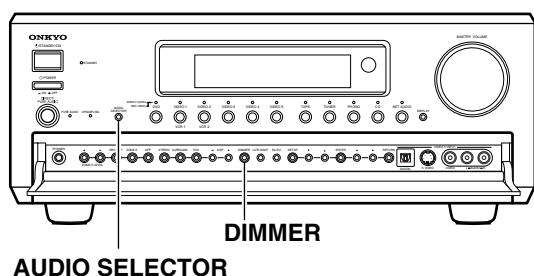
サラウンドバックスピーカーを接続していないとき、「0-2.Surr　Back/Zone　2サブメニュー」で「Surr Back/Zone 2」の設定が「Zone 2」になっているときは、THX Surround EX、DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1は選べません。

DSP ◀/▶：現在再生しているソースの入力信号を次のリスニングモードに切り換えます。
Mono、Theater-Dimensional、Mono Movie、Enhanced 7、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、All Ch Stereo等から選べます。
「2-6. Listening Mode Preset サブメニュー」（☞54ページ）で設定したリスニングモードも変わります。

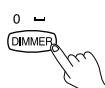
ALL ST（リモコンのみ）：現在のソースを再生している入力信号のリスニングモードをオールチャンネルステレオに切り換えます。「2-6. Listening Mode Preset サブメニュー」（☞54ページ）で設定したリスニングモードもオールチャンネルステレオに変わります。

表示部の表示内容を変える

DISPLAYボタンを押すたびに、表示内容が次のように切り換わります。

＊入力信号が、デジタル音声のとき
プログラムフォーマットを表示します。たとえば、「Dolby D：3/2.1」と表示されたら、ドルビーデジタルで、フロントが3チャンネル（左右フロントとセンター）、サラウンドが左右2チャンネル、LFE（低域効果音）があり、それぞれが独立して記録された5.1チャンネルソースであることを表します。フロントチャンネル数が2のときは左右フロント、1のときはモノラルです。サラウンドチャンネル数が1のときはモノラル、0のときはなしです。LFEに数字がないときは、LFEチャンネルはありません。
また、入力信号にプログラムフォーマットがないときは表示されません。

入力信号がリニアPCMのとき
サンプリング周波数を表示します。たとえば「PCM　fs：44.1k」と表示されたら、PCM信号でサンプリング周波数が44.1kHzであることを表します。

表示部の明るさを調整する

表示部の明るさを設定します。押すたびに次の順で切り換わります。やや暗い→暗い→通常

スピーカーレベルを一時的に調整する

各スピーカーのレベルを一時的に－12dB～＋12dBの範囲で調整することができます。（サブウーファーは－15dB～＋12dB）この調整値は本機がスタンバイ状態になると解除されます。

リモコンで操作する

1. **RCVR MODEボタンを押す**

2. **CH SELボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ**

3. **LEVEL ▲または▼ボタンを押して、音量を調整する**

ご注意

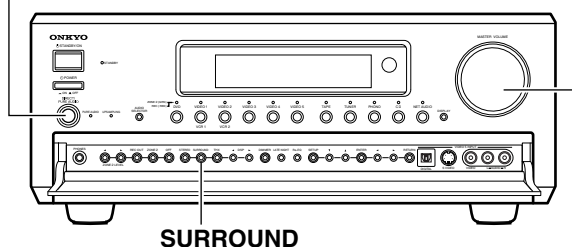
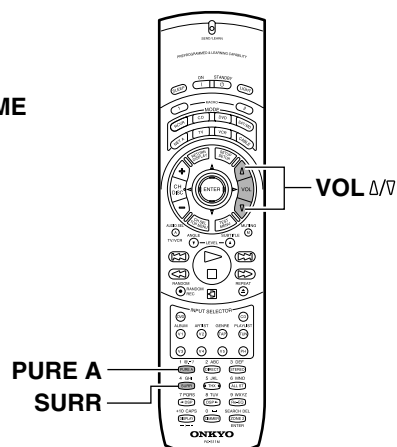
- 「1-1.Speaker Config（スピーカー コンフィグ）」設定で「No」または「None」になっているスピーカーは、レベル調整できません。
- ここで調整した音量を標準のスピーカーレベルとして記憶させたいときはTESTボタンを押してください。

オーディオモードを切り換える

フロントパネルのAUDIO（オーディオ） SELECTOR（セレクター）ボタンもしくはリモコンのAUDIO SELボタンでオーディオ入力信号の種類を選びます。押すたびに、Auto→Multich→Analogと表示が切り換わります。

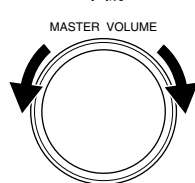
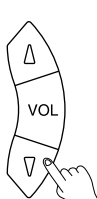
Auto（自動識別）：入力信号のデジタル/アナログを自動識別します。デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。この設定は、「2-1. Digital Setupサブメニュー」の「a. Digital Input」（☞50ページ）で、いずれかのデジタル入力が選択されているとき有効です。

Multich（マルチチャンネル入力）：MULTI CHANNEL INPUT端子に接続したソース機器を再生するとき選びます。この設定は、「2-2. Multichannel Setupサブメニュー」の「a. Multichannel」（☞51ページ）が「Yes」になっているとき有効です。

Analog（アナログ入力）：AUDIO IN端子に接続したソース機器を再生するとき選びます。この設定では、同じ機器からデジタル信号が入力されていても、アナログ信号を選択します。

アナログのマルチチャンネル音声を楽しむ

操作の前に、マルチチャンネル出力を備えた機器が正しく接続されていること、およびInput Seupメニューの「2-2. Multichannel Setupサブメニュー」の設定が「Yes」になっていることを確認してください。（☞ 51ページ）

1. リアパネルのMULTI CHANNEL INPUT端子に接続した機器に対応した入力切り換えボタンを押す
2. フロントパネルのAUDIO SELECTORボタン（またはリモコンのAUDIO SELボタン）を押して、"Multich"を選ぶ

3. マルチチャンネル出力機器の電源を入れ、ソースを再生する
4. MASTER VOLUMEつまみ（またはリモコンのVOL ∆/∇ボタン）で音量を調整する

各スピーカーの音量を調整するには
（☞40ページ「スピーカーレベルを一時的に調整する」）

左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーおよび左右サラウンドバックスピーカーは、－12～＋12dBの範囲で、サブウーファーは－30～＋12dBの範囲で調整できます。

リスニングモードを切り換えるには

DIRECT/PURE AUDIOボタン（またはリモコンのDIRECT、PURE　Aボタン）を押すごとに、「Direct」↔「Pure Audio」と切り換わります。

音質を調整するには

バス・トレブル（低音・高音）の調整ができます。

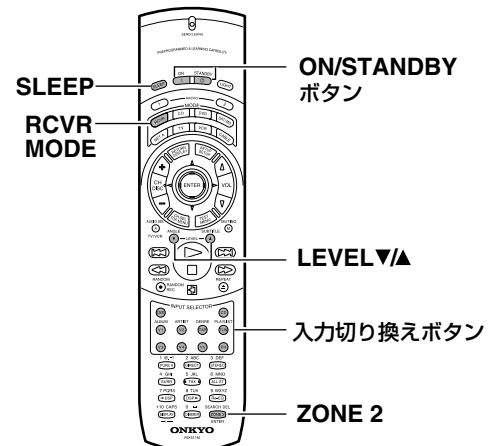
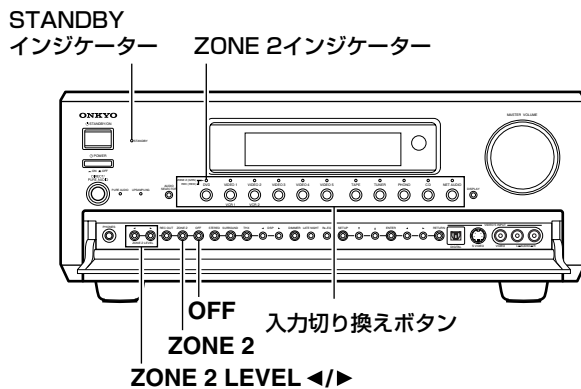
1. SURROUNDボタン（またはリモコンのSURRボタン）を押して、「Tone On」を表示させる

2. 「3-1. Tone Controlサブメニュー」で音質を調整する（☞58ページ）

   解除するときはDIRECT/PURE AUDIO（もしくはリモコンのDIRECT）ボタンを押します。

ご注意

マルチチャンネル入力の各スピーカーレベルは、テストトーンで設定したスピーカーレベルとは独立していますので反映されません。

音楽や映像を別室で楽しむ

本機で操作する

1. **ZONE 2ボタンを押す**
2. **ソースを選ぶ**

   ZONE 2ボタンを押した後、8秒以内に入力切り換えボタンを押してください。ZONE 2インジケーターが緑色に点灯します。この場合、メインルームで入力ソースを切り換えても、ZONE 2のソースは切り換わりません。

   例）CDボタンを押したとき

   Z2 Sel:CD

   メインルームで選択中のソースと同じソースを選択するときは、ZONE 2ボタンを繰り返し押して"Zone2Sel:SOURCE"を表示させます。この場合、メインルームで入力ソースを切り換えると、ZONE 2のソースも切り換わります。

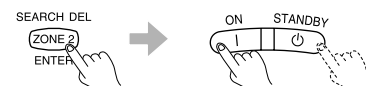
   Z2 Sel:SOURCE

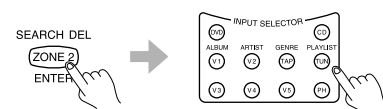
   「Zone2Sel:Off」のときは、Zone 2からの出力はありません。

ご注意

- SLEEPボタンでスリープ時間を設定すると、別室（ZONE 2）でも働きます。
- ZONE 2端子はアナログ出力ですので、デジタル音声は出力されません。選んだソースの音声が聞こえない場合は、その機器がアナログ（L/R端子）接続されているかご確認ください。
- 別室でシステムを使用中にメインルームでREC OUTボタンを押した場合、ZONE 2機能は働かなくなり、別室での再生は停止します。
- 「0-2. Surr Back/Zone 2サブメニュー」の「a. Surr Back/Zone 2」の設定を「Zone 2」にしたときは、メインルームでの7.1チャンネル再生はできません。
- ZONE 2使用時、RIによるシステム動作は働きません。
- ZONE 2使用中はメインルームでPure Audioを選ぶことはできません。
- **ZONE 2機能を使わないときは、ZONE 2ボタンを押してからOFFボタンを押し、ZONE 2インジケーターを消してください。（リモコンではZONE2ボタンを押してからSTANDBYボタンを押します。）**

リモコンで操作する

ZONE 2ボタンを押した後、5秒以内にON/STANDBYボタンを押します。

ソースを選ぶ

ZONE 2ボタンを押した後、5秒以内に入力切り換えボタンを押します。
TUNボタンでチューナーを選んだ場合は、CH+/−ボタンでプリセットチャンネルを選ぶことができます。

ご注意

リモコンのZONE2ボタンを押したあと5秒間は、本機のSTANDBYインジケーターが点滅します。これは、Zone2機能の操作の待機状態であることを意味します。この間は、メインルームでの操作は控えてください。

ZONE 2の音量調整のしかた

ZONE 2スピーカーをSURR BACK/ZONE 2 SPEAKERS端子、またはSURR BACK/ZONE 2 PRE OUT端子に接続したアンプに接続しているときは、以下のように音量を調節します。

フロントパネルで操作する

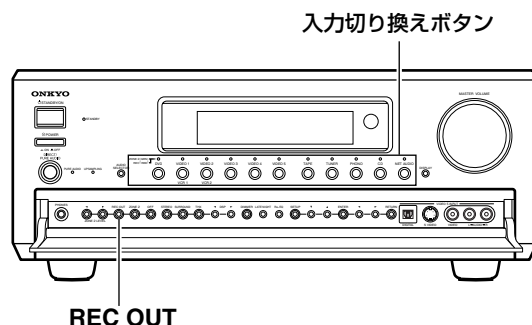
ZONE 2 LEVEL ◀/▶ボタンを押す

リモコンで操作する

1. RCVR MODEボタンを押す。
2. ZONE 2ボタンを押した後、約5秒間本機のSTANDBYインジケーターが点滅するので、その間にLEVEL▲/▼ボタンを押す。

ご注意

ZONE 2スピーカーを、本機のZONE 2 OUT端子に接続したプリメインアンプに接続している場合は、音量調節はプリメインアンプで行ってください。

録音・録画する

お知らせ

- サラウンド効果は録音されません。
- DIGITAL INPUT（COAX）およびDIGITAL INPUT（OPT）の各入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUTPUT（OPT）の出力端子から出力されます。ただし、Net Audioで再生されるMP3、WMA、WAV等の音楽信号は、アナログ音声出力にのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音されるときは、デジタル録音機器（MDレコーダーやDATなど）の取扱説明書もご覧ください。
- MULTICHANNEL INPUT端子に接続したソース機器からの信号は録音できません。

音楽や映画を再生しながら録音・録画する

現在再生中の音楽や映画を録音・録画します。

1. 入力切り換えボタンを押して、録音・録画ソースを選ぶ

2. REC OUTボタンをくり返し押して「Rec Sel : SOURCE」を表示させる

現在選択中のソースからの信号がTAPE OUT、VIDEO 1 OUT、VIDEO 2 OUTの各出力端子に出力され、録音・録画可能な状態になります。

RecSel :SOURCE

3. 録音・録画機器で、録音・録画を始める

設定を確認したいときは、REC OUTボタンを押してください。現在の設定が8秒間、表示管に表示されます。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画するには：

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオを作成できます。
以下の手順は、CD IN端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 5端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキで録音・録画する例です。

1. 入力切り換えボタンを押して、CDを選ぶ

2. SetupメニューのVideo SetupサブメニューでVideoを「Video 5」に設定する（Input Setup→Video Setup→Video）

3. CDプレーヤーにCDをセットし、VIDEO 5端子に接続したビデオカメラにテープをセットする

4. VIDEO 1 OUT端子に接続したビデオデッキにビデオテープをセットする

5. REC OUTボタンをくり返し押して「Rec Sel : SOURCE」を表示させる

これで、CDプレーヤーが音声入力ソース、VIDEO 5が映像入力ソースとして選択されました。

6. ビデオデッキで録画を始め、CDプレーヤーとビデオカメラで再生を始める。

ご注意

- 録音・録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースからの信号が録音・録画されます。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力にのみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- 別室で音楽を楽しんでいるとき（前ページ）でも、メインルームで現在再生中の音楽や映画を録音/録画することができます。
- 録音ソースをチューナーにしているとき、AMからFMにしたり、FMからAMに切り換えると、録音ソースも切り換わります。

再生中に別のソースを選んで録音・録画する

現在再生中の音楽や映画以外のソースを録音・録画します。

1. REC OUTボタンを押す

2. 8秒以内に入力切り換えボタンを押して、録音・録画ソースを選ぶ

再生中のソースとは別に、選択されたソースが表示部に表示され、録音・録画ソースの信号がTAPE OUT、VIDEO 1 OUT、VIDEO 2 OUTの各出力端子に出力され、録音・録画可能な状態になります。

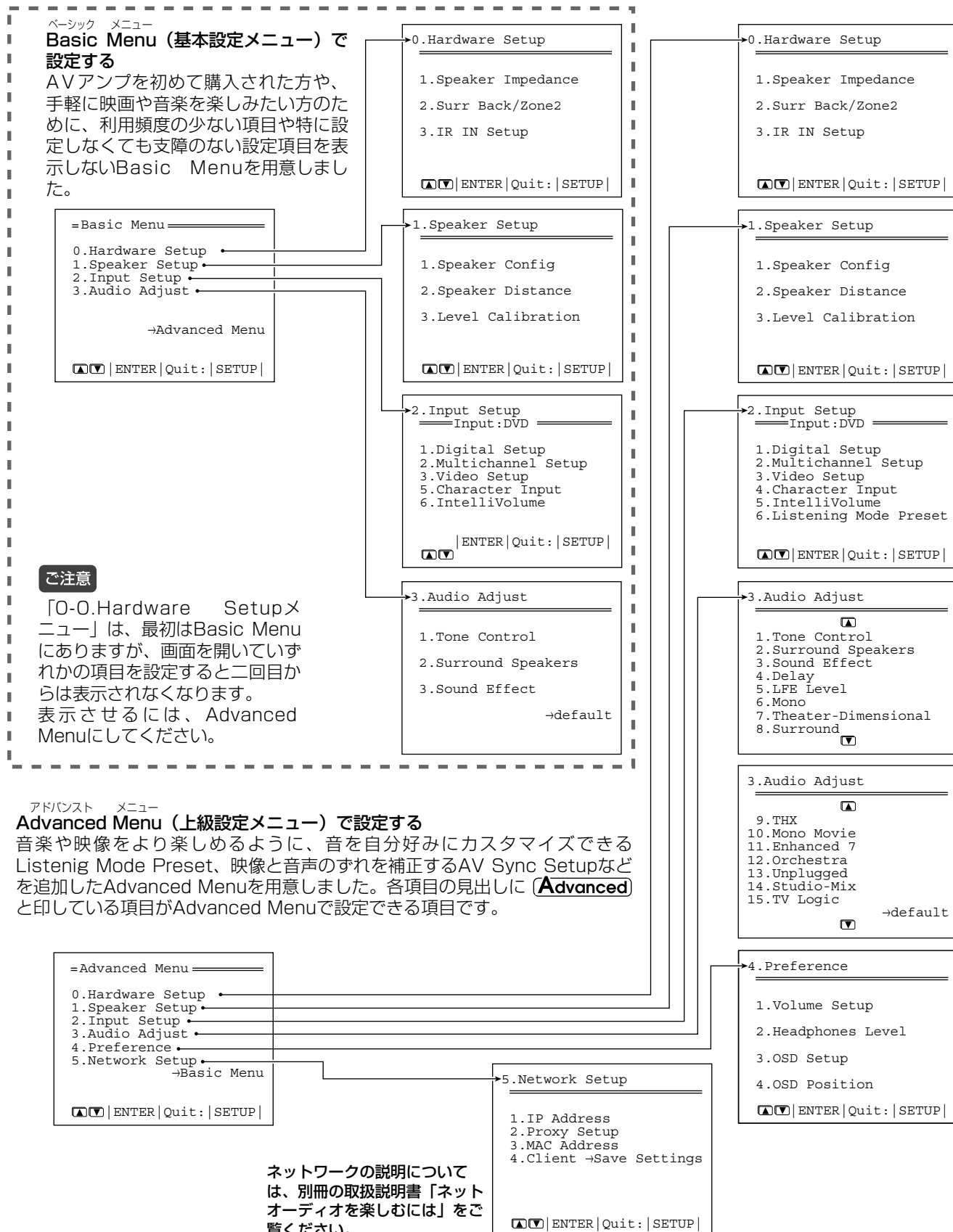
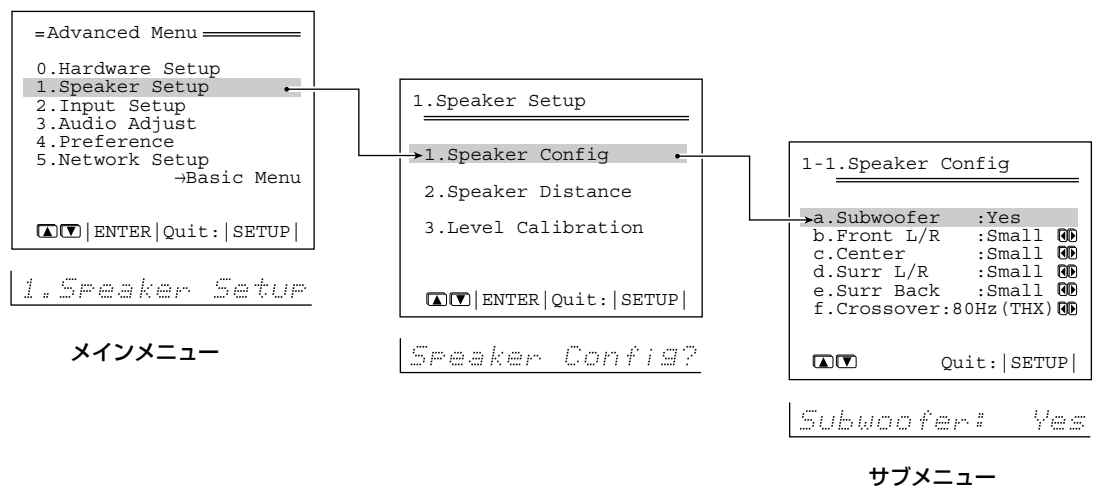
RecSel :VIDEO3

3. 録音・録画機器で、録音・録画を始める

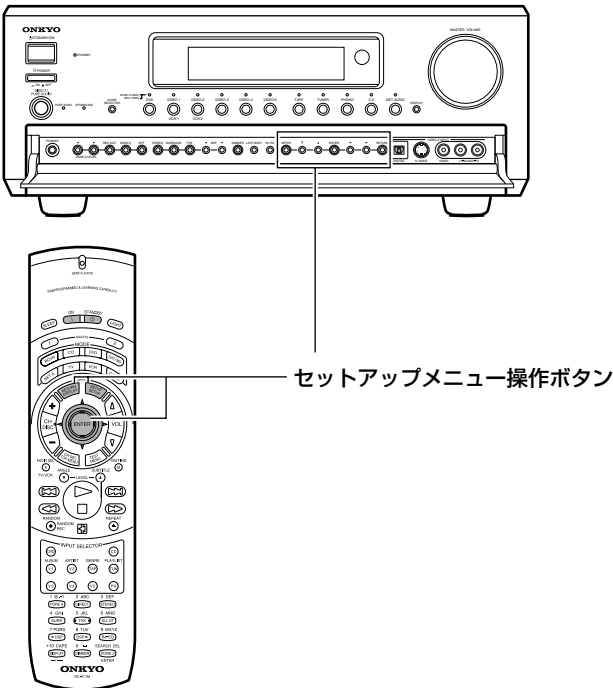
ご注意

リモート出力端子（ZONE 2）と録音・録画出力端子（REC OUT）は同一回路を使用しているため、同時に使用できません。

セットアップメニュー

オンスクリーンのセットアップメニュー（OSD:オンスクリーンディスプレイ）はテレビ画面上に表示される設定メニューです。OSD　メニューにより、スピーカー設定、ソースの選択、オーディオ設定などが行えます。機器の接続と配置が終わったら、まず 「0.Hardware Setup 」と、「1.Speaker Setup 」でスピーカーに関する設定をしてください。この設定は、通常、本機の設置時やホームシアターのレイアウト変更時に行います。
2.Input Setup 画面は、入力ソースがNET AUDIOのときは下記画面と内容が異なります。（別冊の「ネットオーディオを楽しむには」をご覧ください。）

セットアップメニュー操作のしかた

メニュー操作は本機のフロントパネルとリモコンの両方で行えます。
リモコンの各ボタンと本体のボタンとの対応は下の表のようになっています。

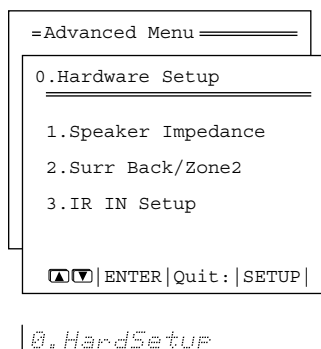
リモコン	本機
メインメニューを表示する、メインメニューを終了する	
SETUP	SETUP セットアップ
メニュー画面や設定項目を選ぶ	
ENTER ボタンの上端	▲ 上へ
ENTER ボタンの下端	▼ 下へ
値（パラメーター）を選ぶ	
ENTER ボタンの左端	◀ 左へ
ENTER ボタンの右端	▶ 右へ
メニュー画面を選ぶ	
ENTER ボタンの中央	ENTER 選ぶ
ひとつの画面に戻る	
RETURN	RETURN 戻る

1. **SETUP（セットアップ）ボタンを押す**
   画面上にメインメニューが表示されます。
2. **▲または▼ボタンを押してメニューを選ぶ**
3. **ENTER（エンター）ボタンを押して、選択したメニューの画面を表示する**
   選択した項目のメニュー画面が表示されます。
4. **▲または▼ボタンを押してサブメニューを選び、ENTERを押す**
   設定を変更するには、▲/▼ボタンで項目を選択し、次に◀/▶ボタンで変更します。
5. **RETURN（リターン）ボタンを押すと設定内容が確定し、メニュー画面に戻る**
   もう一度RETURNボタンを押すと、メインメニュー画面に戻ります。

ヒント

セットアップメニューを1度で消すには、SETUPボタンを押します。

ハードウェアセットアップ (Hardware Setup)

0. Hardware Setupメニュー

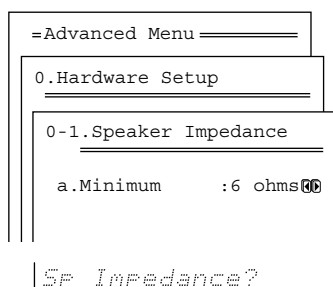
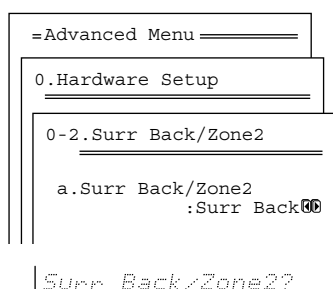
0.HardSetup

基本設定（Basic Menu）では
Hardware Setupメニューは、はじめに本機をご使用になる時に設定してください。
Hardware Setupメニューで、いずれかの項目を一度設定すると、つぎにBasic Menuを表示させたときには表示されません。
後日設定を変えたいときは、Advanced Menuを選ぶと、Hardware Setupメニューが表示されます。

0-1. Speaker Impedanceサブメニュー

使用するスピーカーに合わせて、インピーダンスを設定します。
接続するすべてのスピーカーのインピーダンスが6Ω～16Ωであれば、「6 ohms」を選びます。接続するスピーカーの中に1台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがあれば「4 ohms」を選びます。

ご注意

設定を変更するときは必ず本機の音量を最小にしてください。

Sp Impedance?

0-2. Surr Back/Zone 2 サブメニュー

Surr Back/Zone2?

a. Surr Back/Zone 2（パワードゾーン2出力）

Zone 2：SURR BACK/ZONE 2 PRE OUT端子、またはSURR BACK/ZONE 2 SPEAKESR端子を使って、別室(ZONE 2)で使用するスピーカーを接続している（本機の内蔵アンプを使用する）

Surr Back：SURR BACK/ZONE 2 PRE OUT端子、またはSURR BACK/ZONE 2 SPEAKERS端子を使って、別室(ZONE 2)で使用するスピーカーを接続していない（本機の内蔵アンプを使用しない）

ご注意

SURR BACK/ZONE 2 PRE OUT端子と、SURR BACK/ZONE 2 SPEAKER端子について

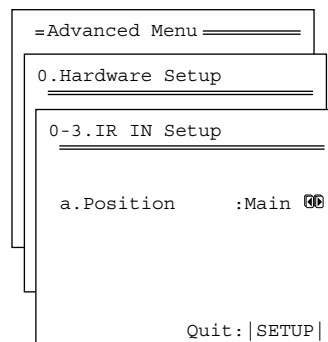
メインの部屋で7.1チャンネル再生を楽しむためには、「a. Surr Back/Zone 2」の設定を「SURR BACK」にしてください。この場合、SURR BACK/ZONE 2 PRE OUT端子と、SURR BACK/ZONE 2 SPEAKER端子からは、サラウンドバックの信号が出力されますので、サラウンドバックスピーカーを、SURR BACK/ZONE 2 SPEAKER端子に接続するか、あるいは、SURR BACK/ZONE 2 PRE OUT端子に接続した外部パワーアンプのスピーカー端子に接続してください。

メインの部屋でサラウンドバックスピーカーを使用せず、本機の内蔵アンプを使用してゾーン 2スピーカーを再生する場合は、「a. Surr Back/Zone 2」の設定を「Zone 2」にしてください。この場合、SURR BACK/ZONE 2 PRE OUT端子とSURR BACK/ZONE 2 SPEAKER端子からは、Zone 2の信号が出力されますので、Zone 2スピーカーを、SURR BACK/ZONE 2 SPEAKER端子に接続するか、あるいは、SURR BACK/ZONE 2 PRE OUT端子に接続した外部パワーアンプのスピーカー端子に接続してください。

このときは、メインルームでは5.1チャンネル再生となりますので、サラウンドバックスピーカーを必要とするDolby Digital EX、THX Surr EXやDTS-ESは選択できなくなります。

0-3. IR IN Setupサブメニュー

IR IN端子に接続したリモコン受光部の位置を選択します。

IR IN Setup?

Main：IR IN端子に接続したリモコン受光部がメインルームにあるときに選びます。

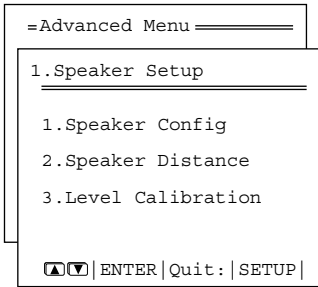
ZONE 2：Zone 2ルームからZone 2の操作をするときに選びます。

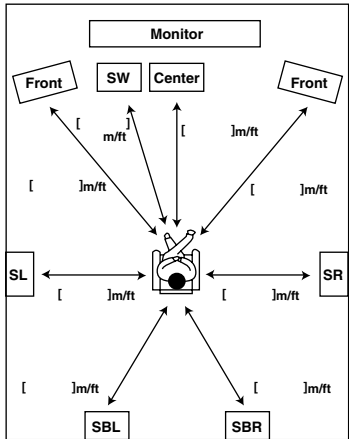
スピーカーセットアップ (Speaker Setup)

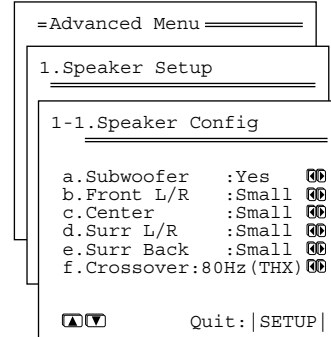
1. Speaker Setup（スピーカー設定）メニュー

映画や音楽を楽しむための最適な音場環境をつくり上げるために、各スピーカーの大きさや視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。

設定を行う前に、まず次の内容を確認してください。

- 接続されているスピーカーの大きさ
- 各スピーカーから通常の視聴位置までの距離

1.Speaker Setup

設定メモ：

1-1. Speaker Config（大きさや種類の設定）サブメニュー

接続しているスピーカーの種類および各スピーカーの大きさを設定します。

Speaker Config?

a. Subwoofer（サブウーファー）
Yes：サブウーファーを接続している
No：サブウーファーを接続していない

b. Front L/R（左右フロント）
Large：大型のフロントスピーカーを接続している
Small：小型のフロントスピーカーを接続している
- Subwooferの設定で「No」を選択した場合は、「Large」に固定されます。

c. Center（センター）
None：センタースピーカーを接続していない
Large：大型のセンタースピーカーを接続している
Small：小型のセンタースピーカーを接続している
- 「b. Front L/R」の設定で「Small」を選択した場合、「Large」は選択できません。

d. Surr L/R（左右サラウンド）
None：左右サラウンドスピーカーを接続していない
Large：大型の左右サラウンドスピーカーを接続している
Small：小型の左右サラウンドスピーカーを接続している
- 「b. Front L/R」の設定で「Small」を選択した場合、「Large」は選択できません。

e. Surr Back（サラウンドバック）
None：左右サラウンドバックスピーカーを接続していない
Large：大型の左右サラウンドバックスピーカーを接続している
Small：小型の左右サラウンドバックスピーカーを接続している

ご注意

- 「d. Surround L/R」の設定で「None」を選択した場合は、項目が表示されません。
- 「d. Surround L/R」で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。
- 「0-2. Surr Back/Zone 2サブメニュー」の「a. Surr Back/Zone2」の設定を「Zone 2」にしているときは、項目が表示されません。（46ページ）

f. Crossover（クロスオーバー）
使用しているスピーカーシステムに対するクロスオーバー周波数を設定します。40Hz、60Hz、80Hz (THX)、100Hz、120Hzから選びます。THX認定のスピーカーシステムを使用しているときは、80Hz (THX)を選んでください。
各スピーカーが分担する周波数の境界をクロスオーバー周波数といいます。
この設定が有効となるのは、「1-1. Speaker Configサブメニュー」にある「a. Subwoofer」の設定が「Yes」の場合、またはスピーカーが「Small」に設定されている場合です。
選んだ周波数よりも低い低音域は、「Small」に設定されたスピーカーではカットされ、サブウーファーまたは「Large」に設定したスピーカーから出力されます。

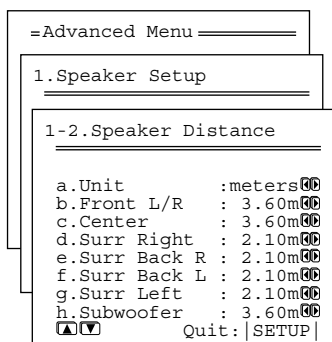
ヒント

「Large」（ラージ）を選んだときは、そのチャンネル信号の全帯域がそのスピーカーに出力されます。
「Small」（スモール）を選んだときは、そのチャンネル信号の80Hz以下の低音域は、サブウーファーに出力されます。
「1-1. Speaker Configサブメニュー」で「a.Subwoofer」の設定を「No」にしているときは、フロントスピーカーのL/Rに出力されます。
（THXスピーカーシステムの場合は、すべてSmallにします。）

1-2. Speaker（スピーカー） Distance（ディスタンス）（距離の設定）サブメニュー

各スピーカーからリスニングポイントまでの距離を設定します。

ご注意

- 前項の「1-1. Speaker Configサブメニュー」で「No」または「None」を選択したスピーカーは表示されません。
- リスニングポジションと各スピーカーごとの距離の差は、6.0m以上には設定できません。

a. Unit (単位)
feet：距離をフィートで指定する
meters：距離をメートルで指定する

b. Front L/R (左右フロント)
左右フロントスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

ご注意

左右フロントスピーカーは、同じ距離に設置してください。そうでない場合は、ステレオのセンター定位が損なわれます。

c. Center (センター)
センタースピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

d. Surr Right (右サラウンド)
右サラウンドスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

e. Surr Back R (右サラウンドバック)
右サラウンドバックスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

f. Surr Back L (左サラウンドバック)
左サラウンドバックスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

ご注意

「0-2. Surr Back/Zone 2サブメニュー」で「a. Surr Back/Zone 2」の設定が「ZONE2」になっているときは、「e. Surr Back R」と「f. Surr Back L」の項目は表示されせん。

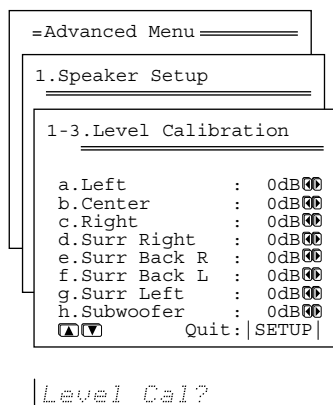
g. Surr Left (左サラウンド)
左サラウンドスピーカーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

h. Subwoofer (サブウーファー)
サブウーファーから通常の視聴位置までの距離を、0.3〜9mの範囲、0.15m単位(1 〜30ftの範囲、0.5ft単位)で設定します。

1-3. Level Calibration（レベル調整）サブメニュー

各スピーカーからの音が同じ大きさに聞こえるように設定します。正しい音場再生をするためには、必ず設定してください。

ご注意

マルチチャンネル入力を使用する場合、ここで行ったスピーカーレベル設定は無効になります。マルチチャンネル入力のスピーカーレベルは、リモコン（RC-511M）のCH SEL、LEVEL▲/▼ボタンを使って調整します（☞41ページ「アナログのマルチチャンネル音声を楽しむ」）。

スピーカーレベルの調整

(1) このサブメニューに入ると、左フロントスピーカーからザーというテスト音が出ます。このときボリュームが自動的に標準レベル（0dB）（または82）まで上がります。このテスト音の大きさを記憶し、▼ボタンを押すと、テスト音がセンタースピーカーから出ます。

(2) センタースピーカーから出るテスト音が左フロントスピーカーのときと同じ大きさに聞こえるように、◀/▶ボタンで調整します。2つのスピーカーから交互に音を出してテスト音の大きさを比較してください。

(3) ▼ボタンを押します。テスト音が右フロントスピーカーから出ます。

(4) (2)と(3)を繰り返し行い、すべてのスピーカーから出るテスト音が同じ大きさに聞こえるように調整します。

ご注意

「1-1. Speaker Configサブメニュー」で「No」または「None」を選択したスピーカーは表示されません。

ヒント

出力レベルを正しく設定するには、サウンドプレッシャーレベルメーター（SPL）を使用して、C-WeightingおよびSlow averagingに設定し、チャンネルごとにSPLの値が75dBになるように調整することをおすすめします。

a. Left（左）
テスト音が左フロントスピーカーから出ます。テスト音のレベルは−12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

b. Center（センター）
テスト音がセンタースピーカーから出ます。テスト音のレベルは−12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

c. Right（右）
テスト音が右フロントスピーカーから出ます。テスト音のレベルは−12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

d. Surr Right（右サラウンド）
テスト音が右サラウンドスピーカーから出ます。テスト音のレベルは−12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

e. Surr Back R（右サラウンドバック）
テスト音が右サラウンドバックスピーカーから出ます。テスト音のレベルは−12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

f. Surr Back L（左サラウンドバック）
サラウンドバックスピーカーが2本のとき、この項目が表示されます。
テスト音が左サラウンドバックスピーカーから出ます。テスト音のレベルは−12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

ご注意

「e. Surr Back R」と「f. Surr Back L」は、「0-2. Surr Back/Zone 2サブメニュー」の「a.Surr Back/Zone 2」の設定を「Zone 2」にしたときは表示されません。

g. Surr Left（左サラウンド）
テスト音が左サラウンドスピーカーから出ます。テスト音のレベルは−12～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

h. Subwoofer（サブウーファー）
テスト音がサブウーファーから出ます。テスト音のレベルは−15～12dBの範囲を、1dB単位で調整できます。

リモコンのTESTボタンを使ってレベル調整する（リモコン操作）

1. TESTボタンを押す

テスト音が左フロントスピーカーから出ます。

(1) このテスト音の大きさを記憶し、CH SELボタンを押すと、テスト音がセンタースピーカーから出ます。

(2) センタースピーカーから出るテスト音が左フロントスピーカーのときと同じ大きさに聞こえるように、LEVEL ▲/▼ボタンで調整します。

(3) CH SELボタンを押します。テスト音が右フロントスピーカーから出ます。左フロントスピーカー、センタースピーカーと同じ大きさに聞こえるように、LEVEL▲/▼ボタンで調整します。

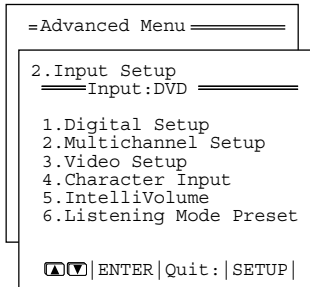
(4) 同様にCH SELボタンを押してスピーカーを選び、すべてのスピーカー（左フロント、センター、右フロント、右サラウンド、右サラウンドバック、左サラウンドバック、左サラウンド、サブフーファー）から出るテスト音が同じ大きさに聞こえるように調整します。

テスト音のレベルは、1dB単位で調整できます。

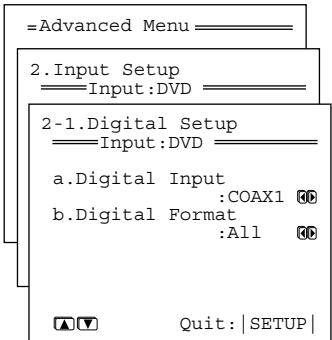
2. TESTボタンを押して終了する

2. Input Setupメニュー

ここで行う設定はフロントパネルの入力切り換えボタンで現在選択しているソースに対して有効です。
本機に接続したさまざまなソース機器からの入力信号の設定を行います。ソースごとに多数の設定項目があるため、後で混乱しないように設定値および対応する機器をメモしておくことをお勧めします。.

入力ソースにNET AUDIO以外を選んだとき

2.Input Setup

2-1. Digital Setupサブメニュー（入力ソースにNET AUDIO以外を選んだとき）

入力ソースに DVD、CD、PHONO、TAPE、VIDEO1-4を選んでいるときに、この画面でデジタル入力を設定することができます。もしもこの設定が正しく行なわれていない場合、入力ソースを選んでもそれに合ったデジタル信号が出力されなかったり、音が聞こえなかったりします。「2-2.Multichannel Setup サブメニュー」で「Yes」に設定されていて、かつ、オーディオモードを「Multich」にしている場合（☞52、40ページ）にもこの画面は表示されません。また、VIDEO5はフロントパネルのOPTICAL固定ですので、入力ソースにVIDEO5を選んだ場合もこの画面は表示されません。

Digital Setup?

入力ソースの初期設定と割り付け可能項目

入力ソース	デジタル入力
CD	OPT2
PHONO	----
TUNER	
TAPE	COAX3
VIDEO 1	COAX1
VIDEO 2	COAX2
VIDEO 3	OPT3
VIDEO 4	OPT4
VIDEO 5	フロントパネルの OPTICAL 固定
DVD	OPT1
NET AUDIO	

-----：初期設定では、割り付けられていません。

（斜線）：割り付けられません。

a. Digital Input（デジタル入力）

リアパネルのデジタル入力端子を入力ソースに割り当てます。
設定を行うには、まずフロントパネルの入力切り換えボタンでデジタルソースを選択し、次にそのデジタルソースが接続されているデジタル入力端子を設定します。

たとえば、CDプレーヤーをDIGITAL INPUT（OPTICAL）1端子に接続している場合、フロントパネルの入力切り換えボタンでCDを選択し、ここで「OPT1」を選択します。入力切り換えボタンで選択した機器をデジタル入力端子に接続していないときは、「----」を選択します。

OPT1～4：デジタル機器をDIGITAL INPUT（OPT）1～DIGITAL INPUT（OPT）4端子に接続している

COAX1～3：デジタル機器をDIGITAL INPUT（COAX）1～DIGITAL INPUT（COAX）3端子に接続している

----：デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない

b. Digital Format（デジタルフォーマット）
割り当てたデジタル入力端子に、優先して検出を行うデジタル信号を設定します。
初期設定は「All」です。「2-1　Digital Inputサブメニュー」の設定で「---」を選択した場合、この項目は表示されません。
初期設定をそのまま使用してもかまいませんが、入力信号のフォーマットに合わせて変更できます（たとえば、ある特定のソースの入力信号フォーマットだけしか再生しない場合など）。

All：入力信号のフォーマットを自動的に検出します。選択したソースが使用する信号フォーマット（ドルビーデジタル、DTS、PCM、AAC）が自動的に検出され、必要なデコード処理が行われます。

DTS：DTS信号のデコード処理を行うときに選択します。デコード処理が行われるのは、DTS信号が入力されたときだけです。

PCM：PCM信号のデコード処理を行うときに選択します。デコード処理が行われるのは、PCM信号が入力されたときだけです。

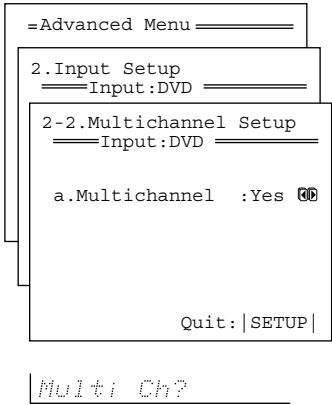
ご注意

- 「All」を選択してPCM信号を再生する場合、CDやLDの早送り後の再生時に音飛びが発生することがあります。その場合は、設定を「PCM」に変更してください。
- 「DTS」を選択しているときは、AUDIO SELECTORボタンで「Auto」を選択していてもDTS信号が入力されていない場合は、Analogに切り換わりません。

DTSについてのご注意

- DTSフォーマットで記録されたCDやLDをPCMの設定で再生すると、DTSエンコード信号をそのまま再生するため、ノイズが出力されます。このノイズを再生すると、アンプやスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTSソースを再生するときは必ずデジタル（OPT/COAX）入力端子に接続し、AllまたはDTSモードの設定で再生してください。
- DTSフォーマットで記録されたCDやLDをAllモードの設定で再生すると、本機が最初のDTSエンコード信号を識別してDTSデコーダーを作動するまでの短時間、ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。
- DTSソースを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。このようなときはDTSモードにして再生してみてください。
- DTSソースを再生しているときには、本機のDTSインジケーターが点灯します。DTSソースの再生が終了してプレーヤーからのDTS信号が止まっても、DTSモードのままとなりDTSインジケーターが点灯したままとなります。これは、プレーヤー側で行うポーズやスキップなどの操作時に発生するノイズを防止するためです。このため、DTS信号からPCM信号に急に切り替わるソースでは、PCM信号がすぐには再生されない場合があります。このようなときには、プレーヤー側でいったんソースの再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。デジタル出力に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機では正しいDTSデータとみなすことができないからです。このような処理を行いながらDTSソースを再生すると、ノイズを発生してしまいます。
- 本機のVIDEO 1 OUT、VIDEO 2 OUT、TAPE OUT、ZONE 2 OUTの各出力端子はアナログ音声を出力しています。このため、DTSフォーマットで録音されたCDやLDを録音しようとする場合、DTSエンコード信号をそのままノイズとして録音することになりますので、アナログ録音はしないでください。

2-2. Multichannel（マルチチャンネル） Setup（セットアップ）（マルチチャンネルの設定）サブメニュー

NET AUDIO以外の入力ソースを選んでいるときに、この画面でマルチチャンネル入力を設定することができます。
DVDプレーヤーやMPEGデコーダーなど、5.1チャンネルまたは7.1チャンネル音声出力を備えた機器をMULTI CHANNEL INPUT端子に接続したときに「Yes」に設定します。たとえば、DVDプレーヤーをMULTI　CHANNEL INPUT端子に接続した場合は、フロントパネルの入力切り換えボタンでDVDを選択した後、このサブメニューを呼び出してMultichannelを「Yes」に設定します。「Yes」に設定すると、AUDIO SELECTORボタンで、オーディオ入力信号をMultich（マルチチャンネル）に設定できます。

Multi Ch?

入力ソースの初期設定

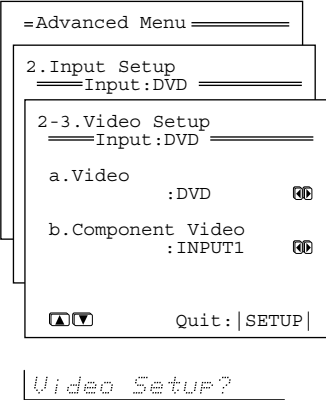
入力ソース	Multichannel
CD	No
PHONO	No
TUNER	No
TAPE	No
DVD	Yes
VIDEO 1	No
VIDEO 2	No
VIDEO 3	No
VIDEO 4	No
VIDEO 5	No
NET AUDIO	No

ご注意

- 実際にMULTICHANNEL INPUT端子に接続をした機器を再生するときは、AUDIO　SELECTORボタンでオーディオモード「Multich（マルチチャンネル）」に設定してください（☞40ページ）。
- マルチチャンネル再生中にこの設定を「No」に変えると、オーディオモード（☞40ページ）は「Analog（アナログ）」に変わります。

いろいろなセットアップ

2-3. Video Setup（ビデオ入力の割り付け）サブメニュー

Video Setup?

a. Video（映像）

入力切り換えボタンに割り当てられた各ソースの映像信号だけを切り換えることができます。映像を別の入力信号にすると、ビデオデッキの映像を見ながら、CDの音声を聞くことなどができます。

初期設定は下の表のようになっています。

選択中のソース	Video
CD	Last Valid
PHONO	Last Valid
TUNER	Last Valid
TAPE	Last Valid
DVD	DVD
VIDEO 1	VIDEO 1
VIDEO 2	VIDEO 2
VIDEO 3	VIDEO 3
VIDEO 4	VIDEO 4
VIDEO 5	VIDEO 5
NET AUDIO	Last Valid

Last Valid（最後に選択したソースを有効にする）：「Last Valid」に設定すると、直前のソースの映像が継続されます。たとえば、入力切り換えボタンでVIDEO 1を選択した後でCDに変更すると、VIDEO 1の映像を継続しながらCD入力端子からの音声が演奏されます。

- 割り当てをしない場合は、「----」に設定します。

b. Component Video（コンポーネントビデオ）

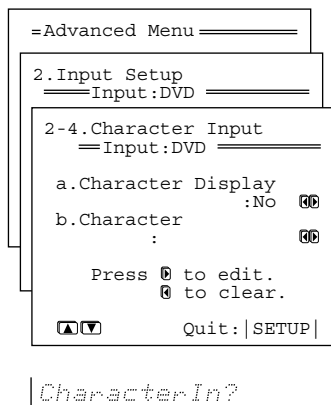
COMPONENT VIDEO入力端子、またはD4 VIDEO入力端子（1または2）のいずれかに機器を接続した場合は、ここで入力の設定を行う必要があります。

入力ソースの初期設定と割り付け可能項目

選択中のソース	コンポーネント映像入力/D4映像入力
CD	Last Valid
PHONO	Last Valid
TUNER	Last Valid
TAPE	Last Valid
DVD	INPUT 1
VIDEO 1	INPUT 2
VIDEO 2	INPUT 2
VIDEO 3	INPUT 2
VIDEO 4	INPUT 2
VIDEO 5	INPUT 2
NET AUDIO	Last Valid

Last Valid（最後に選択したソースを有効にする）：直前の割り付けが継続されます。

2-4. Character Input（文字入力）サブメニュー

入力ソースにネームを付けることができます。10文字までの名前を入力できます。たとえば、VIDEO　4の入力端子にDVDを接続して「DVD2」という名前を付けることができます。また、複数のビデオデッキを接続した場合には、各ビデオデッキの型名やメーカーの名前を入力することができます。

CharacterIn?

a. Character Display (文字表示)

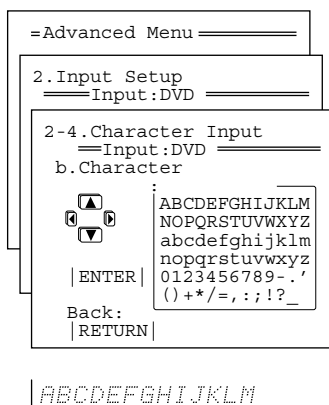
YES：ソースを切り換えたとき、入力した名前を表示します。

No：文字表示をしません。

b. Character (文字)

◀：入力されているキャラクタがある場合は、全てクリアします。

▶：名前を入力する画面に進みます。

ABCDEFGHIJKLM

この画面では、カーソルボタンで希望する文字のところへカーソルを持っていきENTERボタンを押すと、上の10文字の間にその文字が順に入っていきます。入力した文字を間違えた場合は、RETURNボタンを押すとカーソルを左へ動かすことができます。10文字まで入力すると前の画面に戻ります。10文字に満たない場合は、空白（最下段の右端）を選んでください。

すでに何か文字が入っていて修正したいときは、ENTERボタンを押して修正したい文字の上までカーソルを進めます。次に、差し替える文字を選んでENTERボタンを押します。修正したら、前の画面に戻るまでENTERボタンをくりかえし押してください。

本機でキャラクタ入力するには

1. **SETUPボタンを押す。**
2. **▼ボタンを押して「2.Input　Setup」を表示させて、ENTERを押す。**
3. **▼ボタンを押して「Character Input？」を表示させて、ENTERを押す。**
4. **▼ボタンを押して「Chr:　　」を表示させて、▶ボタンを押す。**
5. **入力経過表示（「<　>」）が表示された後、文字選択表示（「ABCDEF・・」）になる。**

   ▲/▼/◀/▶ボタンで希望の文字を選んで、ENTERを押して確定すると入力文字表示になり（2秒間）、文字選択表示に戻ります。

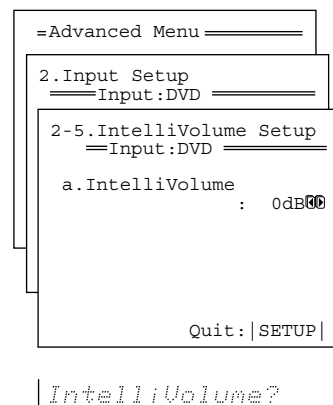
   入力した文字を間違えた場合は、RETURNボタンを押すとカーソルを左に動かすことができます。

   この操作を繰り返し、10文字入力し終えると入力した名前が表示されます。
6. **SETUPボタンを押して終了する。**

入力した文字を修正するには
手順1〜4までの操作は同じです。
手順4で▶ボタンを押すと、入力済みの名前が表示されます。ENTERボタンを押して修正したい文字の上までカーソルを進め、差し替えたい文字を選んでENTERボタンを押します。

入力されている名前を消去するには
手順1〜3までの操作は同じです。手順4で◀ボタンを押します。

2-5. IntelliVolume（音量補正）サブメニュー

各入力ソース間の音量差をなくす補正をしておくことができます。

IntelliVolume?

a. IntelliVolume（インテリボリューム）
接続している機器やソースによって出力レベルが異なるため、入力を切り換えたときに同じボリューム位置にしていても音が大きかったり、小さすぎたりして、そのたびにボリュームで音量調整をし直さなければならないことがあります。そのような不都合を解消するため、各入力ソースの補正をあらかじめ行うことができます。IntelliVolumeを設定するには、まずフロントパネルの入力切り換えボタンでソースを選択し、他の機器よりも出力レベルが低い場合は▶ボタンでdB値を上げ、高い場合は◀ボタンでdB値を下げます。

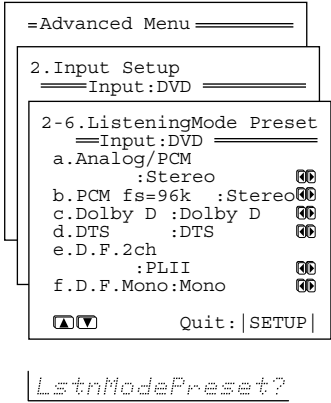
−12dB〜＋12dBの範囲で調整できます。

Advanced

2-6. Listening Mode Preset（入力信号ごとにリスニングモードを設定する）サブメニュー

各ソースの入力信号の種類ごとに異なるリスニングモードを設定できます。たとえば、CD再生のできるDVDプレーヤーを使用する場合、DVDのDolby Digital信号とCDのPCM音声信号に、それぞれ適したリスニングモードを設定できます。

この機能は、同じ種類の映画を再生したり音楽を演奏する場合には特に便利です。

LstnModePreset?

5.1チャンネルデジタルオーディオフォーマットについて

5.1チャンネルとは、フルレンジ（20Hz～20kHz）の5チャンネル（左右フロント、センター、サラウンド2チャンネル）と、低域効果音を記録したLFE（Low Frequency Effect）チャンネルを、それぞれ混ぜ合わせることなく独立して記録・再生するデジタル・オーディオ・フォーマットで、ドルビーデジタルや、DTS、エムペグツーAACなどがあります。データの転送レートなどに違いはあるものの、いずれのフォーマットでも、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドをご体験いただけます。

入力ソースごとの設定（Input Setup）

入力ソースとリスニングモードの関係

●のついているリスニングモードを選ぶことができます。
また、複数のリスニングモードが記載されている欄は、ソースの信号フォーマットにより、いずれかの表示になります。

入力ソースの信号（表示）	a. Analog/PCM	b. PCM fs=96k	c. Dolby D	d. DTS	e. AAC	f. D.F.2ch	g. D.F.Mono
代表的なソース	アナログ/PCM 2チャンネル		デジタルマルチチャンネル			2チャンネル	モノラル
リスニングモード	カセットテープ、ビデオテープ、レコード、FM/AM放送、CD、MD、DVD (Stereo)、LD、BSデジタル放送	DVD (96 kHz/24 bit)	DVD	CD、LD DVD	BS デジタル放送	DVD BSデジタル放送	DVD
Mono（モノ）	●					●	●
Direct/Pure Audio（ダイレクト/ピュアオーディオ）	●	●					
Stereo（ステレオ）	●	●	●	●	●	●*1	
T-D (シアターディメンショナル)	●		●	●	●	●	
Dolby Digital（ドルビーデジタル）			●			●*2	●*2
DTS（ディティーエス）				DTS DTS-ES Matrix 6.1 DTS-ES Discrete 6.1 DTS 96/24		●*3	●*3
AAC					●	●*4	●*4
Dolby EX（ドルビーイーエックス）			Dolby Digital EX		●		
Dolby Pro Logic II（ドルビー プロロジックツー） DTS Neo:6（ディティーエスネオシックス）	PL II Movie PL II Music DTS Neo:6 Cinema DTS Neo:6 Music	PL II Movie PL II Music				PL II Movie PL II Music DTS Neo:6 Cinema DTS Neo:6 Music	
THX（ティーエイチエックスシネマ）	THX Cinema		THX Cinema THX Surround EX	THX Cinema	THX CinemaTHX Surround E	THX Cinema	
Mono Movie（モノ・ムービー）	●					●	●
Enhanced 7（エンハンスド 7）	●		●	●	●	●	
Orchestra（オーケストラ）	●		●	●	●	●	
Unplugged（アンプラグド）	●		●	●	●	●	
Studio-Mix（スタジオミックス）	●		●	●	●	●	
TV Logic（テレビロジック）	●		●	●	●	●	
All Ch Stereo（オールチャンネルステレオ）	●					●	

*1 DTS 96/24のフォーマットで記録されたソースのときは、DTS 96/24 Stereoと表示されます。
*2 ドルビーデジタルソースのときに有効です。
*3 DTSソースのときに有効です。
*4 AACソースのときに有効です。

ご注意

「1-1. Speaker Config サブメニュー」の設定や入力信号フォーマットによっては、上表のすべてのリスニングモードを選べないことがあります。

入力ソースごとの設定（Input Setup）

入力信号の種類

a. Analog/PCM（アナログ/PCM）
アナログソースには、レコード、AM/FM放送、カセットテープなどがあります。PCM（パルスコードモジュレーション）は一種のデジタル音声信号で、圧縮を行わずにCDやDVDに直接記録されます。

b. PCM fs = 96 k
96kHzのサンプリングレートで記録されたデジタルPCMソースのときのリスニングモードを設定します。

c. Dolby D（ドルビーデジタル）
最大5.1チャンネルのサラウンド音声出力が可能な、圧縮されたデジタルデータです。DOLBY DIGITALマークが付いたDVDやLDなどがあります。

ダイアログノーマライゼイション(Dialog norm)
「ダイアログノーマライゼイション(Dialog Norm)は、ドルビーデジタルが備えている機能のひとつです。ドルビーデジタル方式で録音されたソフトを再生するときに、フロントパネルのディスプレイに“Dialog Norm X”(Xは数値)という短いメッセージが表示される場合があります。ダイアログノーマライゼイションとは、再生するソフトが通常より高いレベル、または低いレベルで録音されていることを知らせる機能です。本機は現在の音量に関係なく、自動的にソフトの出力レベルを調整します。ソフトによって音量が変化しても本機の音量を調整する必要はありません。

DialogNorm: +4

d. DTS（ディーティーエス）
DTS（デジタルシアターシステム）は、最大5.1チャンネルのサラウンド出力が可能な、圧縮されたデジタルデータです。圧縮率の低い高音質の音声を提供します。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。ソースとしてdtsマークが付いたCD、DVD、LDなどがあります。

e. AAC（エーエーシー）
MPEG-2（エムペグツー） AAC方式で圧縮されたデジタルデータです。最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。BSデジタル放送に採用されています。

f. D.F. 2ch（デジタルフォーマット2チャンネル）
ドルビーデジタルなどの2チャンネルデジタル方式（PCMを除く）の信号です。2チャンネル音声で録音されたDVD、LDなどがあります。

g. D.F. Mono（デジタルフォーマットモノラル）
ドルビーデジタルなどのモノラルデジタル方式（PCMを除く）の信号です。モノラル音声で録音されたDVD、LDなどがあります。

リスニングモードの種類

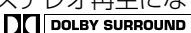
Mono（モノ）
モノラル信号で収録されている古い映画ソフトを再生したり、バイリンガルソースなどで左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVDなどのメディアに記録されたマルチプレックス方式のサウンドトラックを再生できます。

Direct（ダイレクト）
音質調整やフィルターを効かさずピュアな音を聞くことができます。

ステレオサウンドを聞いていただくためソースの音声は左右フロントスピーカーでのみ再生され、サブウーファーからは出力されません。

Pure Audio（ピュアオーディオ）
Pure AudioではDirectモードに加え、表示部を消して、さらに映像回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にし、より原音に忠実な音楽再生を行います。

Stereo（ステレオ）
すべての音声が左右のフロントスピーカーから出力されます。サブウーファーを使うこともできます。

Theater-Dimensional（シアターディメンショナル）
本格的なホームシアターを楽しんでいただくためには、少なくとも左右フロント、センター、左右サラウンドのスピーカーを用意することをお勧めしますが、現状ではフロントスピーカーしか用意できないといったような場合には、このモードを使用することでマルチチャンネル再生をお楽しみいただけます。

このモードは、左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現していますので、最もその効果を体験できる視聴位置（スイートスポット）が存在します。後述のリスニングアングルの説明を参考にしてください。（60ページ)

また、反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合もありますので、できるだけ反射音の影響の少ないセッティングで視聴されることをお勧めします。

Dolby Pro Logic II（ドルビープロロジックII）
ドルビープロロジックが「左右フロント」「センター」「モノラルのサラウンドチャンネル」の4チャンネル信号をマトリックス処理によって2チャンネルに記録し、再生時に4チャンネルに復元していたのに対し、ドルビープロロジックIIは、フィードバックロジック回路により、ドルビーサラウンドなど2チャンネルにマトリックスエンコードされた信号を元の状態に正確に組み替え、5.1チャンネル再生をしています。

映画に最適なMovieモードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードが選択できます。

Movieモードでは、従来モノラルで、音域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、より移動感のある再生が楽しめます。DOLBY SURROUNDマークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のTV番組再生時に楽しむことができます。

Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。

CDなどのステレオ音楽で楽しむことができます。

Dolby D（ドルビーデジタル）
ドルビーデジタルソースを再生するために使用します。

- **Dolby Digital EX（ドルビー デジタル イーエックス）**
  サラウンドEXの技術でエンコードされたサウンドトラックを再生するときに有効です。
- **Dolby EX（ドルビーイーエックス）**
  ドルビーデジタル以外のソースのときに、Dolby Digital EXと同様の効果をかけたいときに使用します。

DTS Neo:6（ディーティーエス ネオシックス）
PCMやアナログ音源など、2チャンネルのソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間のセパレーションも優れています。

DTS Neo:6モードでは、映画の再生に適したCinemaモードと音楽の再生に適したMusicモードの2種類を切り換えることができます。

映画鑑賞に適したCinema（シネマ）モードでは、6.1チャンネルのソースとしてリアルな移動感にあふれたサラウンドサウンドが再現されます。音声がステレオのVHSソフトやテレビ番組などに使用します。

音楽再生に適したMusicモードは、サラウンドチャンネルを使用することで通常のステレオ出力では得られない自然な音場を生み出します。音楽CDをはじめとする各種ステレオ音源の再生に使用します。

DTS（ディーティーエス）
DTSソースを再生するために使用します。

DTS-ES Discrete 6.1（ディーティーエス イーエス ディスクリート6.1）
追加されたサラウンドバックチャンネルを含め、6.1チャンネルすべてがデジタルデスクリートで独立して記録される新フォーマットです。全チャンネルが独立記録されているため、セパレーション感の高いサラウンド再生が可能となります。

DTS-ES Matrix 6.1（ディーティーエス イーエス マトリックス6.1）
追加されたサラウンドバックチャンネルをあらかじめ左右サラウンドチャンネルへマトリックスエンコードして挿入し、再生時に高精度マトリックスデコーダーによって左右サラウンド、サラウンドバックの各チャンネルにデコードするフォーマットです。

DTS 96/24
DTS 96/24の技術でエンコードされたサウンドトラックを再生するときに、自動的にこのモードになります。

AAC（エーエーシー）
AACソースを再生するために使用します。
AACのオーディオフォーマットが音声多重（マルチプレックス）のときは、左右のチャンネルを独立して再生できます。

Multiplex（マルチプレックス）
エムペグAAC音声多重放送を再生するために使用します。
左右のチャンネルを独立して再生できます。

THX
THX方式で再生します。

THXサウンドを忠実に再生するには、THX社認定THXスピーカーシステムのご使用をお勧めします。

- **THX Cinema**
  従来の5.1チャンネルでのTHX方式です。映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画を見るときに適しています。
- **THXサラウンドEX**
  「THXサラウンドEX－ドルビーデジタルサラウンドEX」はドルビーラボラトリーズとTHX社で共同開発されたフォーマットです。

  ドルビーデジタルサラウンドEXの技術でエンコードされたサウンドトラックを映画館で使用すると、ミキシング時に追加されたチャンネルが独立して再生されます。サラウンドバックと呼ばれるこのチャンネルは、従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出します。

  サラウンドバックチャンネルにより、視聴者背後の臨場感にリアルさが増すとともに、これまで以上に、音場に深みと広がりが加わり、定位感が向上します。

  ドルビーデジタルサラウンドEXの技術にもとづいて制作された映画が家庭用に発売される際は、パッケージにそのことが記載されるはずです。この技術にもとづいて制作された映画の一覧はドルビーラボラトリーズのホームページ（http://www.dolby.com）をご覧ください。

  THXサラウンドEX技術を家庭で再生する際は、認定ロゴを冠したレシーバーおよびコントローラーをTHXサラウンドEXモードで使用した場合のみ、正しい効果が得られます。

  本機は、ドルビーデジタルサラウンドEXでエンコードされていない5.1チャンネルプログラムでも、「THXサラウンドEX」モードで再生できます。このような場合、サラウンドバックチャンネルから出る音声の内容はプログラムによってさまざまであり、場合によってはお好みに合わないことがあります。

DSP (Digital（デジタル） Signal（シグナル） Processing（プロセッシング）)モード

Mono Movie（モノムービー）
古い作品などモノラル録音の映画ソースの再生に適したモードです。センターチャンネルからは処理していない音声をそのまま、他スピーカーからは適度な残響処理を施したセンター音声を出力します。モノラルでも臨場感のある雰囲気をお楽しみいただけます。

Enhanced 7（エンハンスド7）
7チャンネルのスピーカーにより自然なサラウンドを再現します。効果音は、自然にサラウンドバックスピーカーに移動します。音楽鑑賞やテレビのスポーツ番組を見るのに適しています。

Orchestra（オーケストラ）
クラシックやオペラに適したモードです。センターチャンネルをカットするとともに、音場イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大きなホールで聴いているような、自然な響きが楽しめます。

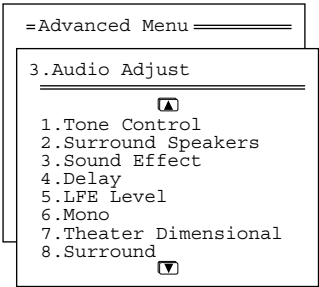
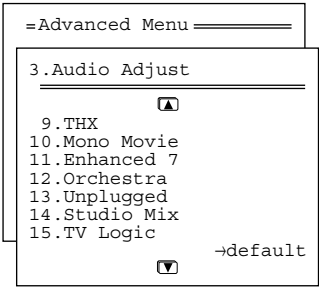
Unplugged（アンプラグド）
アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージを作ります。

Studio-Mix（スタジオミックス）
ロックやポップに適したモードです。生き生きとした躍動感にあふれ、まるでライブハウスにでもいるかのような、迫力ある音場イメージが特長です。

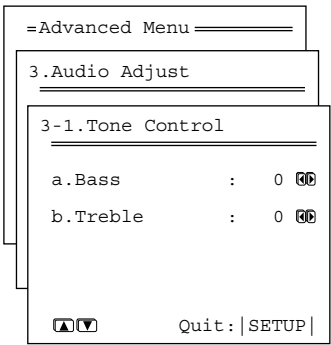
TV Logic（TVロジック）
スタジオ収録のTV番組で、豊かな臨場感を楽しむためのモードです。全体的なサラウンド感とセリフの明瞭度を高めています。

All Ch Stereo（オールチャンネルステレオ）
BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントとサラウンドチャンネルの両方でステレオイメージを作り出します。

3. Audio Adjustメニュー

音声信号に関する各パラメーターの設定を行います。

3.Audio Adjust

3.Audio Adjust

3-1. Tone Control（音声調整）サブメニュー

低音（Bass）または高音（Treble）の強弱を2単位で調整します。Tone　controlはフロントL/R、センター、サブウーファーに有効です。（サブウーファーは、Bassのみ有効です）
設定可能なリスニングモードは55ページの表をご参照ください。

Tone Control?

項目	パラメーター	初期値
a. Bass	－12～+12	0
b. Treble	－12～+12	0

3-2.Surround Speakers（サラウンドスピーカーの設定）サブメニュー

サラウンドバックスピーカーを接続しているときの、5.1チャンネル出力時、サラウンド信号を出力するスピーカーを選択できます。
設定可能なリスニングモードは55ページの表をご参照ください。

項目	パラメーター	初期値
a. Surround Speakers	Surround L/R、Surround Back、Surr L/R + Back	Surround L/R

Surround L/R：左右サラウンドスピーカーに対して通常どおり音声出力を行います。サラウンドバックスピーカーには信号は出力されません。

Surround Back：サラウンドバックスピーカーに対して音声出力を行います。左右サラウンドスピーカーには信号は出力されません。

Surr L/R+Back：左右サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの両方に音声出力を行います。

3-3. Sound Effect（音声効果をかけるための設定）サブメニュー

各サウンド効果を設定します。
設定可能なリスニングモードは55ページの表をご参照ください。

項目	パラメーター	初期値
a. Re-EQ	On、Off	Off
b. Upsampling	On、Off	Off
c. Subwoofer（Analog/PCM）	On、Off	On
d. Late Night	Off、Low、High	Off
e. Multiplex	Main、Sub、Main+Sub	Main

a. Re-EQ（リ・イーキュー）
映画館用にミキシングされた音声をホームシアターのスピーカーで再生すると、高音域が強調される傾向があります。Re-EQは、高音域をホームシアター音声用に補正します。「On」または「Off」の設定が可能です。
このパラメーターはTHXモード以外のリスニングモードのときに有効です。THXモードの場合は、「3-9. THXサブメニュー」で設定してください。また、このパラメータは、本体、リモコンのRe-EQボタンでオン/オフを切り換えることができます。

b. Upsampling（アップサンプリング）
デジタル入力信号（アナログ入力信号はA/D変換後）のサンプリング周波数を現在の2倍に変換し、より細かな音の再生が可能になります。「On」または「Off」の設定が可能です。「On」にすると、Upsamplingインジケーターが点灯します。

c. Subwoofer（サブウーファー）
Speaker ConfigでSubwooferを「Yes」にしていても、アナログ/PCMソースの場合のみサブウーファーからの出力をオフにすることができます。Speaker Configサブメニューのsubwooferで「No」を選択した場合は表示されません。

d. Late Night（レイトナイト）
劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差（ダイナミックレンジ）が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞こうとすると、かなり音量をあげる必要があります。このパラメーターは、ダイナミックレンジを小さくし、全体の音量をあげずに小さな音も聞こえるように調整します。特に夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに役立ちます。「Off」「Low」「High」の設定が可能です。

Off：レイトナイト機能をオフにします。
Low：ダイナミックレンジを小さくします。
High：ダイナミックレンジをさらに小さくします。

- レイトナイトは、ドルビーデジタルソフトでのみ有効です。
- レイトナイトの効果は、ドルビーデジタルソフトによって決まっているため、ソフトによっては効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

e. Multiplex（マルチプレックス）
BSデジタル放送などで、MPEG-2 AAC音声多重放送を再生しているときに、音声を選びます。「Main」は主音声、「Sub」は副音声、「Main+Sub」は、主音声と副音声です。

Advanced

3-4. Delay（音の遅延調整）サブメニュー

音声と映像のタイミングのずれを補正したり、音声出力の時間差を変えることにより、音場を変えることができます。

項目	パラメーター	初期値
a. A/V Sync	0.0 ms 〜 74.0 ms	0.0 ms
Relative Delay		
b. Center	− 4.0 ms 〜 +6.0 ms	0.0 ms
c. Surr L/R	− 4.0 ms 〜 +6.0 ms	0.0 ms
d. Surr Back	− 4.0 ms 〜 +6.0 ms	0.0 ms

a） A/V Sync（A/Vシンク）
映像信号に、プログレッシブ変換などのデジタルシグナルプロセッサーを使用した場合、音声と映像の同期が一致せず、音声が先に聞こえる場合があります。この場合、この設定により音声と映像を正しく同期させることができます。設定は、0〜74.0msの範囲を0.5ms単位で行います。通常は0msに設定します。設定を24.5ms〜74.0msの間にしている場合、アップサンプリング時は強制的に24.0msに設定されます。ただし表示は変わりません。マルチチャンネル端子に接続したソースの場合、このサブメニューは表示されません。

Relative Delay
b） Center, c） Surr L/R, d） Surr Back
スピーカー間の相対的な位置を変更・調整します。レベルと距離の調整に加えてこの機能を用いることにより、リスニングポイントにおける音場の微調整が可能となります。調整には、当社独自の「エンハンスド・スペーシャル・ポジショニング・アルゴリズム （拡張三次元配置アルゴリズム）」が採用されています。このアルゴリズムにより、スピーカーの出力に対して最大10ミリ秒の時間差（ディレイ）をつけることができます。これは、スピーカー間の位置を約3メートル変えることに相当します。調整可能な範囲は、リスニングポイントに対して−4.0〜+6.0ミリ秒（約−1.2〜+1.8メートル）です。
スピーカー出力のレベル調整と距離の調整で音場を大まかに設定した後、この機能を使って、サラウンド環境を設定（標準またはワイド）してください。スピーカー間の位置を調整することにより、音場により広がり（厚み）を持たせたり、反対に、まとめる（シャープにする）ことができます。

ご注意
「0-2.Surr Back/Zone 2サブメニュー」で「a.Surr Back/Zone 2」の設定が「Zone 2」になっているときは、スクリーンに「Surr Back」の表示は出ません。

Advanced

3-5. LFE Level（低域効果音の調整）サブメニュー

ドルビーデジタル、DTS、およびAACソフトのLFE（Low Frequency Effect）レベルを設定します。

項目	パラメーター	初期値
a. Dolby Digital	－∞、－10 dB～0 dB	0 dB
b. DTS	－∞、－10 dB～0 dB	0 dB
c.AAC	－∞、－10 dB～0 dB	0 dB

a. Dolby Digital（ドルビーデジタル）
LFEレベルは－∞、または－10～0dBの範囲を1dB単位で調整できます。ドルビーデジタル入力信号の場合、ここで設定したLFEレベルが使用されます。最適なLFE効果が得られる推奨値は0dB（初期設定）ですが、低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。

b. DTS（ディーティーエス）
LFEレベルは－∞、または－10～0dBの範囲を1dB単位で調整できます。DTS入力信号の場合、ここで設定したLFEレベルが使用されます。最適なLFE効果が得られる推奨値は0dB（初期設定）ですが、音楽ソフトなどで低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。

c. AAC（エーエーシー）
LFEレベルは－∞、または－10～0dBの範囲を1dB単位で調整できます。AAC入力信号の場合、ここで設定したLFEレベルが使用されます。最適なLFE効果が得られる推奨値は0dB（初期設定）ですが、低音域が強調されすぎる場合、必要に応じて値を下げてください。

Advanced

3-6. Monoサブメニュー

リスニングモードで「Mono」を選んだとき、下記の設定が有効になります。

項目	パラメーター	初期値
a. Academy Filter	On, Off	Off
b. Input Channel	Auto L+R,、Left、Right	Auto L+R

a） Academy Filter（アカデミーフィルター）
古いモノラル映画のミキシングでは、上映時に高音を下げることで音のバランスを調節します。これは、フィルムの構造上再生されるヒスノイズが聞こえないようにするためです。高音は、一般に、光学スリット、電気的フィルター、スピーカーレスポンス、スクリーンの組み合わせで下がります。映画によっては、高音域を下げずにビデオへの転送を行った結果、高音が強調されたヒスノイズの多い音が再生されます。本機は、当時、多くのシステムに使用された再生手法に基づいた「アカデミーフィルター」を内蔵しており、「On」または「Off」の設定が可能です。

b） Input Channel（入力チャンネル）
モノラル音声の入力チャンネルを設定します。

AUTO L+R：通常の設定です。ソースがセンターチャンネルの場合は、そのセンターチャンネルをモノラル音声の入力チャンネルとします。それ以外の場合は、L/Rチャンネルのミックス信号をモノラル音声の入力チャンネルとします。

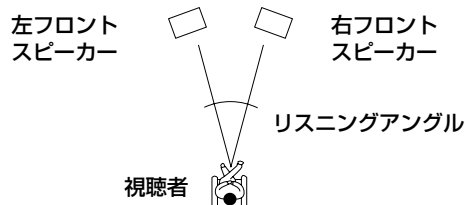
Left/Right：2か国語の情報を含むビデオソースを再生する場合、「Left」または「Right」を選択します。その場合、左右のチャンネルには異なる言語の情報が含まれているので、使用したい言語のチャンネルを選択してください。

Advanced

3-7. Theater-Dimensionalサブメニュー

このサブメニュー画面でパラメーターを設定しておくと、リスニングモードにTheater-Dimensional（T-D）を選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a. Listening Angle	20°、40°	40°
b. Center	On、Off	Off
c. Front Expander	On、Off	Off
d. Virtual Surr Level	－3 dB～+3 dB	0 dB
e. Dialog Enhance	On、Off	Off

a. Listening Angle（リスニングアングル）
リスニングアングルとは、視聴者から見た左右フロントスピーカーに対する角度です。バーチャルサラウンド処理は、この角度をもとに信号処理を行います。20°と40°の二つの角度を選べるようになっています。左右フロントスピーカーから等距離で、かつ選択したリスニングアングルに近い視聴位置がスイートスポットとなります。

b. Center（センター）
シアターディメンショナルモードでは、システムにセンタースピーカーがある場合にはセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーで再生することもできます。これにより、左右フロントスピーカーの負担が軽減され、より明瞭度の優れた音響空間を創造できます。（この場合、左右フロントスピーカーとセンタースピーカーのレベルと到達時間がマッチしていることが大事ですが、「1-2. Speaker Distanceサブメニュー」と「1-3. Level Calibrationサブメニュー」が正しく設定されていれば、自動的にこの条件は満足されます。）

On：センターチャンネルの信号はセンタースピーカーに出力されます。

Off：センターチャンネルの信号は左右フロントスピーカーに出力されます（ファントムセンター）。

c. Front Expander（フロントエクスパンダー）
前方のステレオステージが狭く感じる場合は、左右フロントスピーカーの位置が実際の位置よりも外側にあるかのような処理をすることで、前方ステレオイメージを拡大することができます。特にリスニングアングルが20°といったような狭いリスニング条件の場合 に有効な機能です。

On：フロントエクスパンダーをオンにし、前方のステレオイメージを拡げます。

Off：フロントエクスパンダーをオフにします。

d. Virtual Surr Level（バーチャルサラウンドレベル）
バーチャル処理したサラウンド信号のレベルを調整します。－3～+3dBの範囲で調整できます。また、明瞭度が悪い時や不自然な音がするときにこのレベルを下げることで改善される 場合もあります。

e. Dialog Enhance（ダイアログエンハンス）
Theater-Dimensionalモードで、センターチャンネルにあるセリフや会話が聞き取りにくい場合は、このパラメーターで明瞭度を改善することができます。

On：センターチャンネル信号のボーカルレンジを強調します。

Off：センターチャンネル信号は変更なしにそのまま出力されます。

3-8. Surroundサブメニュー

Advanced

このサブメニュー画面でパラメーターを設定しておくと、リスニングモードにプレーンなDolby DigitalやDTS、AAC、Pro Logic IIを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a. Surr Mode（Analog/PCM）	Pro Logic II Movie Pro Logic II Music Neo:6 Cinema Neo:6 Music	Pro Logic II Movie
b. Surr Mode（D.F.2ch）	Pro Logic II Movie Pro Logic II Music Neo:6 Cinema Neo:6 Music	Pro Logic II Movie
c. Dolby D EX（Dolby D）	Auto、On、off	On
d. DTS-ES	Auto、On、Off	Auto
<Pro Logic II Music> e. Panorama	Off、On	Off
f. Dimension	0、1、2、3、4、5、6	3
g. Center Width	0、1、2、3、4、5、6、7	3
<Neo: 6 Music> h. Center Image	0、1、2、3、4、5	3

a. Surr Mode（Analog/PCM）

2チャンネルアナログ/PCM信号入力時のサラウンドモードを切り換えます。

b. Surr Mode（D.F.2ch）

2チャンネルデジタル信号入力時のサラウンドモードを切り換えます。

c. Dolby Digital EX（Dolby D）（ドルビーデジタル イーエックス）

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、ドルビーEX再生するかどうかを設定します。

Auto：EXフラグ（Surround　EXの識別信号）があるソースの場合、自動的にDolby Digital EX再生になります。EXフラグがなければ、Dolby　Digital再生になります。

On：強制的にDolby Digital EX再生になります。

Off：通常のDolby Digital再生になります。

サラウンドチャンネルがモノラルまたは無しのときは、上記の設定にかかわらず、通常のDolby Digital再生になります。

この設定は、リモコンでも簡単に切り換えることができます。

ドルビーデジタルソースを再生中に、リスニングモードでDolby　Dを選んだあとリモコンのSURROUNDボタンを押すと、Auto → On → Off …と順に切り換わります。

d. DTS-ES（ディーティーエス・イーエス）

DTS-ESモードを切り換えます。

Auto：DTS-ESフラグ（DTS-ESの識別信号）のあるDTSソースが入ってきたときに自動的にDTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1に切り換わります。フラグがなければ、DTS 5.1再生になります。

On：DTS-ESフラグがあれば、自動的にDTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1に切り換わります。フラグがない場合でも、強制的にDTS-ES　Matrix 6.1再生になります。

Off：DTS-ESフラグがあっても、DTS-ES再生は行いません（常にDTS 5.1再生になります）。

e. Pro Logic II Music Panorama（プロロジック II ミュージック パノラマ）

前方の音場を横方向まで広げることができます。

On：PL II Music Panorama効果をオンにします。

Off：PL II Music Panorama効果をオフにします。

f. Pro Logic II Music Dimension（プロロジック II ミュージック ディメンション）

音場を前方あるいは後方に少しずつ調整できます。

3を中心に、2、1、0にすると前方へ、4、5、6にすると後方へ移動します。

録音に広がり感がありすぎたりサラウンドが強すぎる場合、良好なバランスを得るためには、音場を前方に調整します。同様に、ステレオ録音がいくぶんか「モノラル」あるいは「狭い」感じの音である場合、より包み込まれるようにするためには後方へ調整します。

g. Pro Logic II Music Center Width（プロロジック II ミュージック センターウイズス）

プロロジック II デコーディングでは、顕著なセンター信号はセンタースピーカーからのみ出力されることになります。センタースピーカーがない場合、デコーダーはセンター信号をフロント左右スピーカーに等分に振り分け、「ファントム」センター音像を創り出します。

センターウイズスは、センター音像がセンタースピーカーからだけ、あるいはファントム音像としてフロント左右スピーカーからだけ、あるいは種々の割合で三つすべてのスピーカーから聞こえるように、センター音像の可変調整をできるようにします。家庭のユーザーにとって、少量の「幅（ウイズス）」をセンター信号に適用する事はセンタースピーカーとメインスピーカーの配合を改善し、センターの音像幅、すなわち「重量」感に影響を与えます。ステレオ再生用に処理された多くの音楽録音はこのコントロールを使ってよりよい音になります。したがってミュージック（音楽）モードに対して位置「3」の値を使用するコントロールに設定することをおすすめします。これはまた、自動的にコントロールを位置「0」にプリセットされるプロロジック II ムービー（映画）モードとプロロジック II ミュージックモードを区別するのにも役立つことになります。

h. Center Image（センターイメージ）

DTS　Neo:6は、2チャンネルのPCMまたはアナログソースからセンターチャンネルを生成します。

Cinemaモードの場合は、左右2チャンネルからなる映画のサウンドトラックについて、左チャンネルと右チャンネルから差し引いたサウンドを集めてセンターの音像を構成します。

Musicモードの場合は、センターチャンネルを使ってフロントの音像を増強しつつ、ステレオ音声の元の音場を保ちます。この際、フロントの各チャンネルではフロントの音像を強く浮かび上がらせることよりも、フロントの音像を安定させることに重点が置かれます。そのため、左右の各チャンネルから差し引いたサウンドだけでセンターが生成されることはありません。

Center Imageは、左右のチャンネルからどの程度サウンドを差し引くかを調節します。0から5までの6段階で設定でき、初期設定は3になっています。

Center Imageを5に設定した場合、左右のチャンネルからサウンドは差し引かれません。Center Imageを0に設定した場合は、左右の各チャンネルからハーフレベル（－6dB）で差し引かれます。Center Imageの設定を変更しても、センターチャンネル出力に送られる信号レベルには影響ありません。

リスニングポジションとお好みに合わせてCenter Imageを設定します。5に設定した場合は、元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。0に設定した場合は、より中央に寄った感じになり、特にリスニングポジションが中央からかなりずれている場合に有効です。どの設定の場合もセンタースピーカーが音像の中央となります。

Center Imageは、リスニングモードがDTS Neo:6 Musicのときのみ有効です。

Advanced

3-9. THXサブメニュー

このサブメニュー画面でパラメーターを設定しておくと、リスニングモードにTHXを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a. Re-EQ（THX）	Off、On	On
b. Decoder（2ch）	PL II Movie Neo:6 Cinema	PL II Movie
c. THX Surround EX（Dolby D）	Auto、Off、On	On
d. THX Surround EX（AAC）	Off、On	On
e. DTS-ES	Auto、Off、On	Auto

a. Re-EQ（THX）（リ・イーキュー）
映画館用にミキシングされた音声をホームシアターのスピーカーで再生すると、高音域が強調される傾向があります。Re-EQは、高音域をホームシアター音声用に補正します。「On」または「Off」の設定が可能です。
このパラメーターは、THXモードの時に有効です。また、本機の電源をオンにしたときは、「On」に設定されます。
本体、リモコンのRe-EQ（リ・イーキュー）ボタンでオン/オフを切り換えることができます。

b. Decoder（2ch）（デコーダー2チャンネル）
THX処理のためのデコードモードを選びます。

PL II Movie：Dolby Pro Logic II Movieを選びます。

Neo:6 Cinema：DTS Neo:6 Cinemaを選びます。

c. THX Surround EX（Dolby D）
サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby DigitalソースをTHXサラウンドEX再生するかどうかを設定します。

Auto：EX識別信号が有るソースの場合、自動的にTHXサラウンド EX再生になります。

On：EX識別信号の有無にかかわらず、THX サラウンドEX再生を行います。

Off：EX識別信号の有無にかかわらず、THX サラウンドEX再生を行いません（通常のDolby D再生）。

d. THX Surround EX（AAC）
サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、AACのソースをTHXサラウンドEX再生するかどうかを設定します。

ご注意

「c. THX Surround EX（Dolby D）」と「d. THX Surround EX（AAC）」は、「0-2. Surr Back/Zone2サブメニュー」で「a. Surr Back/Zone2」の設定を「Zone2」にしたときと、「1-1. Speaker Config]で「e. Surr Back」を「None」にしているときには表示されません。

d. DTS-ES（ディーティーエス・イーエス）
THX処理のためのDTS-ESモードを切り換えます。

Auto：DTS-ESフラグ（DTS-ESの識別信号）のあるDTSソースが入ってきたときに自動的にDTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1を選びます。フラグがなければ、DTS 5.1になります。

On：DTS-ESフラグがあれば、自動的にDTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1を選びます。フラグがない場合でも、強制的にDTS-ES Matrix 6.1になります。

Off：DTS-ESフラグがあっても、DTS-ESは選びません（常にDTS 5.1再生になります）。

Advanced

3-10. 3-11. 3-12. 3-13. 3-14. 3-15. Mono Movie／Enhanced 7／Orchestra／Unplugged／Studio-Mix／TV Logicサブメニュー

このサブメニュー画面でパラメーターを設定しておくと、リスニングモードにMono Movie、Enhanced 7、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logicを選んだときに、その設定になります。

項目	パラメーター	初期値
a. Front Effect	Off、On	On
b. Reverb Level	Low、Mid、High	Mid
c. Reverb Time	Short、Mid、Long	Mid

a. Front Effect（フロントエフェクト）
ライブコンサートなどが録音されたソースはあらかじめ周囲の残響音が収録されています。このようなソフトを再生するとこれにDSPによる残響音が加わるため過剰な効果となり、雰囲気がぼやけたように聞こえることがあります。このような場合、FRONT EFFECTをオフにするとフロント3チャンネルからの再生音にはDSPによる残響音を加えずに再生しますので、ソースの情報をありのまま再生することができます。

b. Reverb Level（残響レベル）
再生するソース、部屋の状況などに合わせて、残響音の大小を調節します。「Low（ロー）」、「Mid（ミッド）」、「High（ハイ）」の3段階から選べます。

c. Reverb Time（残響時間）
再生するソース、部屋の状況などに合わせて、残響時間の長短を調節します。「Short（ショート）」、「Mid（ミッド）」、「Long（ロング）」の3段階から選べます。

オーディオアジャスト（Audio Adjust 音声信号に関する設定）

3-1.Tone Control サブメニュー、3-2. Surround Speakers サブメニュー、3-3. Sound Effect サブメニューと設定できるリスニングモードの関係

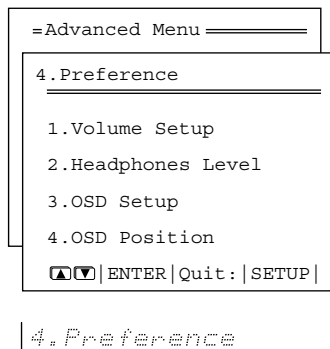
パラメーター ＼ リスニングモード	3-1. Tone Control（トーン コントロール）	3-2. Surround Speakers（サラウンド スピーカーズ）	3-3. Sound Effect（サウンドエフェクト）			
	a. Bass（バス） b. Treble（トレブル）	a. Surround Speakers（サラウンド スピーカーズ）	a. Re-EQ（リ・イーキュー）	b. Upsampling*2（アップサンプリング）	c. Subwoofer*2（サブウーファー）	d. Multiplex*3（マルチプレックス）
Mono（モノ）	●		●		●	
Direct/Pure Audio（ダイレクト/ピュアオーディオ）						
Stereo（ステレオ）	●		●	●	●	
Theater-Dimensional（シアターディメンショナル）	●				●	
Dolby EX（ドルビーイーエックス）	●		●			
DTS（ディティーエス）	●	●	●			
DTS-ES Matrix 6.1（ディティーエス イーエス マトリックス）	●		●			
DTS-ES Discrete 6.1（ディティーエス イーエス ディスクリート）	●		●			
DTS 96/24	●	●	●			
Dolby Digital（ドルビーデジタル）	●	●	●			
Dolby Pro Logic II（ドルビー プロロジックツー）	●	●	● *1	●	●	
DTS Neo:6（ディティーエス ネオ シックス）	●		● *1		●	
AAC						●
THX Cinema (PLII)（ティーエイチエックスシネマ）		●	●		●	
THX Cinema (Neo:6)（ティーエイチエックスシネマ）			●		●	
THX Surround EX（ティーエイチエックス サラウンド イーエックス）			●			
DTS-ES THX Cinema（ディティーエス イーエス ティーエイチエックスシネマ）			●			
Mono Movie（モノムービー）	●	●			●	
Enhanced 7（エンハンスド 7）	●				●	
Orchestra（BGM）（オーケストラ）	●	●			●	
Unplugged（アンプラグド）	●	●			●	
Studio-Mix（スタジオミックス）	●	●			●	
TV Logic（テレビロジック）	●	●			●	
All CH Stereo（オールチャンネルステレオ）	●		●		●	

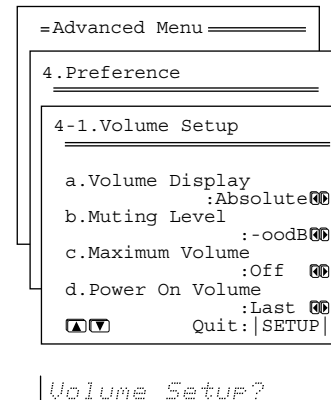
*1 DTS Neo:6 Cinema, PL II Movieのときに有効です。
*2 アナログ/PCMソースのときに有効です。
*3 AAC（音声多重）ソースのときに有効です。

お好みで設定する（Preference）

4. Preference（プリファレンス）メニュー　Advanced

4.Preference

4-1. Volume（ボリューム） Setup（セットアップ）（音量に関するいろいろな設定）サブメニュー　Advanced

本機の音量に関するさまざまな設定を行います。

Volume Setup?

a. Volume Display（音量表示）

画面上に表示する音量設定に関して、次の2つの方法から選択できます。

Absolute（絶対値）：最小Min（0）（無音）〜最大Max（100）の範囲で音量を設定できます。絶対値設定のRef（82）は、相対値設定のレベル0dBに相当します。

Relative（相対値）：音量は、スケール上に0で表示される基準点のdB値で表示されます。この基準点は、絶対値設定の82に相当します。相対値設定では、最小が−∞、次が−81dB、最大が＋18dBとなります。

b. Muting Level （ミューティングレベル）

再生中にリモコンのMUTINGボタンを押した時の音量を設定します。設定は−∞、−50dB〜−10dBの範囲を10dB単位で行えます。

c. Maximum Volume（最大音量）

MASTER VOLUMEつまみの最大出力レベルを設定し、音量が大きくなりすぎないようにします。絶対値方式の音量設定を選択した場合、50〜99の範囲で設定できます。また、相対値方式の場合は、−32〜＋17dBの範囲を設定できます。設定しないときは、「Off」を選びます。

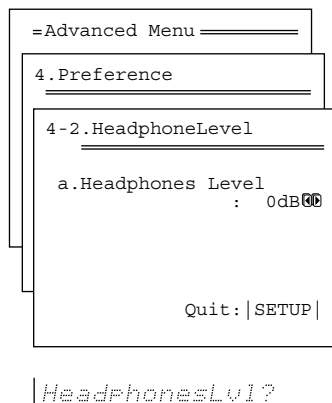
d. Power On Volume

本機に電源を入れた時の音量を設定し、大音量設定時でも、電源オン時に一定の音量が出力されるようにします。絶対値方式の音量設定を選択した場合、0〜100の範囲で設定できます。また、相対値方式の場合は、−∞、−81〜＋18dBの範囲で設定できます。次回電源を入れた時に現在の音量設定を使用したい場合は、「Last」に設定します。

4-2. Headphones Level （ヘッドホンレベルの調整）サブメニュー

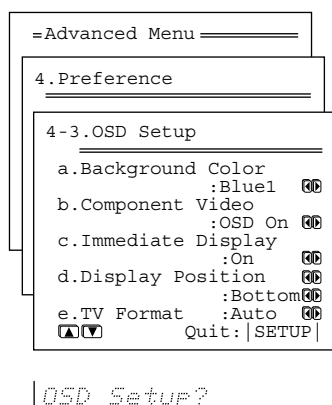
Advanced

スピーカーで聞くときと音量差があるときにヘッドホンの音量を微調整できます。－12dB～＋12dBの範囲で微調整します。

HeadphonesLvl?

4-3. OSD Setup（オンスクリーン表示のいろいろな設定）サブメニュー

Advanced

OSD（オンスクリーン表示）メニューの表示方法をカスタマイズできます。

OSD Setup?

a. Background Color（背景色）

OSDメニューを表示する時の背景色を、Blue1（青1）、Blue2（青2）、Green1（緑1）、Green2（緑2）、Magenta（紅色）、Red1（赤1）、Red2（赤2）の中から選択します。

b. Component Video（コンポーネントビデオ）

コンポーネントビデオ端子に接続しているテレビにOSD（オンスクリーンディスプレイ）を表示するかどうかを選択できます。

OSD On（OSDオン）：OSDを表示するときに選びます。

OSD Off（OSDオフ）：OSDを表示しないときに選びます。

c. Immediate Display（同時表示）

On：操作をした時にすぐに関連画面を表示し、操作終了後しばらく表示されます。たとえば、入力切り換えボタンを押すと選んだ入力が表示されます。

Off：同時表示をしません

VIDEO 1

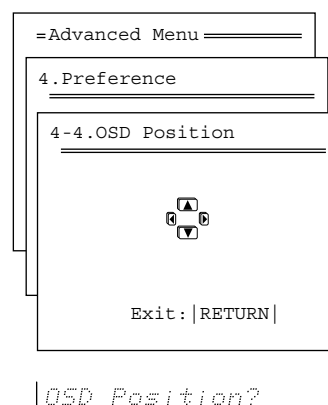
d. Display Position（表示位置）

操作をしたときにすぐに表示される同時表示の位置を設定します。同時表示の位置は、画面のTop（上）からBottom（下）まで、10段階の中から設定できます。

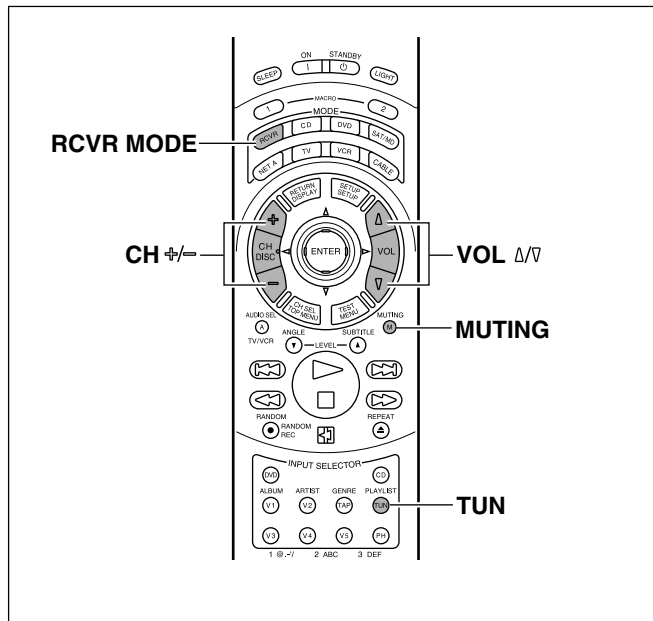
4-4. OSD Position（オンスクリーン表示の位置調整）サブメニュー

Advanced

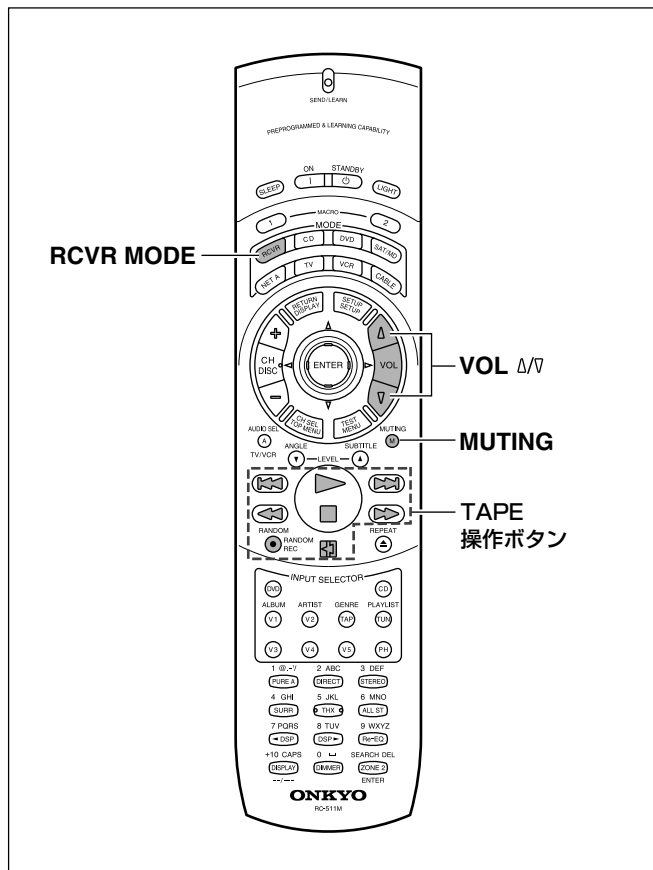
画面に表示されたOSDメニューの位置を微調整できます。使用するテレビによっては、OSDメニューが中央に表示されず、メニューの一部が表示されないことがあります。OSDメニューの位置調整には、カーソルボタンを使用します。移動したい方向のカーソルボタン押すたびに、メニューが少しずつ移動します。

OSD Position?

リモコンでオンキヨー製品を操作する

はじめに

本機のリモコンで、接続した機器が操作できます。
接続した機器を操作するには、はじめにモードボタンで操作する機器を選び、次に各操作ボタンを押します。たとえばCDプレーヤーを操作するには、MODE CDボタンを押してから、CD操作ボタンを押します。
BSチューナーやケーブル、ビデオデッキ、テレビを本機のリモコンで操作するには、ボタンに信号を記憶させてから使います。「リモコンで他社の製品を操作する」（☞ 70ページ）または「リモコンに学習させて他機を操作する」（☞ 74ページ）をご覧ください。

オンキヨー製チューナーを操作する

あらかじめチューナーは RI 接続しておいてください。（☞33ページ）

1. **RCVR MODEボタンを押す**
   RCVR MODEボタンが点灯します。
2. **TUNボタンを押す**
3. **CH+または CH−ボタンを押して、プリセット番号を選ぶ**

オンキヨー製テープデッキを操作する

あらかじめテープデッキは RI 接続しておいてください。（☞33ページ）

1. **RCVR MODEボタンを押す**
   RCVR MODEボタンが点灯します。
2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンが、テープデッキ操作用のボタンです。

操作ボタン

▷: 再生

□: 停止

◁◁: 巻戻し

▷▷: 早送り

▷▷|: 再生中に押すと、次の曲の始めにスキップします。

|◁◁: 再生中に押すと、現在再生中の曲の始めにスキップします。

REC ●: 録音／一時停止

⇆: リバース再生

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇: 本機の音量調整

MUTING: 本機のミューティング

ご注意

録音状態によっては |◁◁ ／ ▷▷| ボタンを押したときに正しく動作しないことがあります。

オンキヨー製DVDプレーヤーを操作する

あらかじめDVDプレーヤーは RI 接続しておいてください。（☞33ページ）

1. DVD MODEボタンを押す

DVD MODEボタンが点灯します。

2. 各操作ボタンを押す

左の図にグレーで示したボタンがDVDプレーヤー操作用のボタンです。

操作ボタン

ON: DVDプレーヤーの電源オン／オフ

STANDBY: DVDプレーヤーの電源オフ (このボタンが働かない場合は、ONボタンを押してDVDプレーヤーをスタンバイ状態にしてください。)

SETUP: DVDプレーヤーのセットアップメニュー表示

∆/∇/◁/▷: DVDプレーヤーOSDのカーソル移動

ENTER: DVDプレーヤーOSDの決定

RETURN: DVDプレーヤーOSDのリターン

TOP MENU／MENU: トップメニューまたはメニュー表示

DISC ✣/━: DVDチェンジャーのディスク選択

AUDIO SEL: 音声言語の選択

ANGLE: カメラアングルの選択

SUBTITLE: 字幕の選択

SEARCH: サーチ

RANDOM: ランダム再生

⏮: チャプター／トラックダウン

⏭: チャプター／トラックアップ

▷: 再生

□: 停止

◁◁: 早戻し

▷▷: 早送り

⏸: 一時停止

⏏: ディスクトレイの開閉

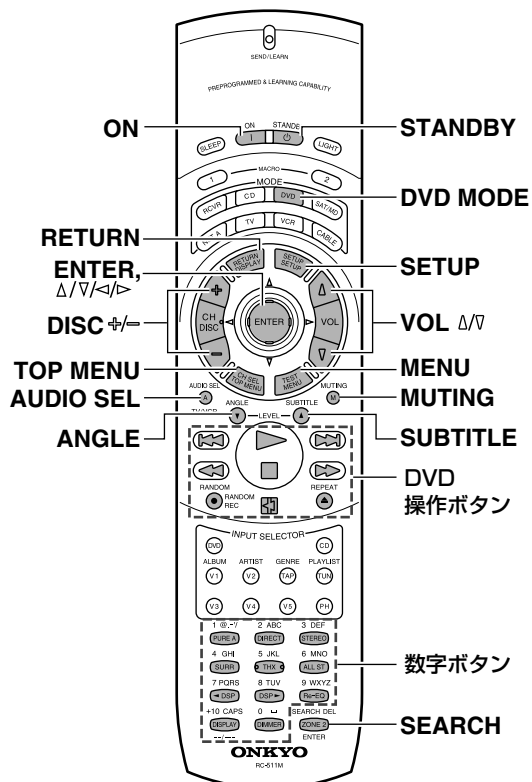
0, 1から9, +10: 数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇: 本機の音量調整

MUTING: 本機のミューティング

ご注意

DVDプレーヤーを RI 接続していないとき、または RI 端子のないDVD プレーヤーを操作するときは、リモコンコードを記憶させる必要があります。（☞70ページ）

オンキヨー製CDプレーヤーを操作する

あらかじめCDプレーヤーは RI 接続しておいてください。
(☞33ページ)

1. **CD MODEボタンを押す**
   CD MODEボタンが点灯します。

2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンが、CDプレーヤー操作用のボタンです。

操作ボタン

ON: CDプレーヤーの電源オン／オフ（STANDBY ボタンも同じ働きです）

DISC +: CDチェンジャーのディスクの選択

⏮: トラックダウン

⏭: トラックアップ

▷: 再生

□: 停止

⏪: 早戻し

⏩: 早送り

⏸: 一時停止

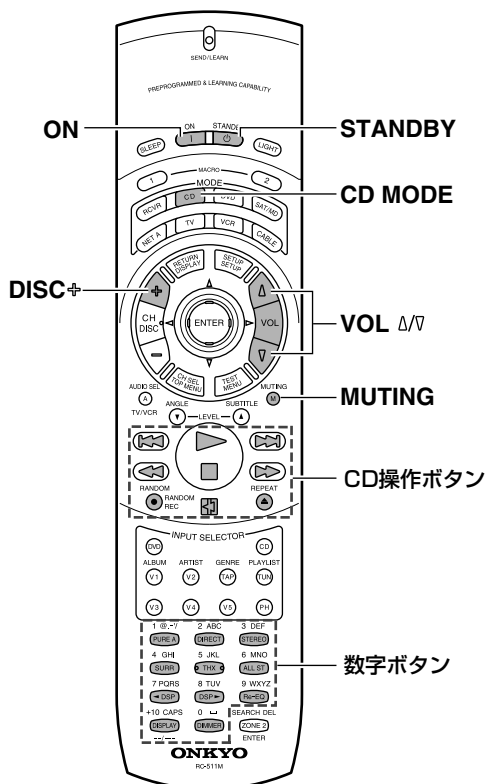
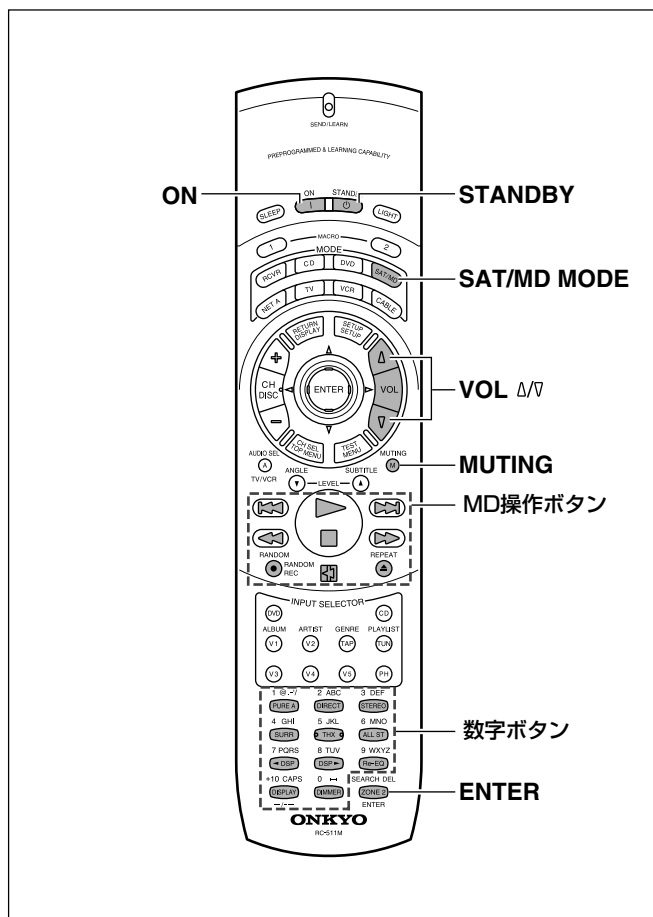
⏏: ディスクトレイの開閉

0, 1から9, +10: 数字ボタン

RANDOM: ランダム再生

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇: 本機の音量調整

MUTING: 本機のミューティング

オンキヨー製MDレコーダーを操作する

あらかじめMDレコーダーは RI 接続しておいてください。（☞33ページ）

1. **SAT/MD MODEボタンを押す**
   SAT/MD MODEボタンが点灯します。

2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンがMDレコーダー操作用のボタンです。

操作ボタン

ON: MDレコーダーの電源オン／オフ（**STANDBY** ボタンも同じ働きです）

⏮: トラックダウン

⏭: トラックアップ

▷: 再生

□: 停止

◁◁: 早戻し

▷▷: 早送り

REC●: 録音

⏸: 一時停止

⏏: 取り出し

1から9, 0, --/---: 数字ボタン

ENTER: 決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇: 本機の音量調整

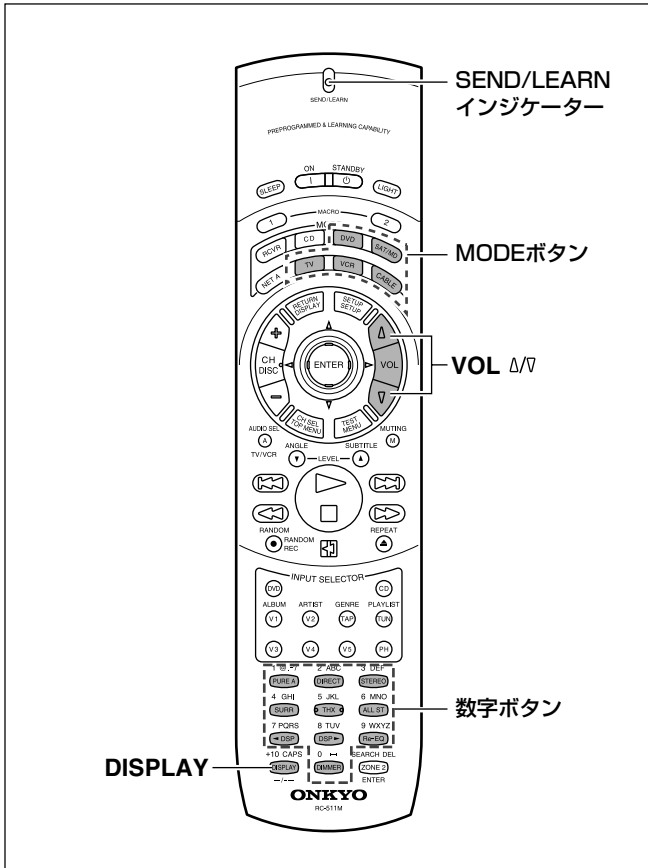
MUTING: 本機のミューティング

ご注意

SAT/MDボタンは、サテライトチューナーの操作とオンキヨー製MDレコーダーの操作を兼用しています。
70ページの方法でサテライトチューナーのプリセットコードを記憶させた場合は、オンキヨー製MDレコーダーを操作することはできません。
オンキヨーMDレコーダーを操作できるようにするには、75ページの「あるMODEボタンに登録したすべてのボタンの信号をまとめて消去する」にしたがって、サテライトチューナーの信号を消去してください。

リモコンで他社の製品を操作する

リモコンコードを記憶させるには、次の3つの方法があります。

- 他機のリモコンコードを登録する
- リモコンに学習させて他機を操作する（☞ 74ページ）
- マクロ機能を使う（☞ 76ページ）

機器によっては、正しく操作できないことがあります。その場合は、「リモコンに学習させて他機を操作する」（☞ 74ページ）の方法で学習させてください。

他機のリモコンコードを登録する

次ページのコード表を参照しながら操作してください。

1. 登録したい他機のメーカー名別コード（3桁）を確かめる（☞次ページ）

2. 操作したい他機の電源を入れる（DVD、チューナー、TVなど）

3. 登録したいMODEボタンを押しながら、DISPLAYボタンを押し、両方から指を離す

MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、DISPLAYボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが再び点灯します。

4. 30秒以内に、3桁のコードを入力する

SEND/LEARNインジケーターが、2回ゆっくり点滅します。3回すばやく点滅したときは、登録に失敗しているので、改めて手順3から操作してください。

5. 登録したボタンを押して、他機を操作する

- もし他機が操作できないときは、手順3に戻って登録をやり直してください。
- 登録をやり直しても他機が操作できないときは、「リモコンに学習させて他機を操作する」（☞ 74ページ）の方法でボタンごとにコードを登録してください。

オンキョー製DVDプレーヤーのコードを登録するときは

次の3種類のコード番号があります。DVDプレーヤーの使用方法に応じて、選んでください。

No. 601/613: これらのコードでは、RI 端子がついていない、または RI 接続していないDVDプレーヤーを直接操作することができます。まず「601」を登録し、正しく動作しないときは、「613」にしてください。

No. 600: このコードでは、RI 接続しているDVDプレーヤーを操作することができます。リモコンは本機のリモコン受光部に向けて操作できます。初期設定は「600」になっているので、そのまま使用するときは設定の必要はありません。「601」または「613」設定の状態から「600」設定に戻すときに操作してください。

リモコンで他社の製品を操作する

リモコンコード表

ご注意
複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

DVD（DVDプレーヤー）

ブランド名	コード番号
デノン	602, 609
日立	603
JVC（日本ビクター）	604
ケンウッド	605
マグナボックス	606, 613
マランツ	607
三菱	608, 613
オンキヨー	600, 601, 613
パナソニック	609
パイオニア	610
プロスキャン	611
RCA	611
ソニー	612
東芝	613
ヤマハ	609, 614
ZENITH	613, 615

SAT（衛星放送チューナー）

ブランド名	コード番号
ECHOSTAR	700
GENERAL INSTRUMENTS	701
日立	702
HUGHES NETWORK SYSTEMS	703
パナソニック	704
PRIMESTAR	705
プロスキャン	706, 707
RCA	706, 707
ソニー	708
東芝	709

CABLE（ケーブルテレビ）

ブランド名	コード番号
GENERAL INSTRUMENTS	500
GEMINI	501
HAMLIN	502, 503, 504, 505
JERROLD	500, 506, 507, 508, 509, 510, 511, 512, 513, 514
MACOM	515, 516, 517
マグナボックス	518
OAK	519, 520, 521
パナソニック	522, 523
フィリップス	524, 525, 526, 527, 528, 529
パイオニア	530, 531
SCIENTIFIC ATLANTA	532, 533, 534
サムソン	535
TOCOM	536
ZENITH	537, 538

VCR（ビデオデッキ）

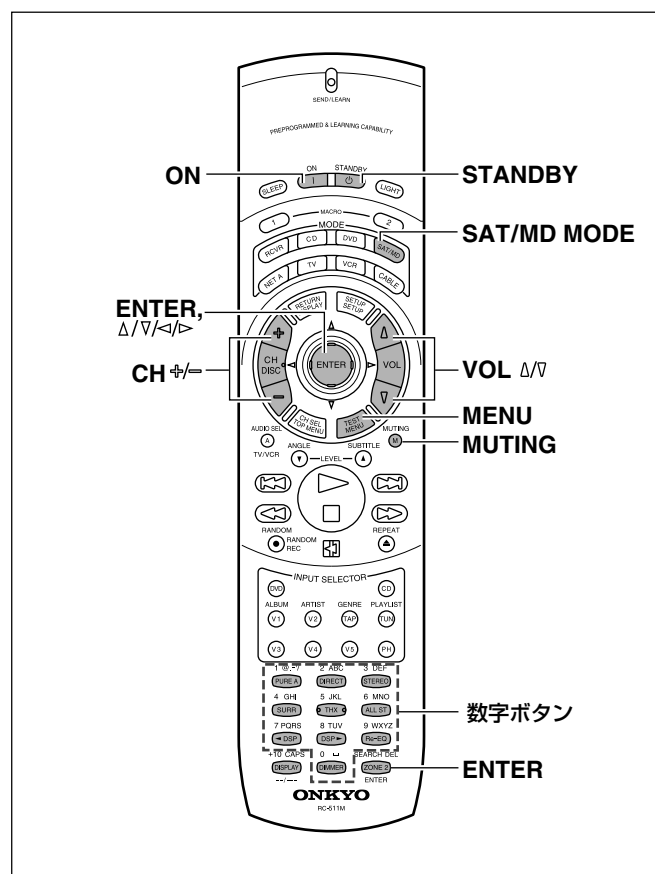
ブランド名	コード番号
アイワ	300, 301, 302
アカイ	303, 304, 305, 306, 307
BAIRD	308
ベルハウエル	309
BLAUPUNKT	310
CGM	311, 312, 313
COLTINA	314
DAEWOO	315, 316
DIGITAL	317
エマーソン	318, 319, 320, 321, 322
FENNER	323
フィッシャー	324, 325, 326, 327
富士通ゼネラル	328
フナイ	329
GE	330, 331
GO VIDEO	332, 336, 337
ゴールドスター	333, 334
グッドマンズ	335
GRUNDIG	338
日立	339, 340, 341
JVC（日本ビクター）	342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350
LOEWE	351, 352
マグナボックス	353, 354, 355
三菱	356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364
NEC	365, 366, 367
ノキア	313
NORDMENDE	368, 369, 370
OKANO	371, 372
オリオン	319, 373
パナソニック	374, 375, 376, 377, 378
フィリップス	353, 379, 380
PHONOLA	311
パイオニア	381
RCA	382
SABA	383
サムソン	384, 385, 386, 387, 388, 389, 390
サンヨー	391, 392, 393
SCOTT	394
SELECO	395
シャープ	396, 397, 398, 399
SHINTOM	400
SIEMENS	401
ソニー	402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409, 410, 411, 412, 413
シンフォニック	414
TEKNIKA	414, 415
TELEFUNKEN	416, 417
東芝	418, 419, 420
WHITE WESTINGHOUSE	333
WATSON	421
ZENITH	422

TV（テレビ）

ブランド名	コード番号
アイワ	100, 101
アカイ	102, 103, 104
オーディオソニック	105
ベルハウエル	106
BLAUPUNKT	107
BRIONVEGA	108, 109
CENTURION	110
COLTINA	111, 112, 113
CORONAD	114
クラウン	115, 116
DAEWOO	117, 118, 119, 120, 121
DUAL	122
エマーソン	123, 124, 125, 126, 127
FENNER	128, 129
FERGUSON	130, 131
フィッシャー	132
フナイ	133, 134, 135
富士通ゼネラル	136, 137, 138
GE	139, 140, 141
ゴールドスター	142, 143
グッドマンズ	144
GRUNDIG	145, 146
日立	147, 148, 149, 150
ハイパー	151
INNO HIT	152
IRRADIO	103
JVC（日本ビクター）	153, 154, 155, 156, 157
KENDO	158
KTV	159, 160
LUXOR	161
マグナボックス	162, 163
マランツ	164
マーク	165
マツイ	166, 167, 168, 169
三菱	170, 171, 172, 173
MIVAR	174, 175
NEC	176, 177
ノキア	178, 179, 180, 181
OCEANIC	181
NORDMENDE	182, 183
OKANO	152
オリオン	184, 185, 186
パナソニック	187, 188, 189, 190
フィリップス	152, 162, 191
パイオニア	192, 193
プロスキャン	194
QUASAR	195
RADIO SHACK	196
RCA	110, 141, 197, 198, 199, 200
SABA	182, 183, 201
サムソン	202, 203, 204, 205, 206, 207, 208
サンヨー	209, 210, 211, 212
SCHNEIDER	103
SEARS	213
SELECO	214, 215
シャープ	216, 217
ソニー	218, 219, 220, 221, 222, 223
シンフォニック	224, 225
TELEFUNKEN	201, 226, 227
トムソン	228
東芝	213, 229
UNIVERSUM	230
ZENITH	231, 232

リモコンで他社の製品を操作する

ここでの操作をする前に、あらかじめリモコンコードを記憶させてください。（☞70ページ）

ON
STANDBY
SAT/MD MODE
ENTER, ∆/∇/⊲/⊳
CH +/–
VOL ∆/∇
MENU
MUTING
数字ボタン
ENTER

DVDプレーヤーを操作する

67ページの説明と同じ操作ができます。

BSチューナーを操作する

1. SAT MODEボタンを押す

SAT MODEボタンが点灯します。

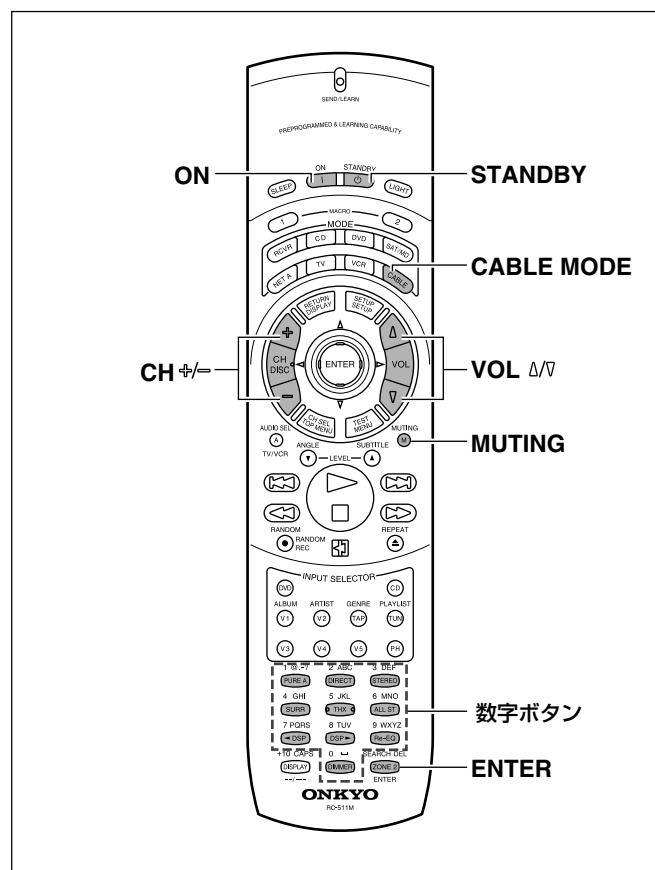
2. 各操作ボタンを押す

左の図にグレーで示したボタンがBSチューナー操作用のボタンです。

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON: BSチューナーの電源オン／オフ
（**STANDBY**ボタンも同じ働きです）
CH +/–: プリセット局の選局
∆/∇/⊲/⊳: カーソル移動
ENTER: 決定
MENU: メニュー表示
0,1から9: 数字ボタン
ENTER: 決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇: 本機の音量調整
MUTING: 本機のミューティング

ケーブルテレビを操作する

1. CABLE MODEボタンを押す

CABLE MODEボタンが点灯します。

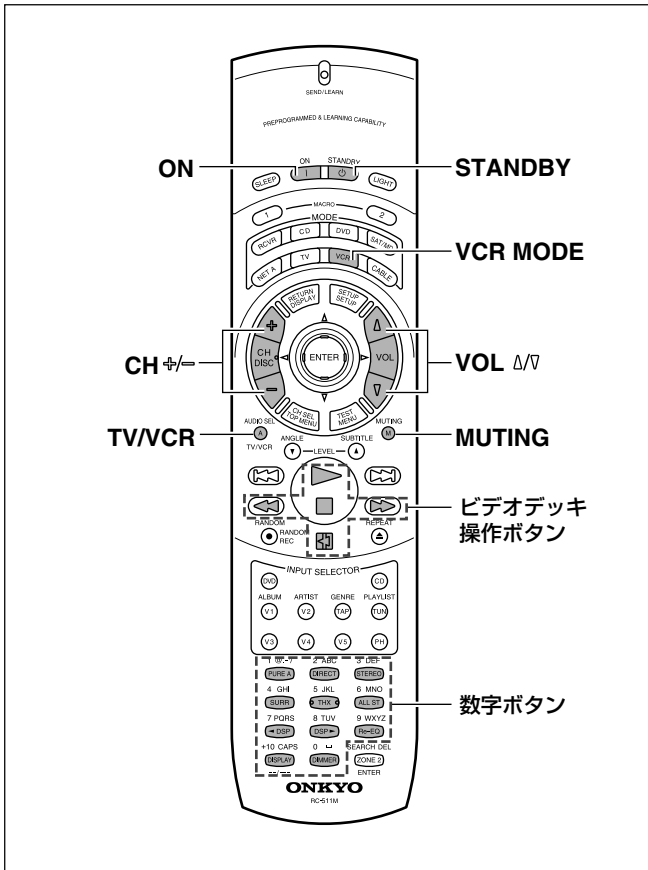
2. 各操作ボタンを押す

左の図にグレーで示したボタンがケーブルテレビ操作用のボタンです。

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON: ケーブルテレビの電源オン／オフ
（**STANDBY**ボタンも同じ働きです。）
CH +/–: プリセットチャンネル番号の選択
0,1から9: 数字ボタン
ENTER: 決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇: 本機の音量調整
MUTING: 本機のミューティング

ビデオデッキを操作する

1. **VCR MODEボタンを押す**
   VCR MODEボタンが点灯します。

2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンがビデオデッキ操作用のボタンです。

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON: ビデオデッキの電源オン／オフ（STANDBYボタンも同じ働きです）

CH +/−: プリセット局の選局

TV/VCR: テレビ／ビデオの切り換え

▷: 再生

□: 停止

◁◁: 巻戻し

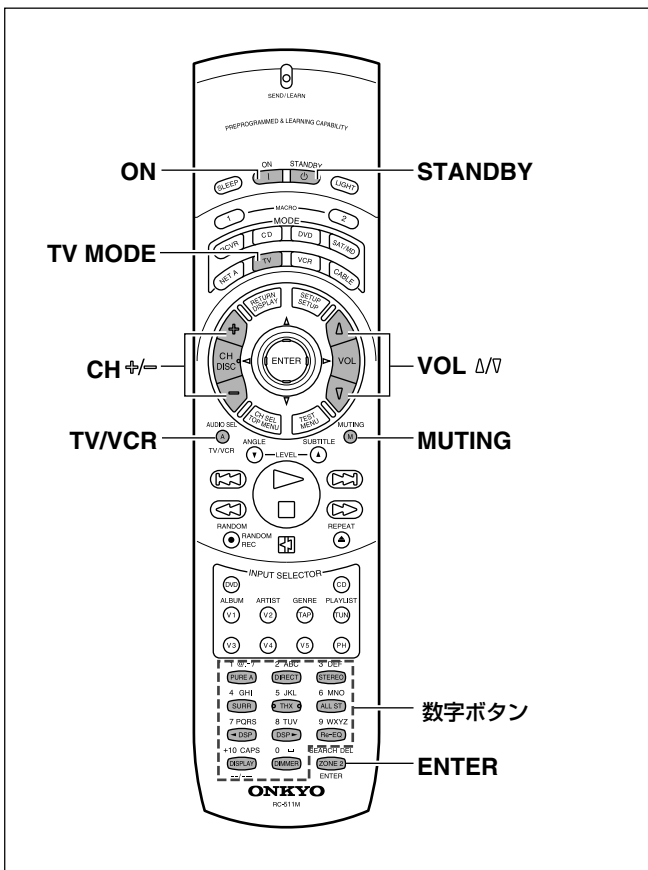
▷▷: 早送り

⧈: 一時停止

0,1から9, +10: 数字ボタン

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇: 本機の音量調整

MUTING: 本機のミューティング

テレビを操作する

1. **TV MODEボタンを押す**
   TV MODEボタンが点灯します。

2. **各操作ボタンを押す**
   左の図にグレーで示したボタンがテレビ操作用のボタンです。

操作ボタン（リモコンコード記憶後）

ON: テレビの電源オン／オフ
（STANDBYボタンも同じ働きです）

CH +/− : チャンネル選択

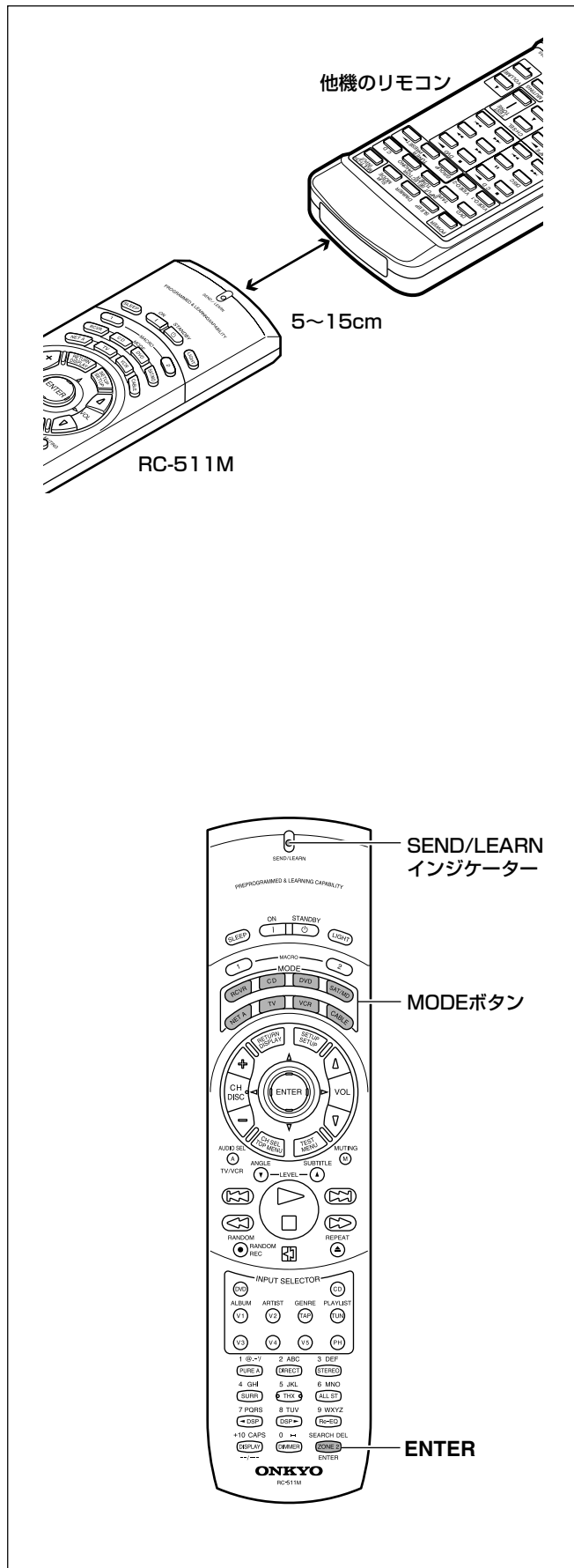
TV/VCR: テレビ／ビデオの入力切り換え

0,1から9, +10: 数字ボタン

ENTER: 決定

下記のボタンも操作することができます。

VOL ∆/∇ : テレビの音量調整

MUTING: テレビのミューティング

他機のリモコンから学習させる手順

他機のリモコンコードを本機のリモコンに学習させる場合、まずどのMODEボタンにコードを学習させるかを選択します。転送元の機器に合ったMODEボタンを選ぶのが一般的です。たとえばCDプレーヤーのリモコンコードを学習させる場合は、CD MODEボタンを押します。

使用するMODEボタンが決まったら、本機のリモコンのボタンに他機のリモコンコードを1つずつ転送します。各リモコンコードは、それぞれ異なるボタンに登録します。8つのMODEボタン（RCVR、CD、DVD、SAT/MD、NET A、TV、VCR、CABLE）、2つのMACROボタン（1と2）、そしてLIGHTボタン以外は、どのボタンにも登録できます。

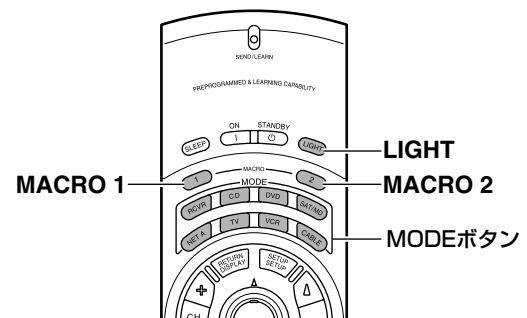
電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

1. **他機のリモコンと本機のリモコンを、5〜15cm離して置く**

2. **学習させたいMODEボタンを押しながら、ENTERボタンを押し、指を離す**

   MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが再び点灯します。

3. **登録する操作ボタンを押して、指を離す**

   下記に示したボタン以外なら、どのボタンに登録することもできます。ボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。
   押すボタンを間違えたときは、同じボタンをもう一度押してください。SEND/LEARNインジケーターが2回点滅し、学習モードが解除されます。

：登録できないボタン

4. **他機のリモコンの登録したい操作ボタンを、SEND/LEARNインジケーターが2回点滅するまで押し続ける**

   SEND/LEARNインジケーターは2回点滅したあと、再び点灯します。

5. **同じMODEで別の操作ボタンを登録する場合は、手順3〜4を繰り返す**

   別の機器のリモコンのコードを学習させるなど、異なるMODEボタンを選んで登録する場合は、手順2〜4を繰り返します。

6. **学習を終了する場合は、手順2で選んだMODEボタンを押す**

7. **登録したボタンで正しく操作できることを確かめる**

リモコンに学習させて他機を操作する

ご注意

- 本機のリモコンは、オンキョー製CDプレーヤー、テープデッキ、DVDプレーヤー、MDレコーダー用のコードをすでに記憶しています。しかし、これらのボタンに他機のコードを記憶させることもできます。記憶内容を消去すると（☞右項）、元の働きに戻ります。
- すべてのモードのすべてのボタンに学習させようとした場合にメモリーが足りなくなる場合があります。リモコンのメーカーや機種によっても記憶できるボタン数が違う場合がありますので、ボタンの優先順位を決めて学習させてください。
- 学習操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときや、無効な操作をしたときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、学習モードが解除されます。そのときは、手順2から操作してください。
- 学習操作を間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、学習モードが解除されます。そのときは、手順3から操作してください。
- 学習操作を続けて5回間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、学習モードが解除されます。そのときは、手順3から操作してください。
- 学習容量を超えた場合は、SEND/LEARNインジケーターが6回すばやく点滅し、学習モードが解除されます。そのときは、別のMODEボタンを選んで操作してください。
- すでにコードが登録されているボタンに、新しいコードを記憶させるときも、同じ手順で操作します。そのときは、新しいコードが上書きされます。
- 本機のリモコンは、ほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- リモコンによっては、1つのボタンで複数の操作を実行させるものがあります（たとえば、ボタンを押すたびに機能が切り換わるものなど）。その場合は、各機能を別々のボタンに記憶させてください。
- 本機のリモコンに記憶させた他機の操作方法については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 本機および他機のリモコンの電池は新しいものをご使用ください。電池が消耗していると、学習操作ができないことがあります。

記憶させたコードを消去する

消去できるのは学習されたコードのみです。あらかじめプリセットされているコードを消すことはできません。

1. **消去したいボタンのあるMODEボタンを押しながら、ENTERボタンを押し、指を離す**

   MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが再び点灯します。

2. **消去したいボタンを押して、指を離す**

   ボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。

3. **消したいボタンをもう一度押して、指を離す**

   SEND/LEARNインジケーターがゆっくり2回点滅します。

ご注意

操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。

あるMODEボタンに登録したすべてのボタンのコードをまとめて消去する

1. **消去したいMODEボタンを押しながら、ENTERボタンを2回押し、指を離す**

   MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、ENTERボタンを押すと消えます。SEND/LEARNインジケーターが消えてから、指を離してください。指を離すと、SEND/LEARNが2回ゆっくり点滅したあと、再び点灯します。

2. **消したいMODEボタンをもう一度押して、指を離す**

   指を離すと、SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。これで消去が完了し、元の状態に戻ります。

ご注意

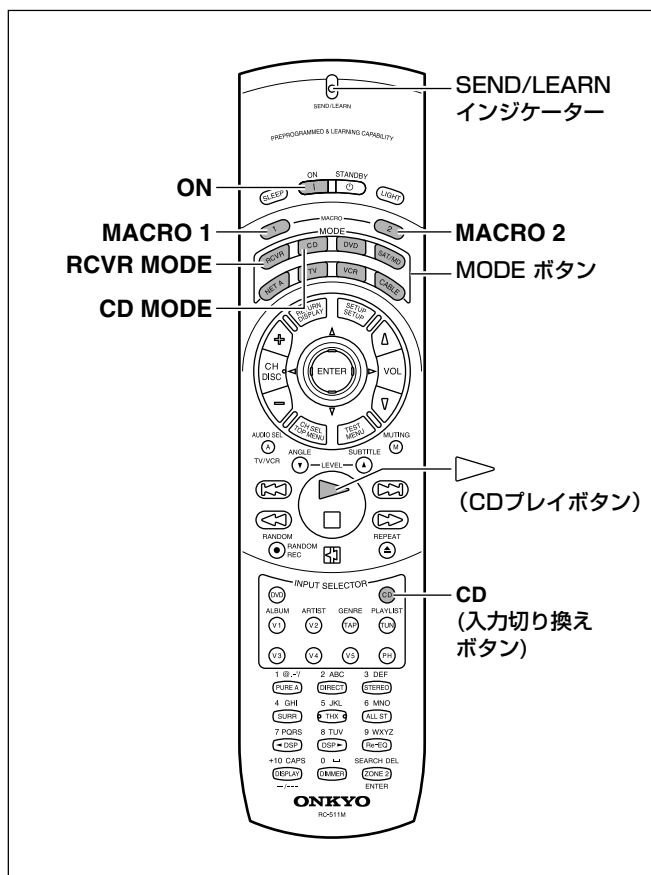
- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 操作を間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- MODEボタンへの登録ボタンの数が多いときは、手順2で、SEND/LEARNインジケーターが最長で20秒間点灯し続けることがありますが、故障ではありません。

マクロ機能を使う

マクロ機能とは?

連続した操作（最大16操作）をリモコンの1つのボタンに記憶させることのできる機能です。たとえば、CDプレーヤーで演奏するには、次のような操作が必要になります。

1. RCVR MODEボタンを押す
2. ONを押す
3. 入力切り換え部のCDボタンを押す
4. CD MODEボタンを押す
5. 再生 (▷) ボタンを押す

マクロ機能を使うと、上記の5つの操作を、2つのボタン操作で行うことができます。

ご注意

- マクロに記憶させたあとで、その中の操作ボタンを消去したり、別の信号を記憶させた場合は、その操作ボタンは働かなくなります。このような場合は誤動作を防ぐため、再度マクロ学習をさせ直してください。
- マクロ信号は、0.5秒間隔で次々に送信されます。そのため操作する機器によってはひとつの動作が0.5秒で完了せず、次の信号が読み取れない場合があります。このような時は、マクロを記憶させるときに連続したボタン操作の間でそのMODEボタンを押すと、約0.5秒の間隔をさらにあけることができます。

マクロモード1、2を学習させる

マクロ機能を使うと、MACROボタンを押すだけで、ひとつながりの操作をすることができます。マクロ機能では、記憶させることのできるマクロは2通りです。たとえば、左の操作をMACROボタンに記憶させるには、次のように操作します。

1. **希望のMODEボタン（CD　MODEボタン）を押しながら、MACRO1（または2）ボタンを押し、指を離す**
   CD　MODEボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが点灯し、CD MODEボタンが点灯します。MODE MACROボタンを押すと、SEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。
2. **記憶させたい操作ボタンを、操作順に連続して押す（RCVR MODE→ON→CD（INPUT SELECTOR）→CD MODE→▷)**
   各ボタンを押すたびに、SEND /LEARNインジケーターが消え、指を離すと再び点灯します。
3. **MACRO1（または2）ボタンを押して終了する**
   SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。
4. **マクロを実行して、正しく記憶されたかを確かめる**

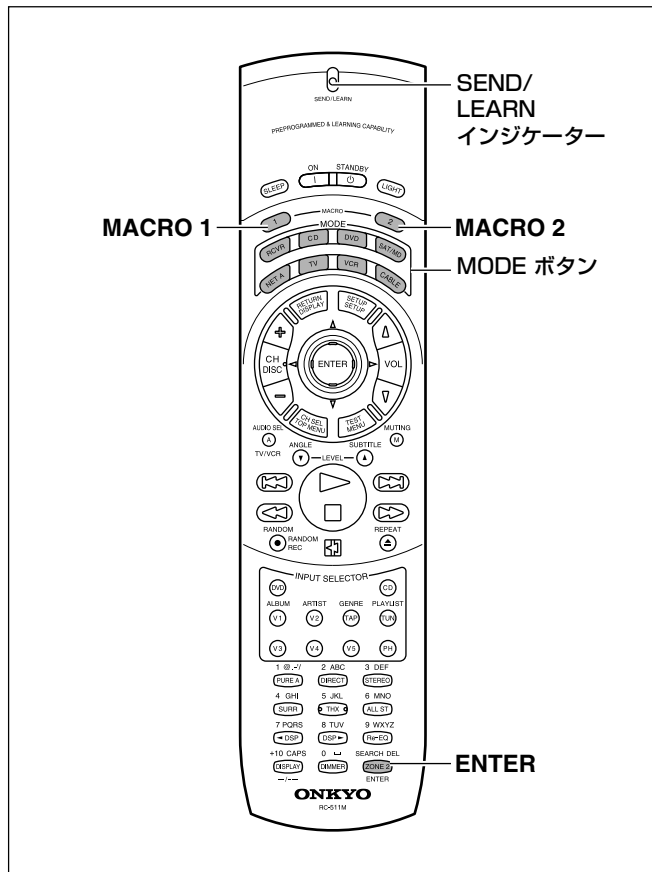
ご注意

- 連続して記憶できるボタン操作は16個までです。17個目を記憶させようとしても16個までで終了します。
- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、記憶モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 操作を間違ったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、記憶モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。

マクロを実行する

リモコンに記憶させたマクロを実行するには、下記のように操作します。新しいマクロを記憶させたときは、必ず一度実行してみて、正しく動作することを確認してください。

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて、MACRO1（または2）ボタンを押す

マクロを転送し終えるまで時間がかかる場合がありますので、SEND/LEARNインジケーターが消えるまで、リモコンをリモコン受光部に向けておいてください。

MACRO（マクロ）ボタンに記憶させたマクロ操作を消去する

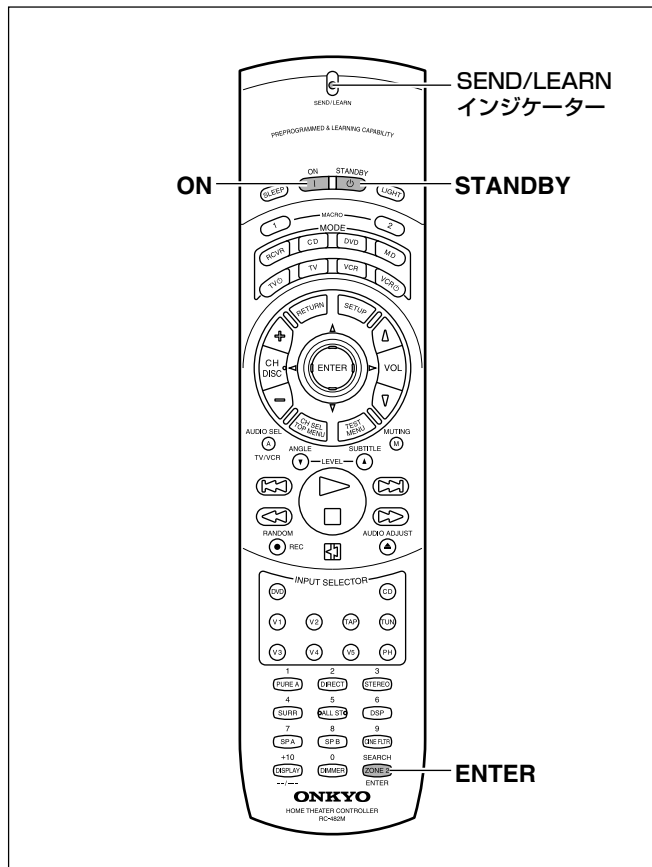
1. 消去したいボタンのあるMODEボタンを押しながら、MACRO1（または2）ボタンを押し、指を離す

MODEボタンを押すと、MODEボタンが点灯し、SEND/LEARNインジケーターが点灯します。MACROボタンを押すとSEND/LEARNインジケーターが消え、指を離すと1回だけ点滅します。

2. MACRO1（または2）ボタンをもう一度押す

指を離すと、SEND/LEARNインジケーターが2回ゆっくり点滅します。これで手順1で押したMODEボタンのマクロは消去されます。

ご注意

- 操作の途中で、30秒以上ボタン操作をしなかったときは、SEND/LEARNインジケーターが3回すばやく点滅し、消去モードが解除されます。そのときは、手順1から操作してください。
- 手順2でMODE MACRO以外のボタンを押すと、新しいマクロとして上書きされてしまいます。

リモコンコードとマクロ操作をすべて消去する

この操作を行うと、リモコンに記憶させたすべてのコードとマクロが消去され、リモコンが初期設定の状態に戻ります。したがって、初期設定のリモコンでは効果はありません。

1. 電池カバーを開け、電池を取り出す

2. ONボタンとSTANDBYボタンを同時に押しながら，電池を正しく入れ、ボタンから指を離す

SEND/LEARNインジケーターがゆっくり点滅します。

3. ENTERボタンを押す

SEND/LEARNインジケーターが約10秒間点灯してから、消えます。

リモコンに記憶させたすべてのコードとマクロが消去され、リモコンが工場出荷時の状態に戻ります。

ご注意

- 手順2から手順3へは、すばやく操作してください。手順2の状態でそのままにしておくと、電池が消耗してしまいます。
- 手順3でENTER以外のボタンを押すと、消去は実行されません。その場合は、手順1から操作しなおしてください。

マクロ機能を使う

マクロモード設定メモ

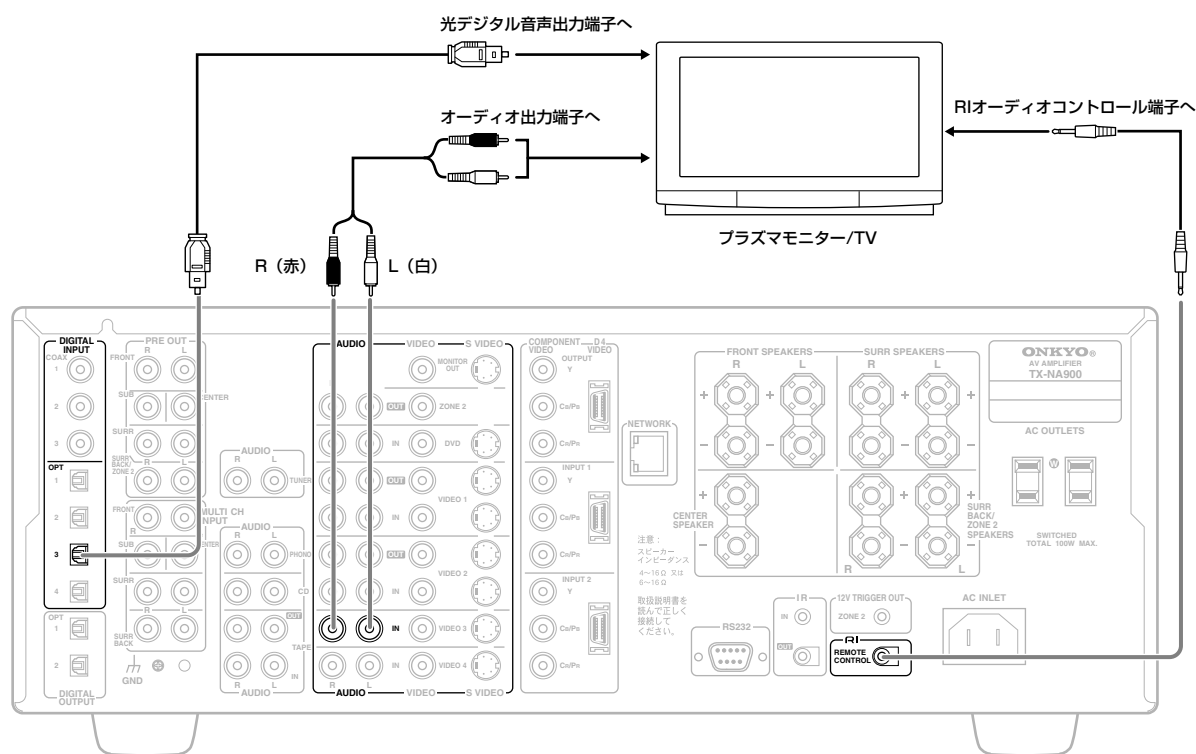
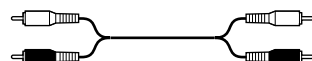
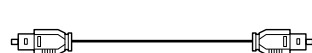
MACRO	MACRO 1	MACRO 2
操作 1		
操作 2		
操作 3		
操作 4		
操作 5		
操作 6		
操作 7		
操作 8		
操作 9		
操作 10		
操作 11		
操作 12		
操作 13		
操作 14		
操作 15		
操作 16		

RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機（TX-NA900）は、外部オーディオ機器をコントロールするためのRIオーディオコントロール端子を持つテレビと接続すると、次のような動作が可能になります。

・ テレビの電源を入れるとTX-NA900も自動的に電源が入り、入力がVIDEO 3に切り換わります。
  また、電源を切る（スタンバイにする）と、TX-NA900も自動的にスタンバイ状態*になります。
  * TX-NA900で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態にはなりません。
・ テレビに付属のリモコンでTX-NA900の音量調整、ミューティング（消音）ができます。
  このとき、テレビの音声は消えます。
・ TX-NA900のみをスタンバイにすると、テレビはついたままで音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量調整、消音）をコントロールできるようになります。

連動動作可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RIオーディオコントロール端子が付いているかどうかをご確認ください。
※東芝製テレビにてすでに対応しています。（2002年9月現在）

イラストにしたがって、接続をしてください。

接続用のケーブルやコードについては、対応しているテレビの取扱説明書をご覧ください。

1. テレビの音声出力（オーディオ出力右/左）端子とTX-NA900のVIDEO 3音声入力（VIDEO 3 IN L/R ）端子を接続する

2. モノラルオーディオコードでテレビのRIオーディオコントロール端子とTX-NA900のRI端子を接続する

3. テレビの光デジタル音声出力端子とTX-NA900のDIGITAL INPUT OPTICAL 3端子を接続する
   テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は、接続する必要がありません。

※RI端子に他のオンキヨー製品をつないでいるときは、そのオンキヨー製品のRI端子とテレビのRIオーディオコントロール端子を接続してください。複数のオンキヨー製品をRI接続したいときも同様に、順送りにRI端子どうしをつないで、最後のRI端子とテレビのRIオーディオコントロール端子を接続してください。

その他

故障?と思ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店、またはオンキョーサービスステーションまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名TX-NA900」と「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
電源	● 電源が入らない。	● 電源プラグが抜けている。 ● 外部ノイズが本機内部のマイクロコンピューターに影響した。	● 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。 ● 電源プラグを一度コンセントから抜き、5秒以上たってから再度つなぎなおしてください。	13、35 35
	● 電源は入るが、音が出ない。	● “Muting”表示されている。 ● ピンコードやスピーカーコードの接続が正しくない。	● リモコンのMUTINGボタンを押してMuting表示を消してください。 ● もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。	37 24～34
	● 再生しているソースの音が聞こえない	● 入力切り換えが演奏したいソースになっていない。 ● ヘッドホンを接続している。	● 入力切り換えで演奏したいソースを選んでください。 ● 音量を下げてからヘッドホンをはずしてください。	– –
	● ふいに電源が切れ、電源を入れ直してもまた切れた。	● アンプ保護回路が作動した。	● ただちに電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店もしくはオンキヨーサービスステーションにご連絡ください。	–
スピーカー	● センタースピーカーの音が小さい、または音が出ない。	● スピーカーコードが接続されていない。 ● リスニングモードによってセンタースピーカーからの音の出方が異なる ● センタースピーカーの設定が正しくない。 ● センタースピーカーの音量が正しく調整されていない。	● アンプとの接続を確認してください。 ● STEREOとDIRECTのときは、センタースピーカーからの音声出力はありません。また、リスニングモードによって、センタースピーカーからの音の出方が異なります。 ● センタースピーカーを接続しているときは、「1-1. Speaker Configサブメニュー」の「c. Center」の設定を「Large」または「Small」にしてください。 ●「1-3. Level Calibrationサブメニュー」の「c. Center」を適切なレベルにしてください。	31 – 47 49
	● サブウーファーから音が出ない。	● サブウーファーの設定が正しくない。	●「1-1. Speaker Configサブメニュー」の「a. Subwoofer」の設定を確認してください。	47
	● サブウーファーの音が小さい。	● サブウーファーのレベルが小さい。 ● ソースにLFEチャンネルの音があまり含まれていない。	●「1-3. Level Calbrationサブメニュー」の「h. Subwoofer」を適切なレベルにしてください。 ● ソースにLFEチャンネルの音があまり含まれていない場合は、レベルを上げても効果はありません。	49
	● ブーンという音や低音のノイズが聞こえる。	● レコードプレーヤーのアース（GND）接続に原因がある。 ● ピンコードがノイズの影響を受けている。	● アース線を接続したりはずしたりして、ノイズの小さくなる方にしてください。 ● ピンコードを動かしてみて、ノイズがいちばん小さくなるところに固定してください。	– –
	● 音量を上げるとハウリングがおこる。	● レコードプレーヤーとスピーカーとの距離が近すぎる。	● 両機器を互いに離し設置してください。	–
	● 耳障りな雑音や引っ掻き音が聞こえる。または、高音域が明瞭に聞こえない。	● レコードプレーヤーのレコード針が摩耗したり汚れているなど、他機に原因がある。 ● 高音域が強すぎる。	● 他機の取扱説明書もあわせて参照し、確認してください。 ●「3-1. Tone control（トーン コントロール）サブメニュー」で「Treble（トレブル）」を調節してください。	– 58

故障?と思ったときは

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
音声と映像	● 希望の映像が出てこない。	● 接続が正しくない。 ● 「Input Setup」の「Video Setup」が正しくない。	● もう一度接続を確認してください。プラグやコード類はしっかりと接続してください。 ● 設定を確認してください。	26~29 52
	● セットアップメニューがテレビ画面に表示されない。	● 接続が不完全。	● 接続を確認してください。	27
	● 映像と音声が違う。	● 接続が間違っている。 ● 「2-3.　Video Setupサブメニュー」の設定が正しくない。	● 接続を確認してください。 ● 設定を確認してください。	26~29 52
	● 音が聞こえない。選んだ入力と違う音声が出る。	● 「2-1.　Digital Setupサブメニュー」の設定が正しくない。	● 設定を確認してください。	50
	● テレビに映像が出ない。	● テレビの入力切り替えが正しくない。 ● 映像コードの接続が不完全。 ● COMPONENT VIDEO INPUT から入った信号はCOMPONENT VIDEO OUTPUTおよびD4出力端子にしか出力されません。	● 正しい入力を選んでください。 ● 正しく接続してください。 ● 入力信号と出力信号の接続を確認してください。	– 27 26~29
	● テレビに映像が出なくなり、表示部も消えている。	● リスニングモードがピュアオーディオになっている。	● ピュアオーディオモードでは、より良い音を再現するために映像信号をカットしています。映像を出したい場合は、他のリスニングモードに変えてください。	38
リモコン	● 本体のボタンで操作できるのに、リモコン操作ができない。	● リモコンに電池が入っていない。 ● 電池の寿命がなくなっている。	● 乾電池を正しく入れてください。 ● 新しい乾電池と交換してください。	13 13
	● リモコン操作ができない。	● リモコンがリモコン受光部に向けられていない。 ● リモコンを操作する位置が本機から離れ過ぎている。 ● RCVRモードになっていない。	● リモコン受光部に向けて操作してください。 ● 本機から5m以内の場所から操作してください。 ● RCVR MODEボタンを押してください。	13 13 35
その他	● パラメーターが設定できない。	● リスニングモードによっては設定できないものがあります。	● オーディオアジャストの説明をご参照ください。	58~63
	● ドルビーEX、DTS-ES再生ができない	● 「0-2.Surr Back/Zone 2サブメニュー」の「a.Surr Back/Zone 2」の設定が「Zone 2」になっている。 ● 「1-1. Speaker Configサブメニュー」の「e.Surr Back」の設定が「None 」になっている。 ● サラウンドバック用スピーカーが接続されていない。	● 「a.Surr Back/Zone 2」の設定を「Surr Back」にしてください。 ● 「e.Surr Back」の設定を「Large」または「Small」にしてください。 ● サラウンドバック用スピーカーを接続してください。	46 47 31
	● Re-EQが働かない。	● リスニングモードがTheater-Dimensional、THXまたはDirect/Pure Audioになっている	● 65ページの表をご覧ください。	65
	● LATE NIGHTが働かない。	● 再生ソースがドルビーデジタルでない。	● “DOLBY DIGITAL”表示が点灯していることを確認してください。	–
	● アナログマルチチャンネル音声が出力されない。	● マルチチャンネルの設定になっていない。 ● その入力ソースの音声がMULTI CHANNEL INPUTに接続されていない。	● その入力ソースで「2-2.Multichannel Setupサブメニュー」で「Yes」に設定してください。 ● 接続を確認してください。	51 34
	● ZONE2に接続した機器が作動しない。	● 接続が正しくない。	● 接続を確認してください。	32
	● デジタルソースで、ソフトによって音が出たり出なかったりする。	● デジタル入力のフォーマットが固定されているため、それ以外のフォーマットのときに音が聞こえない。	● 「2-1. Digital Setupサブメニュー」で「b. Digital Format」を「All」にしてください。	51
	● DTSソースやPCMソースなど、デジタルソースを再生するとノイズが入ったり出だしが切れたりする。		● 「2-1. Digital Setupサブメニュー」で「b. Digital Format」を各々のソースと同じフォーマットにして再生してみてください。	51

エラーメッセージ一覧

メッセージ	意味
“Not available With Headphones Use”	ヘッドホンが接続されているため、操作はできません。
“Not available With Multichannel Use”	マルチチャンネルを使用しているため、操作できません。
“Not available In This Sp Config”	現在のスピーカーコンフィグ設定では働きません。
“Not available In Zone 2 Mode”	Zone 2モードを使用しているので、この設定はできません。
“Only available With Dolby D”	Dolby Digital以外の設定はできません。
“Not available in this Listening Mode”	現在のリスニングモードでは働きません。
“Not available with this signal”	現在の入力ソースでは、リスニングモードが選べません。
“Not available in Pure Audio mode”	Pure Audioになっているため、操作はできません。
“Surr Back/Zone 2 setting is Surr Back”	「0-2.Surr Back/Zone 2サブメニュー」の「a.Surr Back/Zone 2」設定が「Surr Back」になっているので働きません
“Surr Back/Zone 2 setting is Zone 2”	「0-2.Surr Back/Zone 2サブメニュー」の「a.Surr Back/Zone 2」設定が「Zone 2」になっているので働きません
“Not available with this Surr Back/Zone 2 setting”	現在の「0-2.Surr Back/Zone 2サブメニュー」の「a.Surr Back/Zone 2」の設定では操作できません。
“Not available with Muting”	ミューティングがかかっているので操作できません。
“Zone 2 is not On”	Zone 2がOnになっていないので働きません。

※リスニングモードなどの設定をすべて初期（工場出荷時の設定内容）化したいときは、電源を入れた状態でVIDEO　1ボタンを押したままSTANDBY/ONボタンを押してください。表示部に“CLEAR”と表示され、スタンバイ状態になります。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象にはなりませんので大事な録音・録画をするときには、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

仕様

■アンプ（音声）部

定格出力

全てのチャンネル（2チャンネル駆動時）

8Ω	110W（20Hz〜20,000Hz） 全高調波歪率：0.08%以下
6Ω	145W（1,000Hz） 全高調波歪率：0.1%以下

ダイナミックパワー（2チャンネル駆動時）

4Ω	220W

混変調ひずみ率：
定格出力時で0.08%
1W出力時で0.08%

ダンピングファクター：8Ω負荷時で60

入力感度/インピーダンス
PHONO：2.5mV/50kΩ
LINE入力：200mV/50kΩ

MULTI CHANNEL INPUT
FRONT LEFT/CENTER/RIGHT、SURROUND LEFT/RIGHT、SURROUND BACK LEFT/RIGHT：
200mV/50kΩ
SUBWOOFER：36mV/50kΩ

COAXIAL 1、2、3（DIGITAL）：0.5Vp-p/75Ω

DVD、VIDEO 1、2、3、4、5
VIDEO（コンポジット信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（Y信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（C信号）：0.28Vp-p/75Ω
COMPONENT/（D4） VIDEO：
1Vp-p/75Ω（Y）
0.7Vp-p/75Ω（CR,CB）

定格出力/インピーダンス
REC OUT：200mV/470Ω
PRE OUT：1V/470Ω

VIDEO、MONITOR
VIDEO（コンポジット信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（Y信号）：1Vp-p/75Ω
S VIDEO（C信号）：0.28Vp-p/75Ω
COMPONENT/（D4）VIDEO：
1Vp-p/75Ω（Y）
0.7Vp-p/75Ω（CR,CB）

ZONE 2 LINE OUT：100mv、470Ω

PHONO最大許容入力
120 mV RMS（1,000Hz、0.5% THD時）

周波数特性
10Hz〜100kHz、+1/−3dB
（CD入力、ダイレクトモード）

RIAAデビエーション：20〜20,000Hz、±0.8dB

トーンコントロール
BASS：±10dB（50Hz時）
TREBLE：±10dB（20,000Hz時）

SN比（ダイレクト時）
PHONO：80dB（IHF A、5mV入力時）
CD/TAPE：110dB（IHF A、0.5V入力時）

ミューティング：Setupの設定による

■一般仕様

使用電源：AC100V、50/60Hz
消費電力：513W
待機電力：2.5W
外形寸法：435（幅）×175（高さ）×459（奥行）mm
質量：18.4kg

■リモコンRC-511M

方式：赤外線
信号到達距離：約5m
使用電池：単3型（1.5V）乾電池 2個

※ 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

ONKYO

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お客様ご相談窓口	カスタマーセンター 受付 9：30～17：30（土日祝、弊社休日除く） ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e-mail： ホームシアター/オーディオ製品 → customer@onkyo.co.jp マルチメディア製品 → mmcadmin@onkyo.co.jp ＊TEL. ： ナビダイヤル 0570－01－8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または 072－831－8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX. ： 072－831－8124 ＊はがき ： 〒572－8540 大阪府寝屋川市日新町２－１ オンキヨー株式会社 カスタマーセンター行

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ → http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ → http://www.e-onkyo.com

修理窓口

修理のご依頼は、取扱説明書の「困ったときは」、「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障で、お困りの場合は、下記へご相談ください。

地区	窓口
北海道地区	札幌サービスステーション TEL 011-747-6612 FAX 011-747-6619 〒001-0028 札幌市北区北２８条西5-1-28 トーシン北28条ビル
青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島地区	仙台サービスステーション TEL 022-297-0571 FAX 022-257-7330 〒984-0051 仙台市若林区新寺4-9-5 第二丸昌ビル1F
栃木・群馬・埼玉・新潟地区	大宮サービスステーション TEL 048-651-8612 FAX 048-651-9137 〒330-0034 埼玉県さいたま市土呂町2-29-2 高安ビル１F
千葉・茨城地区	千葉サービスステーション TEL 043-296-3915 FAX 043-296-3912 〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷５丁目２番11号
東京(23区)地区	東京サービスセンター TEL 03-3861-8121 FAX 03-3861-8124 〒111-0054 東京都台東区鳥越1-2-3 ハマスエビル
東京(23区を除く)・山梨・長野地区	八王子サービスステーション TEL 0426-32-8030 FAX 0426-36-9312 〒192-0914 東京都八王子市片倉町358番地
神奈川地区	横浜サービスステーション TEL 045-322-9342 FAX 045-312-6603 〒220-0072 横浜市西区浅間町1-13 共益ビル５F
岐阜・静岡・愛知・三重地区	名古屋サービスステーション TEL 052-772-1229 FAX 052-772-1331 〒465-0013 名古屋市名東区社口１丁目1001番
富山・石川・福井・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山地区	大阪サービスセンター TEL 06-6576-7620 FAX 06-6576-7604 〒552-0013 大阪市港区福崎３丁目1番１４８号
鳥取・島根・岡山・広島・山口(下関を除く)地区	広島サービスステーション TEL 082-262-3315 FAX 082-262-6571 〒732-0057 広島市東区二葉の里2-8-28
徳島・香川・愛媛・高知地区	高松サービスステーション TEL 087-868-5662 FAX 087-868-5672 〒760-0079 高松市松縄町44-8 西原ビル1F
山口(下関)・福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄地区	福岡サービスステーション TEL 092-418-1357 FAX 092-418-1358 〒812-0006 福岡市博多区上牟田3-8-19 みなみビル202

オンキヨーサービス認定店（オンキヨー製品の修理を委託しているサービス認定店です。）

サービス認定店
静岡サービス認定店 TEL 0543-46-6502 FAX 0543-46-7091 〒424-0063 静岡県清水市能島171-15
北陸サービス認定店 TEL 0776-27-1868 FAX 0776-27-1768 〒910-0001 福井県福井市大願寺3-5-9
岡山サービス認定店 TEL 086-274-5840 FAX 086-274-5840 〒703-8271 岡山県岡山市円山13
熊本サービス認定店 TEL 096-364-1475 FAX 096-364-1475 〒862-0970 熊本県熊本市渡鹿7-15-18
沖縄サービス認定店 TEL 098-876-9195 FAX 098-876-9195 〒901-2104 沖縄県浦添市当山558番地の8 キャッスルサイド浦添102号

2002年8月現在　お客様相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

SN 29358031H

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。

所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。

保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。

この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名（TX－NA900）」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

修理を依頼される時は、下の事項を販売店または当社サービスステーションまでお知らせください。

お名前

お電話番号

ご住所

製品名（TX-NA900）

できるだけ詳しい故障状況

ご購入されたときにご記入ください。
サービスを依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　　（　　）
メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくは「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎03（3861）8121　●大阪サービスセンター　☎06（6576）7620

Printed in Japan
D0210-1

SN 29343413